

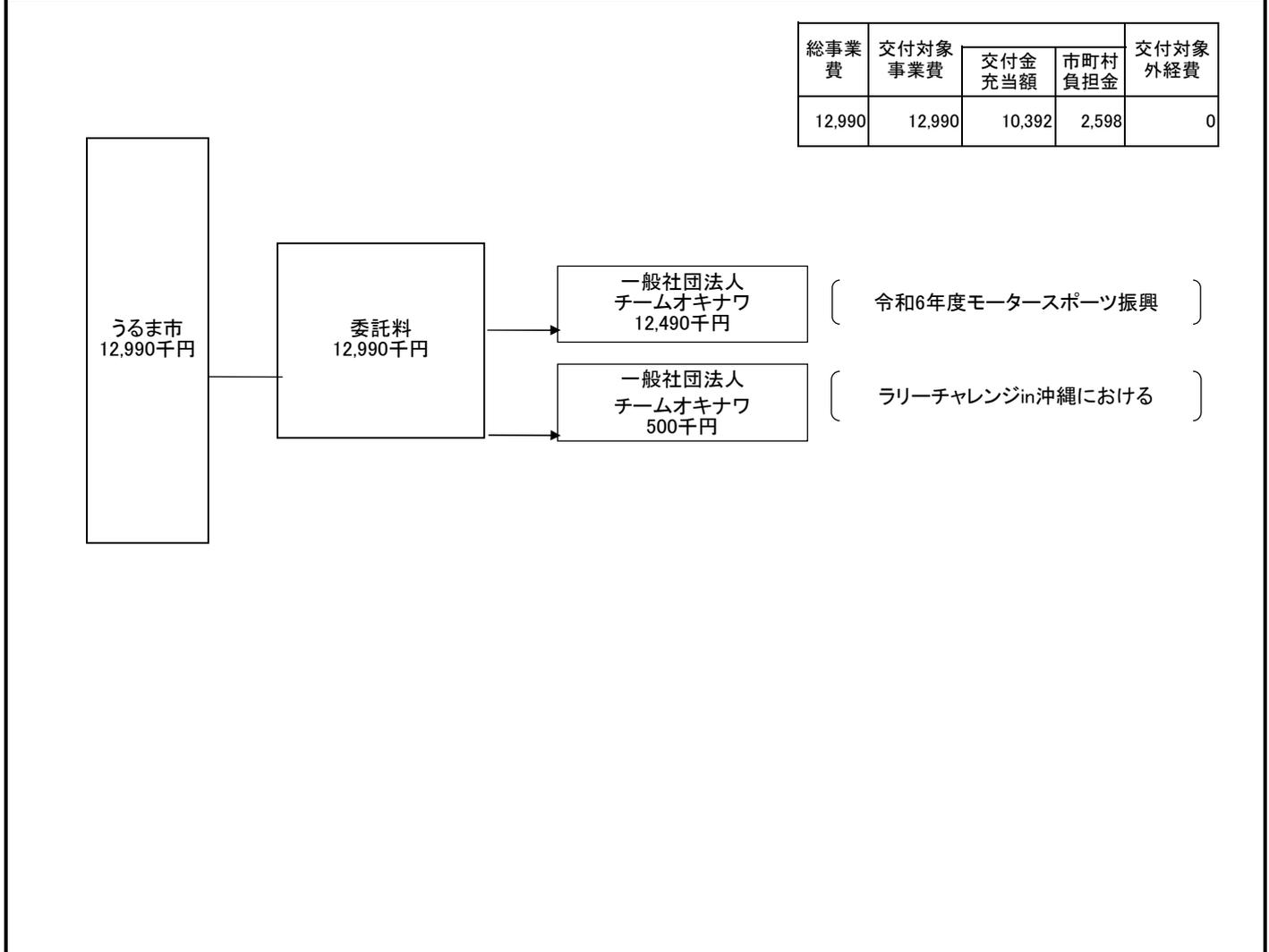
| | | | | | | | |
|---|--|---|-------------|--------------|----------------------|-------------|---------|
| 市町村名 | うるま市 | | | | | | |
| 令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】 | | | | | | | |
| 事業番号・事業名 | 1-② | モータースポーツ振興推進事業 | | | 新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 | 第4章-2-(9)-ア | |
| 担当部課名 | 企画部 プロジェクト推進1課 | 事業実施(予定)年度 | 令和4年度～令和6年度 | 沖縄振興基本方針該当箇所 | スポーツ関連産業の振興と地域の活性化 | | |
| 事業内容 | R4年度に実施した可能性調査の結果を基に、本市において実現可能性のあるモータースポーツ競技の実証イベントや民間企業と連携したモータースポーツイベントを実施することにより、市民ニーズの把握や意識の醸成を図るとともに、観光誘客及び観光消費につなげる。また、令和7年度以降の民間主体による自走化に向けた課題の整理及び、必要な取り組みの実施及び検証を行う。 | | | | | | |
| 効果発現年度 | <input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度) | | | | | | |
| 実施方法 | <input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他() | | | | | | |
| 予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース) | | R4年度 | R5年度 | R6年度 | R7年度 | R8年度 | |
| | 予算の状況 | (a) 当初予算額 | 5,270 | 10,000 | 13,000 | | |
| | | (b) 予算現額 | 5,270 | 10,500 | 13,000 | | |
| | | (c) 増減額(b-a) | 0 | 500 | 0 | 0 | 0 |
| | | (d) 繰越額 | 0 | 0 | | | |
| | | A. 計(b+d) | 5,270 | 10,500 | 13,000 | 0 | 0 |
| | B. 執行済額 | | 5,212 | 10,380 | 12,990 | | |
| | うち交付金充当額 | | 4,169 | 8,303 | 10,392 | | |
| | 次年度繰越額 | | 0 | 0 | | | |
| | 執行率(%) (B/A) | | 98.9% | 98.9% | 99.9% | #DIV/0! | #DIV/0! |
| 予算の状況の説明 | | 不用額については、委託費の契約残によるものである。 | | | | | |
| 活動目標(指標)及び達成状況 | 活動目標(指標) | | 達成状況 | | | | |
| | | | R4年度 | R5年度 | R6年度 | R7年度 | |
| | モータースポーツ振興可能性調査の実施 | | 目標 (完了) | () | () | () | |
| | | | 実績 | 完了 | | | |
| | 実証イベントの開催 | | 目標 () | (1件) | (1件) | () | |
| | | 実績 | | 1件 | 1件 | | |
| 達成状況説明 | | 実証イベントの開催にあたり、モータースポーツ関係団体や会場となる施設所有者、会場周辺地域の自治会、その他関係機関等との事前調整を行い、当初計画の通り、実証イベント(R7.1.19)を実施する事ができた。また、実証イベントの他、民間企業が主催するモータースポーツイベント(R7.3.16)へ出展を行い、市のモータースポーツ振興の取り組み及び観光情報の発信を行った。 | | | | | |
| 成果目標(指標)及び進捗状況 | 成果目標(指標) | | 基準値(年度) | R5年度 | R6年度 | R7年度 | 目標値(年度) |
| | 実証イベントの来場者数 | | 目標 () | (5,000人) | (2,000人) | () | () |
| | | | 実績 | 1,637人 | 1,144人 | | |
| | 【参考指標】 | | 目標 () | (1,000人) | () | () | () |
| | 民間企業が主催するモータースポーツイベントにおける出展ブースへの来場者数 | | 実績 | 960人 | | | |
| 進捗状況説明 | | ・成果目標については、昨年度の実施結果や会場及び周辺地域での駐車場確保等を鑑み、2,000人と設定。 ・実証イベントの会場については、サーキットコースが常設されており継続的なイベント開催が比較的容易な事や、ホテルが隣接しておりイベント参加とセットとなった宿泊が見込め、より滞在型観光推進への効果が高い事から、昨年度に引き続き伊計島AJリゾートアイランドホテルにて実施。 ・イベント当日は、終始雨となり目標値を下回る実績となったが、競技参加者全員(ミニバイク98名、カート20名、関係者含め約200名)の宿泊や、来場者満足度90%以上という結果から、観光振興につながる質の高い効果を得る事が出来た。 ・メイン会場にてうるま市のPRとして、県内外から訪れる来場者へ実証イベントに関する展示や観光プロモーション動画の放映、各種観光PRパンフレットの配布等のほか、うるま市SNSフォローを条件とした抽選会を実施した。 | | | | | |

| | 推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化) | 改善余地の検証(効率の更なる向上の視点) |
|-------|--|--|
| 取組の検証 | (実証イベント) ・次年度から新たにR7～R9の3年計画として、市主催のイベントから民間主催のイベントへ補助金を交付する形でイベントを実施する予定となっており、R10年度以降の民間自走化を見据え、引き続き、関係団体や周辺地域の理解・協力が得られるよう留意しながら、自走化に向けた自主財源の確保等の課題の整理や必要な取り組みを実施する。 | (実証イベント) ・雨対策…イベント当日は終始雨だったため、計測器などの電子機器の不具合や観客が避難できる場所(テントなど)の確保などの検討。 ・仮設トイレ…イベント開始早々、トイレが使用できなくなったこと。また、トイレの数の見直しも要検討。 ・同乗体験コンテンツ…好評だったため、次年度においても、より多くの受け入れができるよう、競技プログラムの工夫や安定した運営体制を確立し、来場者の満足度向上を図る。 |
| | (民間企業が主催するモータースポーツイベントへの出展等) R6年度は、名護市をメイン会場とし、競技コースは名護市・本部町で3コース(林道コースは2本)設定された。R7年度においても、市内におけるメイン会場の設定の検討、また公道を利用したイベント実施の検討のうえ、引き続き、関係団体等との調整を適宜行う。 | |

今後の取り組み方針

(実証イベント)
R7年度においては、R5～R6年度に実施した実証イベントの結果として、モータースポーツによる観光誘客及び観光消費につながる一定の効果が得られたことから、将来的な民間自走化を見据え、新たにR7～R9の3年計画の補助事業とし、市内でモータースポーツイベントを実施する団体に対し補助を行い、引き続きイベントを継続するとともに、自走化に向けた自主財源の確保等の課題の整理や必要な取り組みを実施する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



| 資金の流れ、費目・点検評価 | 評価 | 点検項目 | 評価に関する説明 |
|---------------|----|--------------------------------|--|
| | ○ | 支出先の選定方法は妥当か。 | ○委託事業者は公募型プロポーザル方式及び市契約規則に基づき選定しており、妥当であったと考えている。 |
| | ○ | 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。 | ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 |
| | - | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | ○モータースポーツ振興を図ることにより、市の観光消費額の拡大につながり、税収入の増加等、市全体の利益に寄与することから適正と考える。 |
| | ○ | 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | ○費目、使途については、目的に即し必要なものであったと判断した。 |

| | |
|------|------|
| 市町村名 | うるま市 |
|------|------|

令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

| | | | | |
|----------|---------------|------------------|----------------------|---------------|
| 事業番号・事業名 | 1-③ | 勝連城跡周辺文化観光拠点整備事業 | 新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 | 第4章-3-(2)-ウ |
| 担当部課名 | 企画部プロジェクト推進2課 | 事業実施(予定)年度 | 平成24年度～令和8年度 | 多彩かつ質の高い観光の推進 |
| | | | 沖縄振興基本方針該当箇所 | Ⅲ-1-(1) |

事業内容
 世界遺産として登録されている勝連城跡は、周辺施設の整備が不十分であることから地域への経済波及効果は薄い状況にある。そこで、勝連城跡の世界遺産としての価値を保全しつつ、文化を軸とした地域振興を図るため、体験・交流を含めた複合的な文化観光拠点の整備を実施する。

効果発現年度
 当年度 後年度(令和10年度)

実施方法
 直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

| | | R2年度 | R3年度 | R4年度 | R5年度 | R6年度 |
|---|--------------------------------------|-----------|-----------|---------|--------|---------|
| 予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース) | 予算の状況 | | | | | |
| | (a) 当初予算額 | 1,462,976 | 1,597,588 | 30,000 | 95,059 | 110,000 |
| | (b) 予算現額 | 1,417,103 | 1,597,588 | 21,079 | 95,059 | 110,000 |
| | (c) 増減額(b-a) | ▲ 45,873 | 0 | ▲ 8,921 | 0 | 0 |
| | (d) 繰越額 | 0 | | 0 | 0 | 0 |
| | A. 計(b+d) | 1,417,103 | 1,597,588 | 21,079 | 95,059 | 110,000 |
| | B. 執行済額 | 1,417,103 | 851,791 | 21,079 | 95,059 | 109,745 |
| | うち交付金充当額 | 1,133,681 | 681,432 | 16,863 | 76,047 | 87,795 |
| | 次年度繰越額 | | | 0 | | |
| 執行率(%) (B/A) | 100.0% | 53.3% | 100.0% | 100.0% | 99.8% | |
| 予算の状況の説明 | ・R6事業について委託3件を実施、255千円については執行残になります。 | | | | | |

| 活動目標(指標)及び達成状況 | 活動目標(指標) | 達成状況 | | | |
|----------------|--|-------------------------------|--|-------------|------------------|
| | | R3年度 | R4年度 | R5年度 | R6年度 |
| | | 魅力向上誘客強化委託業務実施 勝連城跡伐採・剪定業務 | 目標 (デジタルコンテナ制作業務の実施) 実績 デジタルコンテナ制作業務の実施 | (伐採業務委託の実施) | (魅力向上・誘客強化事業の実施) |
| 整備工事の実施 | 目標 (入口広場整備、植栽工事の実施) 実績 入口広場整備、植栽工事の実施 | () | (整備工事の実施) | () | |
| 達成状況説明 | ・R6事業について、委託3件を実施 | | | | |

| 成果目標(指標)及び進捗状況 | 成果目標(指標) | 基準値(年度) | R4年度 | R5年度 | R6年度 | 目標値(10年度) |
|----------------|--------------------|---------|----------|----------|----------|-----------|
| | | | ・委託業務の完了 | (完了) | (完了) | (完了) |
| | 文化観光展示施設(有料区域)入場者数 | 目標 | (25万人) | (26万人) | (10万人) | (15万人) |
| | | 実績 | 88,732人 | 110,593人 | 106,509人 | |

進捗状況説明
 ・整備の残りとしては、物販飲食エリアの土地造成工事をR7～R8に予定している。
 ・成果目標の来場者数について、R6に関しては達成することができた。
 ・コロナ禍や施設有料化を踏まえ、R7事業計画に係る目標成果を変更した。目標値も施設全体オープン時のR10年度15万人として見直した。

| | 推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化) | 改善余地の検証(効率の更なる向上の視点) |
|-------|---|--|
| 取組の検証 | <ul style="list-style-type: none"> ・R6の取組として目標の10万人を超えることができたが、施設整備後の全体供用開始においてR10年度の15万人を目標として指定管理者のノウハウを活かし達成していきたい。 ・R7年度以降については、指定管理者による施設管理の運用を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・民間事業者の視点や意見を参考にして整備工事への反映を検討する。 ・誘客事業の実施について、世界遺産を幅広く活用し、価値を上げるとともに来場者増加に繋がるニーズ等を把握する。 |

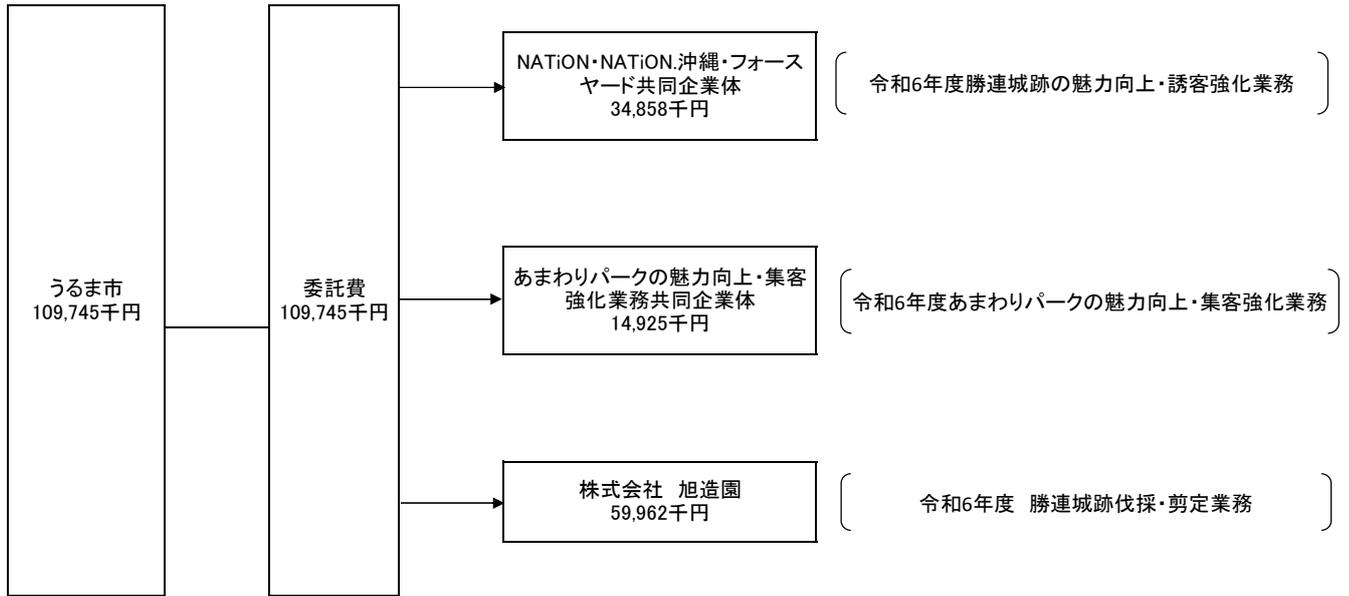
今後の取り組み方針

・県内では数少ないナイトコンテンツ造成を通して、新たな来場者の獲得に取り組むとともに、教育旅行等の周遊ツアーに当施設を組み込むための方策を検討する。

・PFI事業者と連携して文化観光エリアにおける土地造成を実施する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

| 総事業費 | 交付対象事業費 | 交付金充当額 | | 交付対象外経費 |
|---------|---------|--------|--------|---------|
| | | 市町村負担金 | | |
| 109,745 | 109,745 | 87,795 | 21,950 | 0 |



| 資金の 用途の 流れ 点検 評価 費目 | 評価 | 点検項目 | 評価に関する説明 |
|------------------------------------|----|--------------------------------|---|
| | ○ | 支出先の選定方法は妥当か。 | ○支出先については、内容に即した競争入札やプロポーザル方式(随意契約)により適切に選定している。 ○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。 |
| | ○ | 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。 | |
| | - | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | |
| | ○ | 費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | |

市町村名 うるま市

令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

Table with 4 columns: 事業番号・事業名 (1-④), 観光客誘客促進PR事業, 新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所, 第4章-3-(2)-ウ. Includes 担当部課名 and 事業実施(予定)年度.

事業内容: うるま市の魅力をPRをするため、県外でのプロモーション・市内イベントの実施・メディアを活用した情報発信を実施し、「観光のうるま」のイメージを定着させ、県内外からの誘客促進を図る。

効果発現年度: 当年度 (selected) or 後年度 ()

実施方法: 直接実施 (), 委託 (selected), 補助 (), 負担 (), その他 ()

Table with 7 columns: 予算額・執行額 (単位:千円), R2年度, R3年度, R4年度, R5年度, R6年度. Rows include (a)当初予算額, (b)予算現額, (c)増減額, (d)繰越額, A.計(b+d), B.執行済額, うち交付金充当額, 次年度繰越額, 執行率(%)(B/A).

Table with 5 columns: 活動目標(指標), 達成状況 (R3年度, R4年度, R5年度, R6年度). Rows include 県外でのプロモーション, 市内イベントの実施, メディアを活用した情報発信の実施, アンケート調査の実施. Includes 達成状況説明.

Table with 6 columns: 成果目標(指標), 基準値(年度), R6年度, 目標値(年度). Rows include SNSフォロワー数, 市YouTube登録者数, 主要観光施設の入場者数目標値. Includes 進捗状況説明.

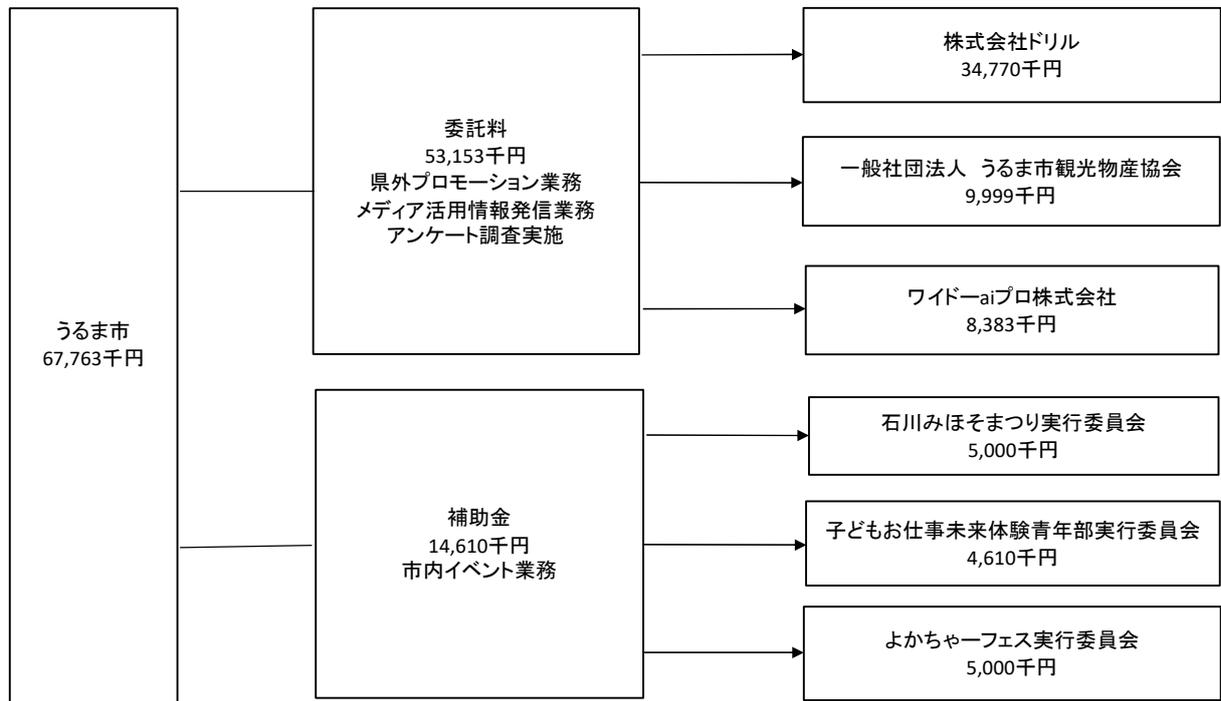
| 取組の検証 | 推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化) | 改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点) |
|-------|--|---|
| | 市内への誘客に向けて、市内観光事業者との意見交換、連携等、官民一体となった協働体制を図り、今後も実施していく必要がある。 | 県外催事やメディアを活用した情報発信等、誘客の手法を検証し、既存の手法だけではなく、新たなアイデアを含め効果的な手法を継続して検討していく必要がある。 |

今後の取り組み方針

県外催事(新規開拓含む)や市内イベント実施等のプロモーション活動の継続に加え、SNSのほか、テレビや雑誌等のメディアを活用した情報発信の強化を図る。また、市内観光事業者との連携等、官民一体となった協働体制を強化し、また、誘客する観光客の重点ターゲット(外国客含む)の絞り込みを行うなど、プロモーション戦略の強化を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

| 総事業費 | 交付対象事業費 | 交付金充当額 | 市町村負担金 | 交付対象外経費 |
|--------|---------|--------|--------|---------|
| 67,763 | 67,763 | 54,210 | 13,553 | |



| 資金の用途の点検・費目 | 評価 | 点検項目 | 評価に関する説明 |
|-------------|----|--------------------------------|---|
| | ○ | 支出先の選定方法は妥当か。 | ○委託事業者は、プロポーザル審査の実施等、地方自治法施行令第167条の2第1項第2号による随意契約をしており、妥当であったと考える。 ○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。 |
| | ○ | 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。 | |
| | — | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | |
| | ○ | 費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | |

| | | | | | | | |
|---|---|--|--|--------------|-----------------------|-------------|----------|
| 市町村名 | うるま市 | | | | | | |
| 令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】 | | | | | | | |
| 事業番号・事業名 | 2-① | うるま市の頑張る農業を応援します事業 | | | 新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 | 第4章-3-(7)-ア | |
| 担当部課名 | 農林水産部 生産振興課 | 事業実施(予定)年度 | 平成30年度～令和7年度 | 沖縄振興基本方針該当箇所 | おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備 | | |
| 事業内容 | 生産農家の安定生産と農業振興を図るため、災害に強い栽培施設等の導入等を行う。 | | | | | | |
| 効果発現年度 | <input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度) | | | | | | |
| 実施方法 | <input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他() | | | | | | |
| 予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース) | | R2年度 | R3年度 | R4年度 | R5年度 | R6年度 | |
| | 予算の状況 | (a) 当初予算額 | 30,000 | 40,000 | 40,000 | 50,000 | 30,000 |
| | | (b) 予算現額 | 37,920 | 36,430 | 49,200 | 50,000 | 14,518 |
| | | (c) 増減額(b-a) | 7,920 | ▲ 3,570 | 9,200 | 0 | ▲ 15,482 |
| | | (d) 繰越額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | A. 計(b+d) | 37,920 | 36,430 | 49,200 | 50,000 | 14,518 |
| | B. 執行済額 | | 37,920 | 36,430 | 44,900 | 13,656 | 14,518 |
| | うち交付金充当額 | | 30,336 | 29,144 | 35,920 | 10,924 | 11,614 |
| | 次年度繰越額 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 執行率(%) (B/A) | | 100.0% | 100.0% | 91.3% | 27.3% | 100.0% |
| 予算の状況の説明 | | 強化型パイプハウスの設置費用は不要となり減額となった。 | | | | | |
| 活動目標(指標)及び達成状況 | 活動目標(指標) | | 達成状況 | | | | |
| | | | R3年度 | R4年度 | R5年度 | R6年度 | |
| | 強化型パイプハウスの設置 | 目標 | (4,000㎡) | (3,000㎡) | (1,500㎡) | (0) | |
| | | 実績 | 4,896㎡ | 2,772㎡ | 1,242㎡ | 0 | |
| | 農業用機械等の導入 | 目標 | (0) | (1式) | (0) | (1式) | |
| | | 実績 | 0 | 1式 | 0 | 1式 | |
| 生産農家 | 目標 | (6戸) | (6戸) | (8戸) | (4戸) | | |
| | 実績 | 5戸 | 6戸 | 5戸 | 11戸 | | |
| 達成状況説明 | | 事業実施主体を年度初旬に市広報紙や農業委員会会議等において、広く周知して要望調査を実施した結果、農業用機械の導入について要望があった。い草生産農家11戸において共同利用のい草織機を6台導入することができ生産性向上が図られた。 一方、強化型パイプハウスの設置については、生産農家の一人が農地を確保することが出来ず、事業実施が困難となったことから、補助金の交付に至らず減額となった。 | | | | | |
| 成果目標(指標)及び進捗状況 | 成果目標(指標) | | 基準値(年度) | R4年度 | R5年度 | R6年度 | 目標値(年度) |
| | 強化型パイプハウスの設置 | 目標 | () | (4,000㎡) | (4,000㎡) | (4,000㎡) | (R6年度) |
| | | 実績 | | 3,000㎡ | 1,500㎡ | 0 | |
| | 農業用機械等の導入 | 目標 | () | (導入) | (導入) | (導入) | (R6年度) |
| | | 実績 | | 1式 | 0 | 6 | |
| | 進捗状況説明 | | 事業実施主体を年度初旬に市広報紙や農業委員会会議等において、広く周知して要望調査を実施した結果、農業用機械の導入について要望があった。い草生産農家11戸において共同利用のい草織機を6台導入することができ生産性向上が図られた。 一方、強化型パイプハウスの設置については、生産農家の一人が農地を確保することが出来ず、事業実施が困難となったことから、補助金の交付に至らず減額となった。 | | | | |

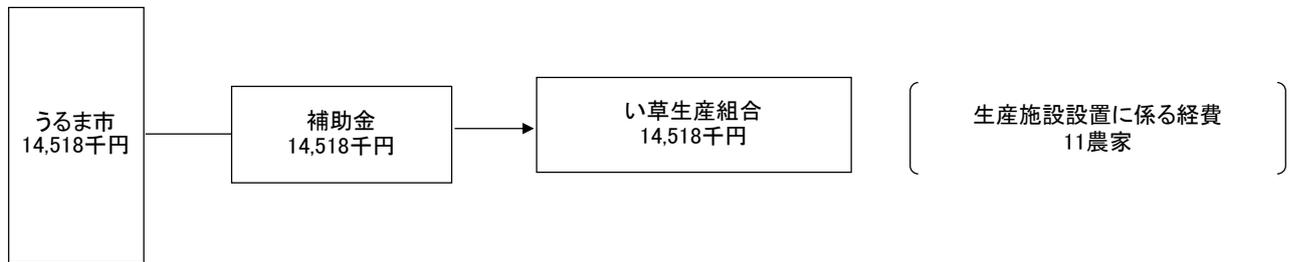
| 取組の検証 | 推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化) | 改善余地の検証(効率の更なる向上の視点) |
|-------|---|---|
| | ①大型台風や近年の不安定な気候変動の影響を受けて、高温障害等による作物被害や新たな病害虫が発生している。 ②物価高騰により施設整備費用も高騰しているため、要望は挙がるが費用面で諦めるケースも見られる。 | ①収量確保のため病害虫防除技術センターや農業改良普及センターなどの関係機関と連携を取りながら防除・蔓延防止対策指導、講習会を行い、適期の病害虫防除を図る。 ②農業資金融資制度など周知して、事業導入が容易くできるよう広報等を活用して取り組んでいく |

今後の取り組み方針

- ①新たな病害虫等の発生等もあるため、関係機関と連携し、徹底した防除を行い安定生産を図る。
- ②事業主体や農家へ農業資金融資制度など周知して事業導入しやすい環境整備の見直しを行う。

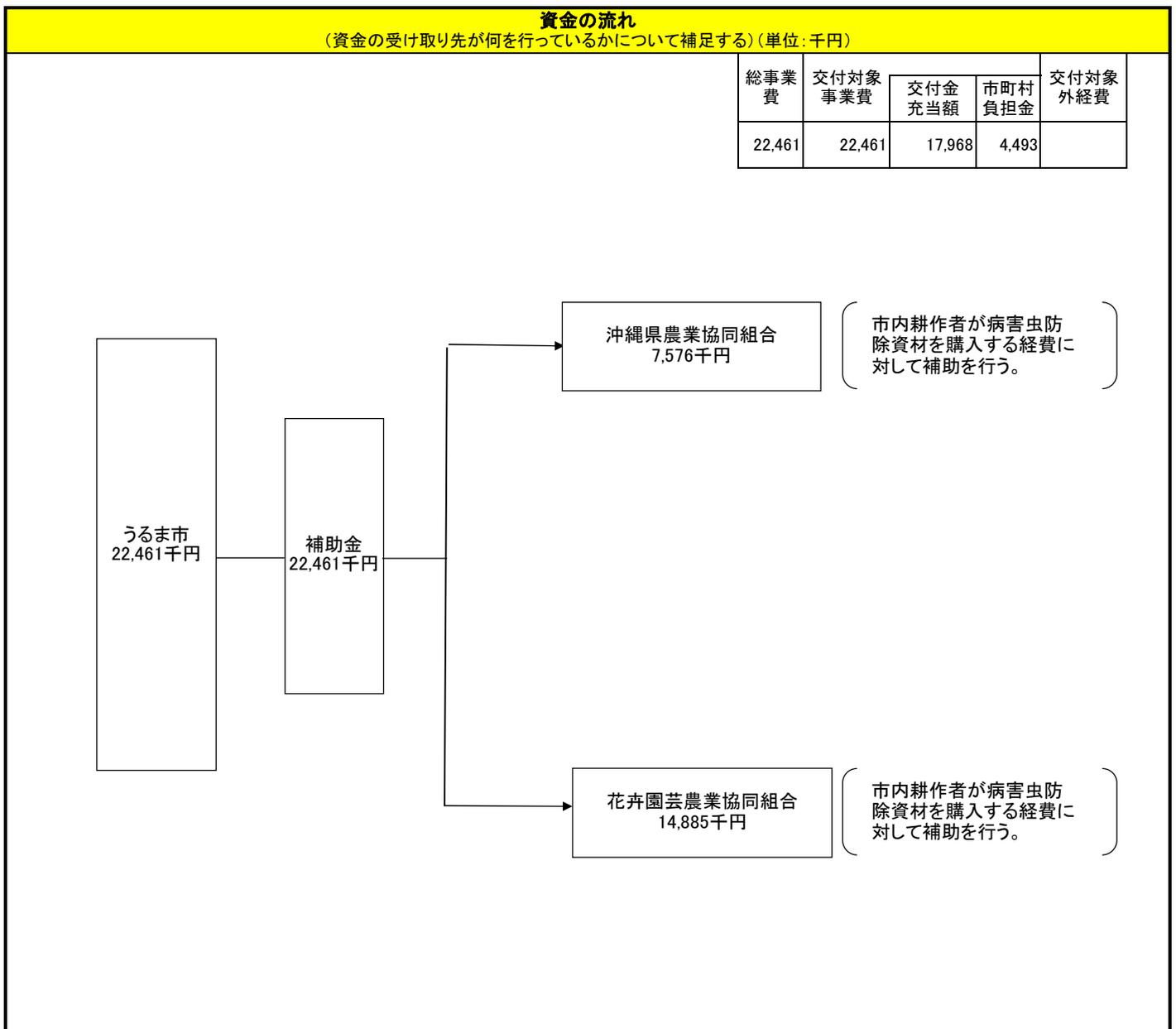
資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

| 総事業費 | 交付対象事業費 | 交付金充当額 | | 交付対象外経費 |
|--------|---------|--------|-------|---------|
| | | 市町村負担金 | | |
| 14,518 | 14,518 | 11,614 | 2,904 | |



| 資金の流 れ、 点 検 ・ 評 価 | 評価 | 点 検 項 目 | 評価に関する説明 |
|-------------------------------------|----|--------------------------------|---|
| | ○ | 支出先の選定方法は妥当か。 | ○不用額はなく、予算規模は適正であった。 ○受益者にも負担(補助率8/10)を求めており、事業内容や負担割合から判断しても適当である。 ○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。 |
| | ○ | 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。 | |
| | ○ | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | |
| | ○ | 費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | |

| 取組の検証 | 推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化) | 改善余地の検証(効率の更なる向上の視点) |
|--|--|--|
| | (補助事業の実施) 経済情勢や気象変動により需要の増減、また、年々病害虫が多様化し適期防除の重要性が高まっている。 | (補助事業の実施) 農業者の病害虫対策に対する意識を高め、発生させない環境づくりに努める。 |
| 今後の取り組み方針 | | |
| (補助事業の実施) 沖縄県の普及センター等と連携して、病害虫対策の啓発を図る。また、実施主体の事業実施状況の把握に努めることで補助事業の適切な運営を図る。 | | |



| 資金の流 点検 評価 | 評価 | 点検項目 | 評価に関する説明 |
|------------------|----|--------------------------------|--|
| | ○ | 支出先の選定方法は妥当か。 | ○事業者からの申請により決定している。 ○不要額5%以内と適切である。 ○受益者は7割負担しており、他の事業の負担割合から判断しても適切である。 ○費目についてはすべて病害虫防除に必要な農業費に限定しており、必要なものであったと判断した。 |
| | ○ | 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。 | |
| | ○ | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | |
| | ○ | 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | |

| | | | | | | | |
|--|---|--|-------------|--------------|-----------------------|--------------|---------|
| 市町村名 | うるま市 | | | | | | |
| 令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】 | | | | | | | |
| 事業番号・事業名 | 2-③ | 津堅島農業活性化事業 | | | 新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 | 第4章-3-(7)-ア | |
| 担当課名 | 農林水産部 生産振興課 | 事業実施(予定)年度 | 令和3年度～令和7年度 | 沖縄振興基本方針該当箇所 | おきなわブランドも確立と生産供給体制の整備 | | |
| 事業内容 | 島の5割が優良農地にも関わらず灌漑施設が未整備である津堅島において、散水作業及び農産物・農業用資機材等の輸送費補助を行い津堅島農業の活性化を図る。 | | | | | | |
| 効果発現年度 | <input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和7年度) | | | | | | |
| 実施方法 | <input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他() | | | | | | |
| 予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース) | | R2年度 | R3年度 | R4年度 | R5年度 | R6年度 | |
| | 予算の状況 | (a)当初予算額 | 7,000 | 16,800 | 19,800 | 18,040 | 18,499 |
| | | (b)予算現額 | 10,000 | 9,500 | 19,800 | 18,040 | 15,666 |
| | | (c)増減額(b-a) | 3,000 | ▲7,300 | 0 | 0 | ▲2,833 |
| | | (d)繰越額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | A.計(b+d) | 10,000 | 9,500 | 19,800 | 18,040 | 15,666 |
| | B.執行済額 | | 6,552 | 8,123 | 14,643 | 15,207 | 11,909 |
| | うち交付金充当額 | | 5,241 | 6,498 | 11,714 | 12,165 | 9,526 |
| | 次年度繰越額 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 執行率(%) (B/A) | | 65.5% | 85.5% | 74.0% | 84.3% | 76.0% |
| 予算の状況の説明 | | 委託料は、台風や長雨の影響で予定されていた散水作業が実施できなかったため、2791千円の不用額が発生した。また、補助金については、一部の法人が予定していた事業を活用しなかったため、966千円の不用額が生じた。 | | | | | |
| 活動目標(指標)及び達成状況 | 活動目標(指標) | | 達成状況 | | | | |
| | | | R3年度 | R4年度 | R5年度 | R6年度 | |
| | 散水車借り上げ、エンジンほ場への散水実施 | 目標 | (支援業務の実施) | (支援業務の実施) | (支援業務の実施) | (支援業務の実施) | |
| | | 実績 | 支援業務の実施 | 支援業務の実施 | 支援業務の実施 | 支援業務の実施 | |
| | 海上輸送費一部補助 | 目標 | () | (支援業務の実施) | (支援業務の実施) | (支援業務の実施) | |
| 実績 | | | 支援業務の実施 | 支援業務の実施 | 支援業務の実施 | | |
| 達成状況説明 | ・当初計画どおり津堅島農業支援業務を実施した。 | | | | | | |
| 成果目標(指標)及び進捗状況 | 成果目標(指標) | | 基準値(年度) | R4年度 | R5年度 | R6年度 | 目標値(年度) |
| | 津堅エンジン生産量 2.0t/10a | 目標 | () | (2.0t/10a) | (2.0t/10a) | (2.0t/10a) | () |
| | | 実績 | | 0.7t/10a | 0.8t/10a | 1.0t/10a | |
| | 支援業務の完了 | 目標 | () | () | () | (支援業務の完了) | () |
| | | 実績 | | | | 支援業務の完了 | |
| 進捗状況説明 | 津堅エンジン反収については、当初の計画通りに事業を進めていたが、10月に予定されていたエンジンの種まきが長雨により遅れた。それにより、収穫の時期も遅れることになり、成果目標を達成することができなかった。 | | | | | | |

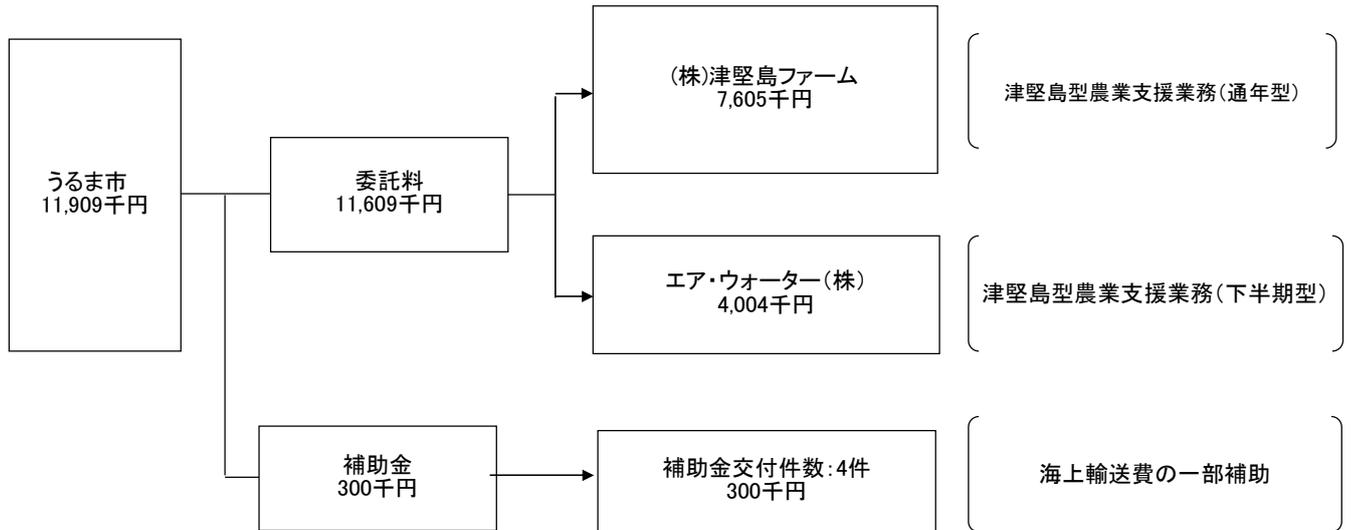
| | 推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化) | 改善余地の検証(効率の更なる向上の視点) |
|-------|---|--|
| 取組の検証 | ニンジン種まき時期(10月)に長雨の影響で遅れが生じ12月まで続いたため、市場が求める時期に出荷できない問題が生じた。 | 津堅ニンジンを継続して目標達成するため、JA指導員や沖縄県農業改良普及センターなど専門員と連携強化して、目標達成に向けて取り組む必要がある。 |

今後の取り組み方針

関係機関と連携しながら、種まきスケジュールを分散することや早期実施、天候予測データを活用しながら、津堅ニンジンの生産量目標達成に向け取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

| 総事業費 | 交付対象事業費 | 交付金 | | 交付対象外経費 |
|--------|---------|-------|--------|---------|
| | | 充当額 | 市町村負担金 | |
| 11,909 | 11,909 | 9,526 | 2,383 | 0 |



| 資金の流 金の流 れ、 点 検 評 価 目 | 評価 | 点 検 項 目 | 評価に関する説明 |
|--|----|--------------------------------|--|
| | ○ | 支出先の選定方法は妥当か。 | ○委託事業者の選定については、一般競争入札方式で選定しており、妥当であるとする。 ○散水業務期間の減少から不用率が約15%となった。 ○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。 |
| | △ | 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。 | |
| | - | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | |
| | ○ | 費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | |

| | |
|------|------|
| 市町村名 | うるま市 |
|------|------|

令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

| | | | | |
|----------|-----|-------------------|--------------------------|-----------|
| 事業番号・事業名 | 3-① | うるま市石川地域まちづくり推進事業 | 新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 | 4-3-(6)-イ |
|----------|-----|-------------------|--------------------------|-----------|

| | | | | | |
|-------|------------|------------|-------------|------------------|--|
| 担当部課名 | プロジェクト推進2課 | 事業実施(予定)年度 | 令和4年度～令和9年度 | 沖縄振興基本方針 該当箇所 | 沖縄のソフトパワーを生かした 新事業・新産業の創出 Ⅲ-11 |
|-------|------------|------------|-------------|------------------|--|

事業内容
 石川IC周辺において、観光客等の通過地点から立寄り地へと転換させるべく、交流拠点や交通結節機能の形成に向けた基本計画を策定する。
 石川庁舎周辺においては、地域住民や県内外の方々の目的地となるエリア開発を通して滞在や人流を生み出し、既成市街地への波及効果により石川地域全体の賑わい創出を図ることを目的に、事業化に向けたアドバイザー業務委託を実施する。また、県営石川団地再整備による用地を活用した周辺整備を検討する。

| | |
|--------|--|
| 効果発現年度 | <input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度) |
|--------|--|

| | |
|------|---|
| 実施方法 | <input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他() |
|------|---|

| | | R4年度 | R5年度 | R6年度 | | | |
|---|--|--------|--------|---------|--------|---------|---------|
| 予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース) | 予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d) | 13,992 | 49,000 | 68,046 | | | |
| | | 13,992 | 49,000 | 64,944 | | | |
| | | 0 | 0 | ▲ 3,102 | | | |
| | | 13,992 | 49,000 | 64,944 | | | |
| | B. 執行済額 | | 13,959 | 48,081 | 64,878 | | |
| | うち交付金充当額 | | 11,167 | 38,464 | 51,902 | | |
| | 次年度繰越額 | | | | | | |
| | 執行率(%) (B/A) | | 99.8% | 98.1% | 99.9% | #DIV/0! | #DIV/0! |
| | 予算の状況の説明 委託業務を発注し、業務を完了した。不用額については執行残によるものである。 ※当初の計画通り、委託業務を発注し業務を完了した。不用額66千円については、執行残によるものである。 | | | | | | |

| 活動目標(指標)及び達成状況 | 活動目標(指標) | 達成状況 | | | | |
|----------------|---|------|----------|----------|----------|----------|
| | | R4年度 | R5年度 | R6年度 | | |
| | 石川ゲートウェイ拠点形成基本計画策定に向けた庁内調整等(計画策定検討幹事会の開催) | 目標 | (4回) | (3回) | () | () |
| | | 実績 | 4回 | 5回 | | |
| | 石川ゲートウェイ拠点形成基本計画策定に向けた庁内調整等(計画策定検討委員会の開催) | 目標 | (4回) | (3回) | () | () |
| | | 実績 | 4回 | 4回 | | |
| | 石川ゲートウェイ拠点形成基本計画策定に向けた庁内調整等(住民ワークショップ、住民説明会の開催) | 目標 | (1回) | (3回) | () | () |
| | | 実績 | 1回 | 5回 | | |
| | 石川IC周辺交流拠点形成基本計画策定に向けた庁内調整等(計画策定検討委員会の開催) | 目標 | () | () | (2回) | () |
| | | 実績 | | | 2回 | |
| | 石川庁舎周辺利活用推進の事業化に向けた実施方針の作成 | 目標 | () | () | (一部完了) | () |
| | | 実績 | | | 一部完了 | |
| | 県営石川団地周辺整備における基本計画の策定に向けた庁内調整等 | 目標 | () | () | (10回) | () |
| | | 実績 | | | 10回 | |

達成状況説明
 石川IC基本計画策定に向け、庁内部長級を委員とした事業化検討委員会を2回実施した。
 石川庁舎周辺利活用推進事業化に向けた実施方針については、事業全体の根幹部分となる事業コンセプトやターゲット等を設定した。
 県営石川団地周辺整備においては、R6は基礎調査業務を実施し、関係課ヒアリング等を通して本業務と各課の課題や事業方針との整合を図り、R7予定の基本計画策定のベースとなる部分を整理した。
 なお、R5事業として設定した「石川ゲートウェイ拠点推進計画の事業者公募の実施(アドバイザー業務)」については、R5.4月プロポーザル実施(事業者選定)により達成をしており、当該成果も踏まえた令和6年度事業として、本件事業を推進しているところである。

| 成果目標(指標) 及び進捗状況 | 成果目標(指標) | 基準値 (年度) | R4年度 | R5年度 | R6年度 | 目標値 (年度) | |
|--------------------|---|-------------|------|--------|----------|-------------|-----|
| | | | 目標 | 実績 | 目標 | 実績 | 目標 |
| | まちづくり推進計画の策定 | 目標 | () | (策定) | () | () | () |
| | | 実績 | | 策定 | | | |
| | 石川ゲートウェイ拠点形成基本計画の策定 | 目標 | () | () | (計画策定) | () | () |
| | | 実績 | | | 完了 | | |
| | 石川IC周辺交流拠点形成基本計画の策定 | 目標 | () | () | () | (策定完了) | () |
| | | 実績 | | | | 策定完了 | |
| | 石川庁舎周辺活用事業化アドバイザー業務委託の完了 | 目標 | () | () | () | (業務委託完了) | () |
| | | 実績 | | | | 業務委託完了 | |
| | 県営石川団地周辺整備における基本計画の策定完了 | 目標 | () | () | () | (策定完了) | () |
| | | 実績 | | | | 策定完了 | |
| 進捗状況説明 | <ul style="list-style-type: none"> ・【石川IC】事業用地買収に向け、事業認定申請に係る資料等の基礎となる石川IC周辺交流拠点基本計画を策定した。 ・【石川庁舎】事業対象地の暫定利活用等を通し、明確な課題抽出とその対策に向けた今後の取組み方針や事業スケジュール等を整理した。 ・【石川団地】基本計画策定のベースとなる前段整理を基礎調査業務として実施した。 | | | | | | |

| 取組の検証 | 推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化) | 改善余地の検証(効率の更なる向上の視点) |
|-------|--|--|
| | <p>うるま市石川地域まちづくり推進事業(本事業)は、後年度実施予定である、公民連携手法にて各対象地の整備(管理運営含む)を担う事業者選定(公募)に向けた、各種調査や諸条件整理、関係書類作成等を遂行するものであることから、基本的には仕様書に沿った業務をコンサル業者にて履行しているため、成果目標の未達成は生じてはいない。</p> | <p>各業務(プロジェクト)の進捗や取組み内容に応じて、業務受託者選定時には、コンサルの知見やノウハウ等を最大限引き出すべく、業務目的達成に資するより効果的な検証方法や取組みを自由提案で求めることを検討する。</p> <p>選定された事業者とは、市の意向等を十分に理解したうえで業務を履行してもらう必要があるため、進捗管理の意味も含め、最低でも月1回以上の打合せを要する。</p> |

今後の取り組み方針

【R7成果目標】
 ・【石川IC】事業用地買収に向けた事業認定申請の完了 ・【石川庁舎】事業対象地暫定利活用(トライアル実証イベント)参加者の満足度60%以上 ・【石川団地】石川団地周辺整備基本計画の策定

将来的な事業者公募を見据えて、過年度の調査・整理等をベースにより内容を具体的にし、かつ確度の高い検証を要するため、R7年度業務における業務受託者選定時には、コンサルの知見やノウハウ等を最大限引き出すべく業務目的達成に資するより効果的な検証方法や取組みを自由提案で求めることを検討する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

| 総事業費 | 交付対象事業費 | 交付金充当額 | 市町村負担金 | 交付対象外経費 |
|--------|---------|--------|--------|---------|
| 64,878 | 64,878 | 51,902 | 12,976 | 0 |


```

    graph LR
      A[うるま市  
64,878千円] --> B[委託料  
64,878千円]
      B --> C[日本工営株式会社  
23,958千円]
      B --> D[株式会社  
オリエンタルコンサルタンツ  
31,196千円]
      B --> E[パシフィックコンサルタンツ・  
ホープ設計共同企業体  
9,724千円]
      F["JV  
パシフィックコンサルタンツ株式会社  
株式会社ホープ設計"]
      C --- G["石川IC周辺交流拠点形成  
基本計画策定業務"]
      D --- H["石川庁舎周辺  
利活用推進検討業務"]
      E --- I["石川団地周辺整備事業  
基礎調査業務"]
  
```

| 資金の流れ、点検、評価 | 評価 | 点検項目 | 評価に関する説明 |
|-------------|----|--------------------------------|--|
| | ○ | 支出先の選定方法は妥当か。 | ○委託事業者は仕様内容に即したプロポーザル方式で候補者を選定しており、妥当であったと考えている。 |
| | ○ | 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。 | ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 |
| | - | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | |
| | ○ | 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。 |

| | | | | | | | |
|---|--|-------------------|-------------|----------------------|---------------------------------------|---------|---|
| 市町村名 | うるま市 | | | | | | |
| 令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】 | | | | | | | |
| 事業番号・事業名 | 3-② | 勝連・与那城地域まちづくり推進事業 | | 新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 | 4-3-(6)-イ | | |
| 担当部課名 | 企画部プロジェクト推進2課 | 事業実施(予定)年度 | 令和4年度～令和7年度 | 沖縄振興基本方針該当箇所 | 沖縄のソフトパワーを生かした新事業・新産業の創出 Ⅲ- 11-(1) | | |
| 事業内容 | 本市勝連・与那城地域については、市の上位計画において、勝連城跡を観光拠点としたエリアづくりや観光産業の振興を図ることとしており、また、沖縄県が掲げる新たな観光方針(質の高い観光の推進等)を推進していく為にも本地域が有する歴史文化や伝統芸能等のソフトパワーをまちづくりの基軸として位置付け、当該ソフトパワーを切り口とした新たな観光産業の創出及び観光振興等に資する施策を展開するための計画を策定する。 | | | | | | |
| 効果発現年度 | <input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度) | | | | | | |
| 実施方法 | <input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他() | | | | | | |
| 予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース) | | R4年度 | R5年度 | R6年度 | R7年度 | R8年度 | |
| | 予算の状況 | (a) 当初予算額 | 13,992 | 22,000 | 91,000 | | |
| | | (b) 予算現額 | 13,992 | 22,000 | 91,000 | | |
| | | (c) 増減額(b-a) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | (d) 繰越額 | | | | | |
| | | A. 計(b+d) | 13,992 | 22,000 | 91,000 | 0 | 0 |
| | 執行状況 | B. 執行済額 | 13,959 | 21,910 | 90,823 | | |
| | | うち交付金充当額 | 11,167 | 17,528 | 72,658 | | |
| | | 次年度繰越額 | | | | | |
| | 執行率(%) (B/A) | 99.8% | 99.6% | 99.8% | #DIV/0! | #DIV/0! | |
| 予算の状況の説明 | 予定通り、委託業務を発注した。不用額については委託費の執行残によるものである。 | | | | | | |
| 活動目標(指標)及び達成状況 | 活動目標(指標) | | 達成状況 | | | | |
| | | | R4年度 | R5年度 | R6年度 | R7年度 | |
| | 旧与那城庁舎周辺・県道37号線沿道・ロードパーク利活用基本計画の策定にののための計画策定検討委員会・幹事会の開催 | 目標 | (4回) | (4回) | () | () | |
| | | 実績 | 4回 | 4回 | | | |
| | 旧与那城庁舎周辺・県道37号線沿道・ロードパーク利活用基本計画の策定のための住民説明会の開催 | 目標 | (1回) | (2回) | () | () | |
| | | 実績 | 1回 | 2回 | | | |
| | 旧与那城庁舎周辺・県道37号線沿道・ロードパーク利活用基本計画の策定のためのワークショップの開催 | 目標 | () | (2回) | () | () | |
| | | 実績 | | 2回 | | | |
| | 利活用推進実施計画の策定に向けた庁内検討会の開催 | 目標 | () | () | (3回) | () | |
| | | 実績 | | | 3回 | | |
| 地域住民及び地権者への説明・意見交換会の実施 | 目標 | () | () | (3回) | () | | |
| | 実績 | | | 3回 | | | |
| 民間事業者との対話 | 目標 | () | () | (15社) | () | | |
| | 実績 | | | 15社 | | | |
| 達成状況説明 | <ul style="list-style-type: none"> ・検討委員会、幹事会の開催を各3回開催した。 ・住民説明会(地権者説明会を含む)を3回開催した。 ・民間事業者との対話を15社実施した。 | | | | | | |

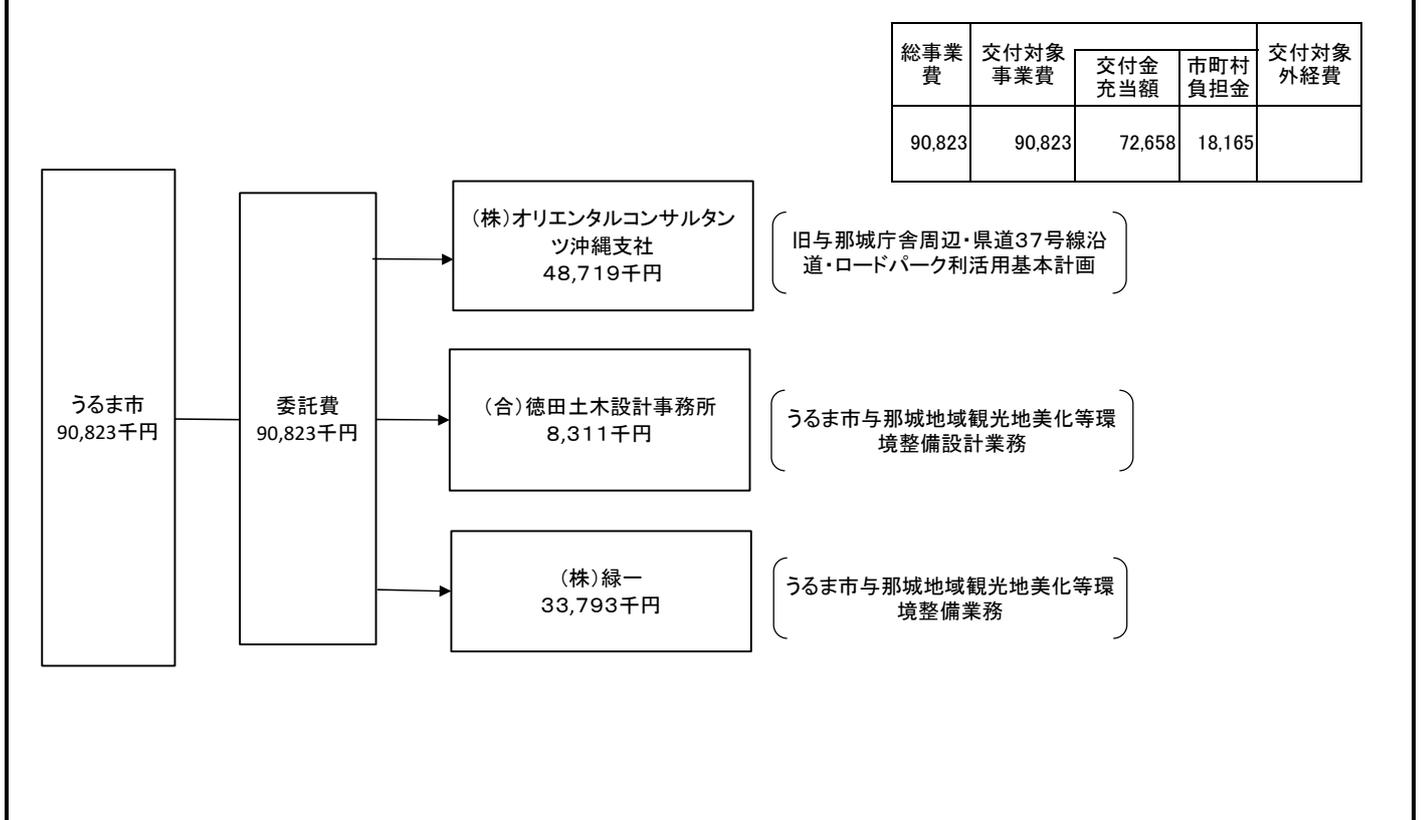
| 成果目標 (指標) 及び進捗状況 | 成果目標(指標) | 基準値 (年度) | R4年度 | R5年度 | R6年度 | 目標値 (年度) | |
|------------------------|--|-------------|------|------|------|-------------|-----|
| | 利活用推進実施計画の策定 | 目標 | () | () | () | (計画策定完了) | () |
| | | 実績 | | | | 完了 | |
| | 地域事業者及び住民意見を盛り込んだトライアル事業の実施 | 目標 | () | () | () | (トライアル実施) | () |
| | | 実績 | | | | 完了 | |
| | 伐採業務の実施 | 目標 | () | () | () | (業務実施) | () |
| 実績 | | | | | 完了 | | |
| 進捗状況説明 | <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度に策定した「旧与那城庁舎周辺及び県道37号線沿道の利活用推進計画」、「ロードパーク活性化基本計画」をとりまとめ、さらなる深度化を図った計画の策定を行った。 地域事業者及び住民意見を盛り込んだトライアル実証イベントを令和6年11月に実施した。 観光地の美化にかかる県道37号線沿道海岸沿いの樹木の伐採・剪定実施した。令和6年度はA、E、F、G地区の作業を実施した。 | | | | | | |

| 取組の検証 | 推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化) | 改善余地の検証(効率の更なる向上の視点) |
|-------|---|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> 本事業は3エリア分かれる広い地域でのエリア開発となっており、各エリアごとの検討に時間を要する場合があったが、予定通り計画を策定することができた。 本事業のエリアの魅力向上のため、観光地美化にかかる樹木の伐採・剪定業務を予定した。庁内外の様々な部署の調整が多かったが、問題なく業務実施することができた。 | <ul style="list-style-type: none"> 事業の推進のために、各エリアの詳細調査を行い、個別での事業推進も図っていく。 |

今後の取り組み方針

- 令和7年度は効率的な事業推進のため、エリアごとに調査検討を行う。
- 民間事業者の参入を促すために、エリアの魅力向上、周知に努める。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



| 資金の 用途の 流れ、 点検 評価 | 評価 | 点検項目 | 評価に関する説明 |
|-------------------------------|----|--------------------------------|---|
| | ○ | 支出先の選定方法は妥当か。 | <ul style="list-style-type: none"> ○委託事業者は仕様内容に即したプロポーザル方式及び指名競争入札で候補者を選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。 |
| | ○ | 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。 | |
| | - | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | |
| | ○ | 費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | |

| | | | | | | | |
|---|---|------------|--------------|--------------|--------------------|-------------|----------|
| 市町村名 | うるま市 | | | | | | |
| 令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】 | | | | | | | |
| 事業番号・事業名 | 3-③ | 企業誘致推進事業 | | | 沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 | 第4章-3-(4)-イ | |
| 担当課名 | 経済産業部 産業政策課 | 事業実施(予定)年度 | 平成24年度～令和8年度 | 沖縄振興基本方針該当箇所 | 臨空・臨港型産業の集積促進 | | |
| 事業内容 | 首都圏を中心とした企業誘致及び新たな産業の振興と雇用の創出を図るため、企業誘致推進員を起用し本市投資環境をPRする企業誘致活動を行うとともに、市内企業に対して受発注の促進に関するマッチング支援も行う。また、中城湾港新港地区の新たな産業用地の確保のため土地利用に係る可能性調査を実施する。 | | | | | | |
| 効果発現年度 | <input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度) | | | | | | |
| 実施方法 | <input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他() | | | | | | |
| 予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース) | | R2年度 | R3年度 | R4年度 | R5年度 | R6年度 | |
| | (a) 当初予算額 | 10,000 | 12,780 | 29,990 | 36,800 | 57,000 | |
| | (b) 予算現額 | 10,000 | 12,780 | 29,990 | 36,800 | 57,000 | |
| | (c) 増減額(b-a) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | (d) 繰越額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | A. 計(b+d) | 10,000 | 12,780 | 29,990 | 36,800 | 57,000 | |
| | B. 執行済額 | 9879 | 10604 | 28709 | 35,538 | 52,468 | |
| | うち交付金充当額 | 7903 | 8483.2 | 22967.2 | 28,430 | 41,973 | |
| | 次年度繰越額 | | | | | | |
| | 執行率(%) (B/A) | 98.8% | 83.0% | 95.7% | 96.6% | 92.0% | |
| 予算の状況の説明 | 不用額については執行残によるものである。 | | | | | | |
| 活動目標(指標)及び達成状況 | 活動目標(指標) | 達成状況 | | | | | |
| | | | R3年度 | R4年度 | R5年度 | R6年度 | |
| | ・企業訪問による情報収集 ・開発事業者に関する情報収集 ・企業誘致関連セミナーへの参加 ・環境投資ツアーの実施 | 目標 | (実施) | (実施) | (実施) | (実施) | |
| | | 実績 | 実施 | 実施 | 実施 | 実施 | |
| | ・マッチングセミナーの開催 ・マッチングサイト及び冊子作製 ・見本市・MICEなどへの出店支援 | 目標 | () | () | () | (実施) | |
| | | 実績 | | | | 実施 | |
| 産業用地調査の実施 | 目標 | () | () | () | (実施) | | |
| | 実績 | | | | 実施 | | |
| 達成状況説明 | 都心を中心とした企業訪問を行い情報収集を行い、本市への投資環境ツアーへ呼び込むことができた。域内マッチング事業についてはセミナー開催、冊子作成、催事への出展支援を通し企業支援を行った。また、産業用地調査を実施しうるま市産業集積促進基本構想」を策定した。 | | | | | | |
| 成果目標(指標)及び進捗状況 | 成果目標(指標) | 基準値(年度) | R4年度 | R5年度 | R6年度 | 目標値(年度) | |
| | 首都圏企業等へのアプローチ | 目標 | () | (10社以上) | (10社以上) | (10社以上) | () |
| | | 実績 | | 30社 | 20社 | 14社 | |
| | 投資環境ツアーへの参加企業数 | 目標 | () | () | (10社以上) | (10社以上) | () |
| | | 実績 | | | 13社 | 14社 | |
| | マッチング件数 | 目標 | () | () | () | (10件以上) | () |
| | | 実績 | | | | 12件 | |
| 産業用地調査の完了 | 目標 | () | () | () | (完了) | () | |
| | 実績 | | | | 完了 | | |
| 進捗状況説明 | ・本市投資環境の周知により、独自で調査を始める等関心企業の角度が上がっている。台湾企業対応として関係団体やキーマンとなる人物との関係構築が出来たほか、繁体字対応立地ガイドを作成した。 ・マッチングセミナー 2回のセミナーを開催するとともに企業同士のマッチングを支援した。実績:マッチング支援先 12社 ・マッチングサイト及び冊子作製 企業のマッチングを促すサイトと冊子を作成した。実績:掲載企業数51社 ・見本市・MICEなどへの出店支援 企業PRのため出店支援を4回実施した。実績:支援企業8社 ・産業用地の確保に向けた調査(5箇所)を完了し、「うるま市産業集積促進基本構想」を策定した。 | | | | | | |

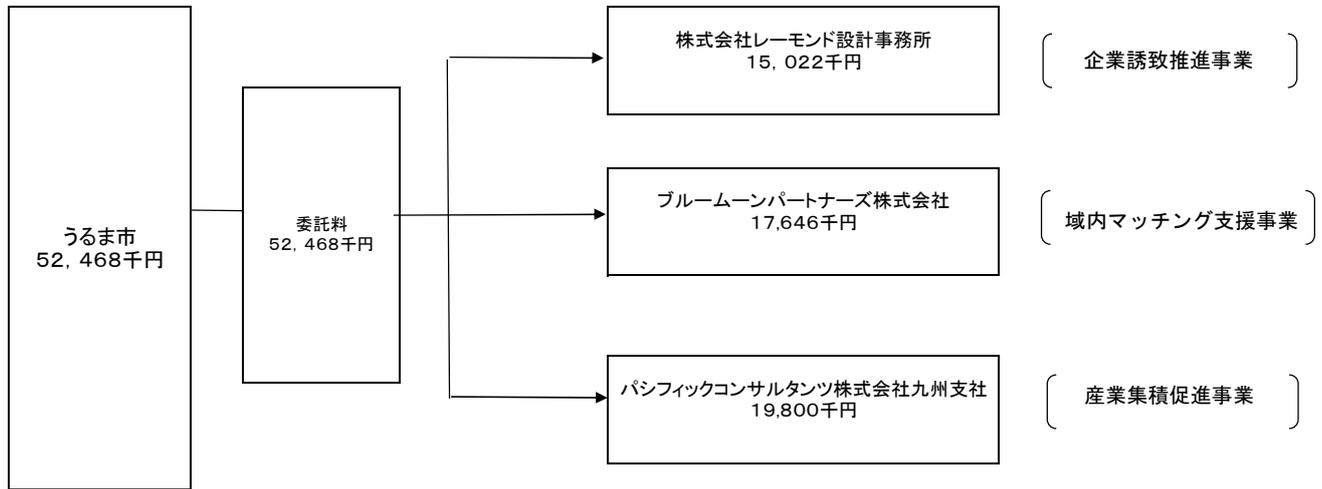
| | 推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化) | 改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点) |
|-------|---|---|
| 取組の検証 | <p>上江洲仲嶺地区の早期整備に関心が集まるなか、地権者交渉等の影響により当初計画よりやや遅れが生じている。また、資材高騰や人手不足等が社会問題が続いているため、引き続き留意が必要。</p> <p>マッチング支援においては今年度委託事業として初の試みであり、当初市内企業の反応の薄さに苦慮していたが、企業とのやり取りを行っていくことで課題を聞き出し、マッチング件数に繋げることができた。</p> | <p>各投資環境の事業スケジュールの進捗状況を適宜把握し、関心企業へは常に最新情報が発信できるような体制が必要。域内事業者の活用を推進するうえで、事業者との関係性を築くこと及び当該事業者の製品や課題等の把握が必須となってくる事が挙げられる。そのためより域内事業者や業界を把握、精通することが必要となる。</p> <p>マッチング支援を幅広く取り組んで行くためには、事業者に関心を持ってもらうことが重要と考える事から、こちらからのアプローチ方法や事業内容など理解を深めていく工夫も必要である。</p> |

今後の取り組み方針

- ・投資環境の進捗情報を更新のうえ県外企業等への営業活動を継続する。また、企業誘致手法について営業活動以外での取り組みについて検討する。
- ・マッチング支援については、市内事業者を活用していく機会を作ることができた。今後もこの流れを作ること及び事業者全体へ広げていく支援(市産品の活用等)について、実際に活用する業者へのヒアリングを通しながら、市内業界団体と連携し検討・実施をすることにより成果を挙げていきたい。
- ・基本構想を踏まえて、重点区域を設定し、立地企業の動向や企業ニーズ、地主等の意向を踏まえた基本計画を策定する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

| 総事業費 | 交付対象事業費 | 交付金充当額 | | 交付対象外経費 |
|--------|---------|--------|--------|---------|
| | | 市町村負担金 | | |
| 52,468 | 52,468 | 41,974 | 10,494 | 0 |



| 資金の流 点検 評価 | 評価 | 点検項目 | 評価に関する説明 |
|------------------|----|--------------------------------|---|
| | ○ | 支出先の選定方法は妥当か。 | <p>●委託先については、公募型プロポーザルにより選定しており、適切である。</p> <p>●予算規模、費途・使途について、令和6年度設計業務等技術者単価等に準じており、妥当である。</p> |
| | ○ | 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。 | |
| | ○ | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | |
| | ○ | 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | |

| | | | | | | | |
|--|--|---|------------------------------|--------------|--------------------------------|-----------|---------|
| 市町村名 | うるま市 | | | | | | |
| 令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】 | | | | | | | |
| 事業番号・事業名 | 3-④ | 中城湾港物流促進事業 | | | 新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 | 4-3-(8)-ウ | |
| 担当部課名 | 経済産業部 産業政策課 | 事業実施(予定)年度 | 平成30年度～令和13年度 | 沖縄振興基本方針該当箇所 | 経済成長を加速させる拠点港湾機能やネットワーク機能の強化拡充 | | |
| 事業内容 | 中城湾港新港地区を活用した新たな物流モデル創出に向けた実証事業を実施することで、市内事業者の取扱貨物量の増加や物流効率化を図る。 | | | | | | |
| 効果発現年度 | <input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度) | | | | | | |
| 実施方法 | <input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他() | | | | | | |
| 予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース) | | R2年度 | R3年度 | R4年度 | R5年度 | R6年度 | |
| | 予算の状況 | (a) 当初予算額 | 40,000 | 40,000 | 40,000 | 40,000 | 30,000 |
| | | (b) 予算現額 | 40,000 | 51,000 | 35,700 | 40,000 | 30,000 |
| | | (c) 増減額(b-a) | 0 | 11,000 | ▲ 4,300 | 0 | 0 |
| | | (d) 繰越額 | | | | | |
| | | A. 計(b+d) | 40,000 | 51,000 | 35,700 | 40,000 | 30,000 |
| | B. 執行済額 | | 28072 | 50,461 | 31,705 | 34,768 | 27,660 |
| | うち交付金充当額 | | 22457 | 40,368 | 25,364 | 27,814 | 22,128 |
| | 次年度繰越額 | | | | | | |
| | 執行率(%) (B/A) | | 70.2% | 98.9% | 88.8% | 86.9% | 92.2% |
| 予算の状況の説明 | | 予算現額と執行済額の差は確定残によるものである。 | | | | | |
| 活動目標(指標)及び達成状況 | 活動目標(指標) | | 達成状況 | | | | |
| | | | R3年度 | R4年度 | R5年度 | R6年度 | |
| | 新規航路実証実験1件以上 | | 目標 () () (1件) (1件) | | | | |
| | | | 実績 | | 1件 | 1件 | |
| | その他船社・港運・フォワーダー・荷主等による貨物輸送の実証 3件以上 | | 目標 () () () (3件) | | | | |
| | | | 実績 | | | 4件 | |
| | 県内外の事業者に対するヒアリング30社以上(延べ) | | 目標 () (30社) () () | | | | |
| | | | 実績 | 31社 | | | |
| 先島(宮古・石垣)航路の定着化に向けた関係者会議の開催 | | 目標 () (1回) () () | | | | | |
| | | 実績 | (1回) | | | | |
| 中城湾港の主要貨物となりうる完成自動車の中城湾港を活用した海外向け中古車輸出、又は新車の移入(100台以上) | | 目標 (100台以上) () () () | | | | | |
| | | 実績 | 924台 | | | | |
| 達成状況説明 | | 【新規航路実証実験1件】 新規航路実証事業として、中城-石垣のONE-ONEルートにおいて、チャーター配船による先島航路の運航を行った。同実証事業により定期航路化に向け、集荷面で課題への対応が必要などが把握できたことにより、一定の成果を得たものと考えられる。 【その他船社・港運・フォワーダー・荷主等による貨物輸送の実証 3件以上】 定期航路を利用して小口混載の集荷実証を2件、移入貨物の輸送1件、建設機会の輸送1件の計4件の実証実験を行った。 | | | | | |
| 成果目標(指標)及び進捗状況 | 成果目標(指標) | | 基準値(年度) | R4年度 | R5年度 | R6年度 | 目標値(年度) |
| | 東ふ頭を利用する新たな荷主企業の獲得 3件 | | 目標 () () (3件) (3件) () | | | | |
| | | | 実績 | | 12件 | 8件 | |
| | 中城湾港新港地区を活用した新たな物流モデルの創出件数3件以上 | | 目標 () (3件) () () () | | | | |
| | | | 実績 | 3件 | | | |
| 国際物流トライアル推進事業における中城湾港新港地区での取り扱い貨物1モデルあたり2,880トン以上 | | 目標 () (2,880トン以上) () () () | | | | | |
| | | 実績 | 5,156トン | | | | |
| 進捗状況説明 | | 本事業での実証実験について、先島航路の実証、小口混載貨物の輸送、移入貨物輸送、建設機械輸送を行い、8社の新規荷主企業が移出入において中城湾港を活用した。 | | | | | |

| | 推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化) | 改善余地の検証(効率の更なる向上の視点) |
|-------|---|--|
| 取組の検証 | <p>本事業においては、先島航路実証において天候の影響を受け実証実験を延期した。その際の、実証事業参加者の反応として、実証回数が短期間かつ回数も少ない場合、運送事業者や荷主企業が抜港時の横持ち費用(中城湾港から那覇港)リスクを恐れて実証実験参加を控える状況があった。また、一部の実証実験においては天候の影響を受け、荷揚げ港の変更があった。</p> | <p>航路実証実験の運航スケジュールについては船社における他港との定期航路運行ルートを参考に、想定外の抜港や日程調整に対応できるよう可能な限り複数回、長期間の運用を目指す調整を行う。また、集荷についても実証事業を周知できる体制作りができれば更なる集荷が期待できる。</p> |

今後の取り組み方針

当事業を通じて、市と地域の物流に関連する事業者(荷主、荷役、フォワーダー、船社、港湾管理者等)が密接に連携し、中城湾港における定期航路の将来を見据えたニーズや、現状の課題解決に資する実証実験を行い、将来的な社会実装を目指す運用を行う。

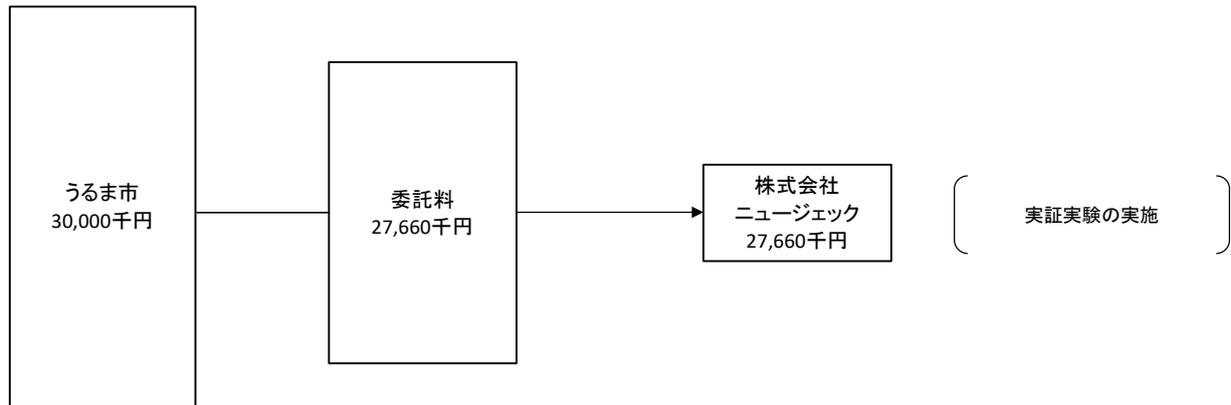
また、細かに事業者へ情報発信する機会や手段を検討し、情報収集や事業周知に関し円滑になるような体制を構築する。

さらに、新規航路誘致が難しい現状を鑑みて既に、他港で航路サービスとして提供されている航路と中城湾港東ふ頭を結ぶ定期航路の拡充も視野に実証事業について構築していく。

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

| 総事業費 | 交付対象事業費 | 交付金充当額 | | 交付対象外経費 |
|--------|---------|--------|-------|---------|
| | | 市町村負担金 | | |
| 30,000 | 27,660 | 22,128 | 5,532 | 0 |



| 資金の流 れ、費 目・ 評価 | 評価 | 点検項目 | 評価に関する説明 |
|-------------------------|----|--------------------------------|---|
| | ○ | 支出先の選定方法は妥当か。 | <p>○委託事業者は、企画提案方式により業務実績及び専門的な知見を有した事業者を選定しており、妥当である。</p> <p>○実証試験参加者については、実施にかかる費用相当分を負担しており、受益者負担について妥当である。</p> <p>○費用は、事前調整及び実績報告の段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。</p> |
| | ○ | 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。 | |
| | ○ | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | |
| | ○ | 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | |

| | | | | | | | |
|---|---|--|---------------|----------------------|-------------|--------|---------|
| 市町村名 | うるま市 | | | | | | |
| 令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】 | | | | | | | |
| 事業番号・事業名 | 3-⑤ | 市内事業者販売力向上支援事業 | | 新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 | 第4章-3-(8)-イ | | |
| 担当部課名 | 経済産業部 商工振興課 | 事業実施(予定)年度 | 平成25年度～令和13年度 | 沖縄振興基本方針該当箇所 | 県産品の売上拡大促進 | | |
| 事業内容 | 市内事業者自ら事業拡大に向けた取り組みができるよう、新商品開発、テストマーケティング、品質向上に対する伴走支援を実施し、市内事業者の販売力の底上げを図る。また、販路拡大を目的として、県内外での商談会や物産展を行い市産品の認知度向上を図る。 | | | | | | |
| 効果発現年度 | ■当年度 ■後年度(令和7年度) | | | | | | |
| 実施方法 | <input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他() | | | | | | |
| 予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース) | | R2年度 | R3年度 | R4年度 | R5年度 | R6年度 | |
| | 予算の状況 | (a) 当初予算額 | 30,000 | 30,000 | 40,000 | 50,000 | 60,000 |
| | | (b) 予算現額 | 0 | 30,000 | 40,000 | 50,000 | 40,000 |
| | | (c) 増減額(b-a) | ▲30,000 | 0 | 0 | 0 | ▲20,000 |
| | | (d) 繰越額 | | | | | |
| | | A. 計(b+d) | 0 | 30,000 | 40,000 | 50,000 | 40,000 |
| | B. 執行済額 | | 0 | 29,442 | 39,987 | 42,928 | 39,042 |
| | うち交付金充当額 | | 0 | 23,554 | 31,990 | 34,342 | 31,233 |
| | 次年度繰越額 | | | | | | |
| | 執行率(%) (B/A) | | #DIV/0! | 98.1% | 100.0% | 85.9% | 97.6% |
| 予算の状況の説明 | | 当初は市内事業者の集団形成を行い、商品開発等の支援の実施を予定していたが、運営方針等の策定に時間を要したため、R6年度においては組織の運営に関する方針策定に注力すると事業内容を変更したため、一括交付金の対象事業内容から除外したため、予算額を2,000千円減額している。 | | | | | |
| 活動目標(指標)及び達成状況 | 活動目標(指標) | | 達成状況 | | | | |
| | | | R3年度 | R4年度 | R5年度 | R6年度 | |
| | 物産展への出展支援 | | 目標 | (支援) | (支援) | (支援) | (支援) |
| | | | 実績 | 支援 | 支援 | 支援 | 支援 |
| | PR活動 | | 目標 | (実施) | (実施) | (実施) | (実施) |
| | | | 実績 | 実施 | 実施 | 実施 | 実施 |
| | 販路拡大支援講座 | | 目標 | (実施) | (実施) | (実施) | (実施) |
| 実績 | | | 実施 | 実施 | 実施 | 実施 | |
| 達成状況説明 | 市産品販路拡大事業 物産展への出展支援に関しては、R6年度においては「川崎ハイサイフェスタ(2社)」「東武宇都宮フェア(9社)」「イオンライカム物産展(22社)」「イオン那覇物産展(17社)」の合計50社の出展支援を実施した。また、PR活動については、県外イベントに参加し、「宇都宮3X3」「沖縄芸能フェスタ」「丸の内HAPP」「都市交流フェスタ」にて物産展を開催。また、商談会イベントである「スーパーマーケットトレードショー」への出展も行っている。そのほか、県外百貨店にて物産販売を実施し、市産品のPRを行った。 セミナーは2回開催しており、第一回「物産展で売れる商品づくり」第2回「衛生管理セミナー(HACCP簡単活用術)」の内容で実施した。参加者コメントからは満足度の高さがうかがえた。 | | | | | | |

| 成果目標(指標)及び進捗状況 | 成果目標(指標) | | 基準値(年度) | R4年度 | R5年度 | R6年度 | 目標値(年度) |
|---|--|-----|---------------|---------|----------|-------------|-------------|
| | | | 物産展の1事業者平均売上額 | 目標 | () | (80,400円) | (80,400円) |
| | 実績 | | 103,614円 | 67,000円 | 37,867円 | | |
| 市産品販売の機会創出(物産展の開催) | 目標 | () | () | () | (3回) | () | |
| | 実績 | | | | 5回 | | |
| 販路拡大講座参加者へのアンケートで講座内容が販路拡大等への参考となったか(79%以上)を含め、本講座のあり方を検証 | 目標 | () | (80%) | (80%) | (80%) | () | |
| | 実績 | | 92% | 89% | 90% | | |
| 県外量販店への市産品の販路の獲得 | 目標 | () | () | () | (実施) | () | |
| | 実績 | | | | 4件 | | |
| 新商品(ブラッシュアップ)開発10以上 | 目標 | () | () | () | (10品目) | () | |
| | 実績 | | | | 30品目 | | |
| 進捗状況説明 | 市産品販路拡大事業 物産展の1事業者平均売上額(1日)は東部宇都宮43,357円、イオンライカム23,592円、イオン那覇店46,651円となり、合計平均が37,867円となり、目標額を達成できなかった。原因としては、開催期間を長めに設定したため、販売員の多い土日等に売り上げが集中し、平日の売り上げが伸び悩んだことが考えられる。市産品販売の機会創出に関しては、「阪急百貨店」「信濃屋」「丸広百貨店」にて物産展を開催。県内でも「イオンライカム店」「イオン那覇店」にて物産展を開催している。講座(勉強会)に係るアンケートでは、80%以上の事業者より「わかりやすかった。何をすべきかが分かった」等の声をいただいております。販路拡大に向けた知識等の習得支援につながった。県外量販店への市産品の販路の獲得については、阪急百貨店ECサイトへの掲載、信濃屋PB商品の開発、DEAN&DELUCAコラボ商品の開発、丸広百貨店常設売り場設置等の成果を得ることができた。 | | | | | | |

| 取組の検証 | 推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化) | 改善余地の検証(効率の更なる向上の視点) |
|-------|---|---|
| | 市産品販路拡大事業 今年度は出展をとおして、対話(試食)を行うことで、商品の価値を消費者へ伝えることに注力して取り組んだ。物産展等のイベントでは、通常売価よりも少し割高であっても購入してもらえたが、スーパー等の売り場に並べる場合は類似品が存在しており、価格競争となり、沖縄は輸送費がかかる点から不利になっていた。また、県外に出展した場合、「うるま市＝沖縄県」の認知度が低く、沖縄ブランドを有効に活用することができていなかった。 | 市産品販路拡大事業 様々なイベント出展や物産展の開催をとおして、各事業者における出展ノウハウの育成が実現できた。イベント出展においては、物販よりも実演販売のほうが人気があるため、今後さらなる事業者展開を図っていきたい。また、物産販売においては人気商品の理由を把握し、市内事業者へ共有していくことで市産品全体としての商品力の向上につなげていきたい。商品力の向上については、まんまうるまセレクションブランドを活用して、市産品の高付加価値化が図れると事業者の所得向上に繋がることが期待できる。 |

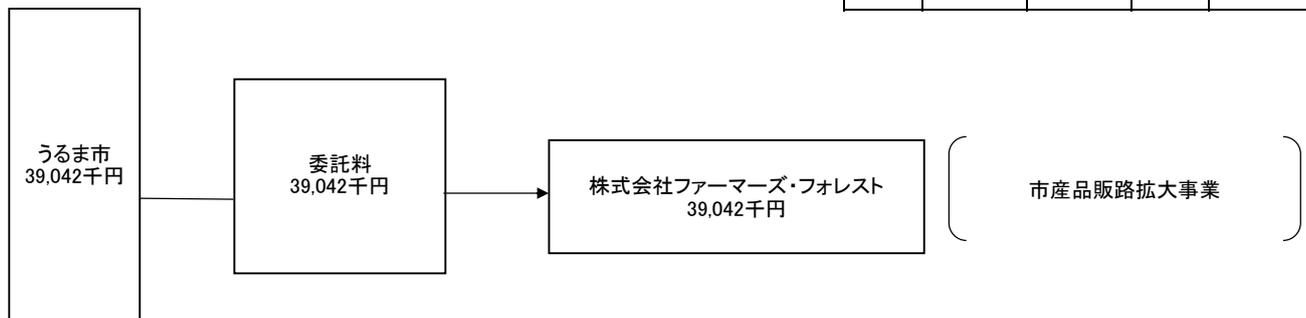
今後の取り組み方針

①市産品販路拡大事業
 事業を通して、「うるま市」の認知度向上を図ることを意識しつつ、各種事業の展開を実施していた。うるま市には優れた商品があるものの、その魅力を伝えきれていない、または、商品の表示(パッケージや品質表示等)がバイヤーの求める基準を満たしていないが故に販路の拡大に至らずにいる商品が多く存在している。今年度の事業を通して、商品の品質表示改善の支援やパッケージのブラッシュアップ等に取り組むことで、商品の高付加価値化に成功することができたので、うるまブランドの確立に向けた取り組みを今後も継続し、商品力の高いうるまらしさを体現する商品の開発やターゲット層を定めた商品開発に取り組むことでよりうるま市産品の品質向上につなげ、様々なイベントや売り場での販売を実施することでさらなる販売力の向上に繋がることが期待できる。

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

| 総事業費 | 交付対象事業費 | 交付金 | | 交付対象外経費 |
|--------|---------|--------|--------|---------|
| | | 充当額 | 市町村負担金 | |
| 39,042 | 39,042 | 31,233 | 7,809 | 0 |



| 資金の流れ、点検、費目 | 評価 | 点検項目 | 評価に関する説明 |
|-------------|----|--------------------------------|--|
| | ○ | 支出先の選定方法は妥当か。 | ・委託事業者は、選定理由書に基づき選定されており、事業内容を遂行するための能力を有した組織であり、妥当であると考えます。 |
| | ○ | 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。 | ・予算規模については、執行率を踏まえ、適正な規模と考えます。 |
| | - | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | ・費目・使途について、支出に関する資料により確認したところ、目的に即し必要なものであると判断した。 |
| | ○ | 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | |

| | |
|------|------|
| 市町村名 | うるま市 |
|------|------|

令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

| | | | | | | | |
|--|--|------------------------------|---------------|--------------|----------------------|----------------|--------|
| 事業番号・事業名 | 4 | 就労支援事業 | | | 新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 | 第4章-3-(11)-(ア) | |
| 担当部課名 | 経済産業部 産業政策課 | 事業実施(予定)年度 | 平成24年度～令和13年度 | 沖縄振興基本方針該当箇所 | 雇用機会の確保と多様な人材の活躍促進 | | |
| 事業内容 | <p>① 合同企業説明会の開催や求人広告費用等の支援を実施し、求職者と企業のマッチングを図る。 ② 市内および近隣市町村の高校生等を対象に中城湾新港地区立地企業を中心とした見学バスツアーを実施。参加企業へは関心を持った学生への直接的な接点や地域人材の確保や育成、高校生等へは市内企業の興味関心や職業観の醸成、就職先の検討などの効果を図る。</p> | | | | | | |
| 効果発現年度 | <input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度) | | | | | | |
| 実施方法 | <input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他() | | | | | | |
| 予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース) | | R2年度 | R3年度 | R4年度 | R5年度 | R6年度 | |
| | 予算の状況 | (a) 当初予算額 | 95,000 | 95,000 | 79,661 | 69,828 | 24,738 |
| | | (b) 予算現額 | 103,985 | 95,000 | 92,128 | 69,828 | 24,738 |
| | | (c) 増減額(b-a) | 8,985 | 0 | 12,467 | 0 | 0 |
| | | (d) 繰越額 | | | | | |
| | | A. 計(b+d) | 103,985 | 95,000 | 92,128 | 69,828 | 24,738 |
| | B. 執行済額 | | 98,195 | 91,233 | 86,250 | 54,558 | 24,728 |
| | うち交付金充当額 | | 78,556 | 72,987 | 69,000 | 43,646 | 19,782 |
| | 次年度繰越額 | | | | | | |
| | 執行率(%) (B/A) | | 94.4% | 96.0% | 93.6% | 78.1% | 99.96% |
| 予算の状況の説明 | | 予算現額と執行額との差については確定残によるものである。 | | | | | |
| 活動目標(指標)及び達成状況 | 活動目標(指標) | | 達成状況 | | | | |
| | | | | R3年度 | R4年度 | R5年度 | R6年度 |
| | 求職者や企業に対する総合的な就業支援の実施 | 目標 | (実施) | (実施) | (実施) | () | |
| | | 実績 | 実施 | 実施 | 実施 | | |
| | 求職者及び就業者へのスキルアップ支援の実施 | 目標 | (実施) | (実施) | (実施) | () | |
| | | 実績 | 実施 | 実施 | 実施 | | |
| | 小中高生へのキャリア教育実施 | 目標 | (実施) | (実施) | (実施) | () | |
| | | 実績 | 実施 | 実施 | 実施 | | |
| | 市内における雇用環境や就業環境の現状分析、求職者や企業等への調査(アンケート、ヒアリング)、雇用拡大に向けた方向性および目標の検討 | 目標 | (実施) | (実施) | (実施) | () | |
| | | 実績 | 実施 | 実施 | 実施 | | |
| 合同企業説明会の実施 | 目標 | () | () | () | (実施) | | |
| | 実績 | | | | 実施 | | |
| 市内及び近隣市町村の高校、専門学校(高専)等の生徒を対象に中城湾新港地区バスツアー事業の実施 | 目標 | () | () | () | (実施) | | |
| | 実績 | | | | 実施 | | |
| 達成状況説明 | (合同企業説明会) 求職者向けを9月・2月に実施し参加企業28社、参加人数11名。新卒者向けを7月・9月に実施し参加企業28社、参加人数44名。 (バスツアー) 実施回数32回、実施校21校2045名、受入企業数38社。 | | | | | | |

| 成果目標(指標) 及び進捗状況 | 成果目標(指標) | 基準値 (年度) | R4年度 | R5年度 | R6年度 | 目標値 (年度) |
|--------------------|--|---|----------------|----------------------------------|-------------------|-------------|
| | | | 就労支援を行った新規雇用者数 | 目標 () (255人) (350人) () () | 実績 / | 164人 |
| 学生の訪問企業への興味・関心が湧いた | 目標 () () () (80%) () | 実績 / | | | 80% | |
| | 参加企業の満足度 | 目標 () () () (70%) () | 実績 / | | 55% | |
| 参加企業数及び参加校(学生)数 | 目標 () () () (40社及び13校 1200名) () | 実績 / | | | 38社及び21校 2045名 | |
| | 進捗状況説明 | 21校2045名と想定よりも多くの学生がバスツアーに参加し、地元企業を知り、学生の興味関心を図ることができた。また、企業の認知度向上にも繋がり、学校と企業が繋がることで、就職に結びつく流れも出てきている。参加企業の満足度が達成できていない状況については、合同企業説明会の参加人数が少なく満足できるような結果には至らなかった。しかし、人材確保のために求める支援として、合同企業説明会や学校説明会の実施を求める声が多かったため、実施方法の見直しをする必要がある。 | | | | |

| 取組の検証 | 推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化) | 改善余地の検証(効率の更なる向上の視点) |
|-------|---|--|
| | (合同企業説明会) 新卒者、求職者の就職活動は、ネットにて企業情報を得ていることも多く、対面での合同企業説明会は集客が難しかった。しかし、採用担当者と顔を合わせることで、詳細に質問したり、採用側も自社PRが伝わりやすかったりするので、開催の継続希望が多い。 (バスツアー) 沖縄県は県外に比べ学生の就労意欲が低い状況がみられる。また、参加校が想定より多くなり、運用方法の面で企業に負担が多かった。 | (合同企業説明会) 合同企業説明会に人が集まらない状況があるため、学校等と連携し、多くの学生が参加できるよう実施方法を見直す必要がある。 (バスツアー) 学生の就労意欲を高めるため、見学前に事前学習等を実施し、企業への興味関心や就業意欲の向上を図り、受入れた企業の満足度を高める必要がある。 |

今後の取り組み方針

【就労意識向上及び就業機会の取組み】
 (1) 合同企業説明会については、学校内で企業説明会を実施できるよう調整する。企業見学バスツアーについては、事前学習の実施やワークシート等を作成・配布し、企業への興味関心や就業意欲の向上を図る。
 (2) インターンシップ受入を行う市内事業者に対し、学生がインターンシップを実施する際にかかる宿泊料等を補助することで、Uターンへの支援及び就業機会を拡大し、市内企業の人材確保につなげる。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

| 総事業費 | 交付対象事業費 | 交付金充当額 | 市町村負担金 | 交付対象外経費 |
|--------|---------|--------|--------|---------|
| 24,728 | 24,728 | 19,782 | 4,946 | 0 |

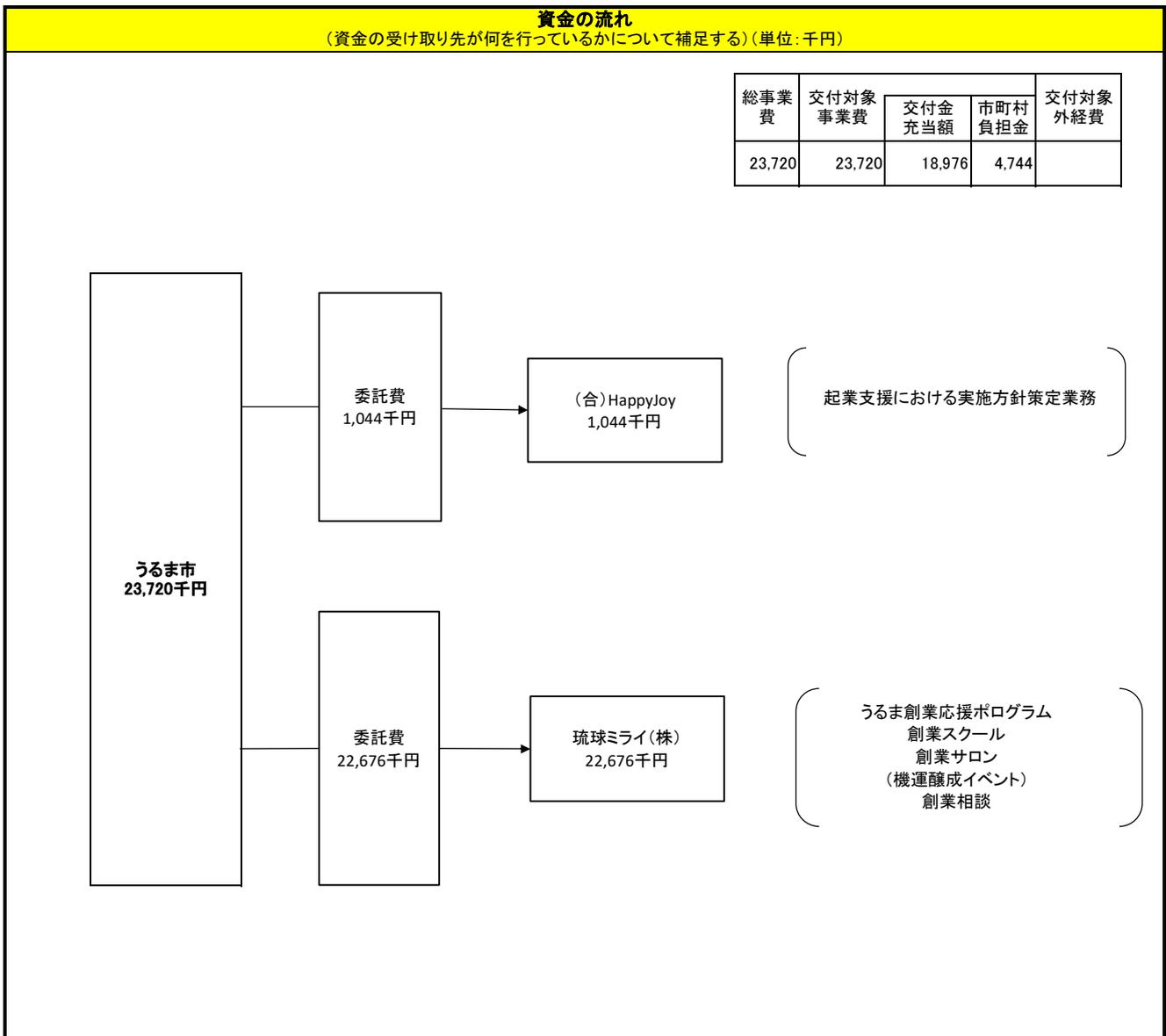

```

    graph LR
      A[うるま市 24,728千円] --> B[委託料 24,728千円]
      B --> C[うるま市企業PR・人材育成共同企業体 受託コンソーシアム (代表者:株式会社日本旅行沖縄) 24,728千円]
      C --- D[中城湾港立地企業等PR支援事業委託費]
  
```

| 資金使途の流れ、点検・評価 | 評価 | 点検項目 | 評価に関する説明 |
|---------------|----|--------------------------------|---|
| | ○ | 支出先の選定方法は妥当か。 | ○委託事業者は公募型プロポーザル方式により組織、実績、知識、執行体制を助案のうえ選定しており、妥当であると考えられる。 |
| | ○ | 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。 | ○予算規模については、事業計画どおり実施し適正であったと考えられる。 |
| | - | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | ○費目・使途については、事業目的達成の観点から必要か否かを精査し支出等に関する書類により確認したところ適正であった。 |
| | ○ | 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | |

| | | | | | | | |
|---|---|---|-------------|--------------|----------------------|-------------|---------|
| 市町村名 | うるま市 | | | | | | |
| 令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】 | | | | | | | |
| 事業番号・事業名 | 5-① | うるまベンチャースクール事業 | | | 新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 | 第4章-3-(6)-ア | |
| 担当部署名 | 経済産業部 商工振興課 | 事業実施(予定)年度 | 令和4年度～令和6年度 | 沖縄振興基本方針該当箇所 | スタートアップの促進 | | |
| 事業内容 | まちの活力を生み出す産業づくり、賑わいある街づくりを目指し、起業支援を行い、起業者を増やすことで、企業所得の増加及び雇用創出を図る。 | | | | | | |
| 効果発現年度 | <input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度) | | | | | | |
| 実施方法 | <input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他() | | | | | | |
| 予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース) | | R4年度 | R5年度 | R6年度 | R7年度 | R8年度 | |
| | 予算の状況 | (a) 当初予算額 | 10,300 | 15,000 | 25,000 | | |
| | | (b) 予算現額 | 10,300 | 15,000 | 25,000 | | |
| | | (c) 増減額(b-a) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | (d) 繰越額 | | 0 | | | |
| | A. 計(b+d) | | 10,300 | 15,000 | 25,000 | 0 | 0 |
| | B. 執行済額 | | 8,630 | 14,967 | 23,720 | | |
| | うち交付金充当額 | | 6,903 | 11,973 | 18,976 | | |
| | 次年度繰越額 | | | | | | |
| | 執行率(%) (B/A) | | 83.8% | 99.8% | 94.9% | #DIV/0! | #DIV/0! |
| 予算の状況の説明 | | 当初の計画に基づき事業を適正に執行することが出来た。執行残については確定検査によるものである。 | | | | | |
| 活動目標(指標)及び達成状況 | 活動目標(指標) | | 達成状況 | | | | |
| | | | R4年度 | R5年度 | R6年度 | R7年度 | |
| | 起業支援者数(参加者数) | 目標 | (10組) | (10組) | (20組) | () | |
| | | 実績 | 10組 | 45組 | 44組 | | |
| | 創業気運醸成プログラム(創業サロン)参加者 | 目標 | () | () | (60組) | () | |
| | | 実績 | | | 126組 | | |
| | 起業相談件数 | 目標 | () | () | (60件) | () | |
| | | 実績 | | | 111件 | | |
| 起業者数(法人登記または開業届出) | 目標 | () | () | (6人) | () | | |
| | 実績 | | | 2人 | | | |
| 達成状況説明 | <ul style="list-style-type: none"> ● 創業支援に関して、スクール、サロン、創業相談と3つのプログラムに分けて支援を行った。 ● 創業スクール: 事前説明会全7回、講座全6回、スピンオフ講座2回、テストマーケティング3回、報告会1回 目標値:参加者20組 実績:参加者44組 ● 創業機運醸成プログラム: 全7回開催 目標値:参加者60組 実績:参加者126組 ● 創業相談: 創業相談窓口からの相談28件、スクール受講生からの相談61件、サロン参加者からの相談3件、過年度卒業生フォローアップからの相談19件 目標値:相談件数60件 実績:相談件数111件 | | | | | | |
| 成果目標(指標)及び進捗状況 | R6成果目標(指標) | | 基準値(年度) | R4年度 | R5年度 | R6年度 | 目標値(年度) |
| | 起業者数(法人登記または開業届出) | 目標 | () | (5組) | (5組) | (6組) | () |
| | | 実績 | | 0件 | 6組 | 2組 | |
| 進捗状況説明 | <ul style="list-style-type: none"> ● 令和7年3月14日時点での起業者数は2組となっているが半年以内の創業予定者が12組いるため、事業期間内での本事業の目標値達成については未達成となるが、今後半年以内における目標値の達成については十分可能性がある。 ● 起業までには至っていないが、事業性活動(売上の発生や顧客獲得している活動者)が3月14日時点で11組あり。今後も継続して活動する意思の確認がとれていることから、今後起業に至る可能性が十分期待できる。 ● 事業終了時(3/14時点)での起業者については目標値を下回るが、起業を予定する受講生が一定数内在していることから、起業するまで長期的な視点で活動を見守る必要がある。なお、本事業終了後1年後の起業者数は目標値を達成していることが予想される。 | | | | | | |

| 推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化) | | 改善余地の検証(効率の更なる向上の視点) |
|---|--|---|
| 取組の検証 | <p>過年度の内容見直しと今年度の創業支援における実施方針を策定し、①主に潜在的起業希望者を対象にしたイベント(創業サロン)、②初期起業準備者、起業準備者へ向けた創業スクール、また、③どのステータスでも利用できる創業相談の3つのプログラムを用意した。</p> <p>昨年度のスクールでは対象者を「起業を考えている方なら誰でも」として窓口を広くしていたが、今年度は対象を、「1・2年以内に起業を目指す方」と限定して受講生の募集を行った。当初、対象を狭めれば受講生の人数が減少すると考えられたが、結果としては昨年度とほぼ同数の受講生が集まった。その要因として昨年度より周知に力を入れたことで本事業対象者の掘り起こしに繋がったこと、また毎年一定数の創業希望者が市内に存在(発生)しており、起業支援に関するニーズが高いことが考えられる。</p> | <p>本事業において創業者となった者について、フォローアップを行いその後の継続状況を把握し、起業後に必要となってくるスキルや知識などのニーズを分析し、創業者へ必要な情報提供などを行い事業の継続と拡大に繋げることで、本事業の目標である市民所得の向上、雇用創出への波及が期待できる。</p> <p>一方で、本市と支援機関とのネットワークを強化し、市内の起業希望者及び創業者に必要な情報の提供や、支援機関への案内がスムーズに行えるような体制の構築が必要である。</p> |
| | 今後の取り組み方針 | |
| <p>本事業では、今後の本市における創業の高まりを目指したセミナー・サロン等を開催、創業に関する機運醸成や創業にチャレンジする環境づくりとなる「創業のたねまき」を行っており、創業及び創業に向けた気運醸成について一定の成果を創出することができた。加えて、各支援機関(うるま市商工会、よろず支援拠点、琉球ミライ、金融機関等)との支援内容(役割)の棲み分け・連携強化により、地域における創業支援の素地構築ができた。今後は、これまでの受講生(創業予定者、事業性活動者)の進捗状況について定期的にフォローアップを行い、創業の有無や創業後に必要な支援等について把握するとともに、これから創業を目指す人も含めて、各支援機関同士の連携により本事業の成果をより高めていきたい。</p> | | |



| 資金の流 れ、費 目・ | 評価 | 点検項目 | 評価に関する説明 |
|-------------------|----|--------------------------------|--|
| | ○ | 支出先の選定方法は妥当か。 | <p>○委託事業者は随意契約によるが、実績や知識、執行体制等踏まえ本事業の遂行が可能である事業者であることから判断した。</p> <p>○執行率が約95%で、適正な規模であった。</p> <p>○費用、用途については中間及び事業終了後に検査を実施し、目的に即し、必要なものであったと判断した。</p> |
| | ○ | 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。 | |
| | — | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | |
| | ○ | 費用・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | |

| | |
|------|------|
| 市町村名 | うるま市 |
|------|------|

令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

| | | | | |
|----------|-------------|----------------|--------------------------|--------------------------|
| 事業番号・事業名 | 5-② | スポーツ力向上促進事業 | 新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 | 第4章-5-(2)-イ |
| 担当部課名 | 学校教育部 学校教育課 | 事業実施 (予定)年度 | 令和元年度～ 令和13年度 | 沖縄振興基本方針 該当箇所 |
| | | | | 豊かな心と健やかな体を育む 学校教育の推進 |
| | | | | Ⅲ-3-1 |

事業内容
スポーツを通じた人材育成のため、スポーツ教室の開催や外部指導員を活用し、指導力向上などに取り組み部活動加入率の改善を図る。

効果発現年度
 当年度 後年度(年度)

実施方法
 直接実施 委託 補助 負担 その他()

| | | R2年度 | R3年度 | R4年度 | R5年度 | R6年度 |
|---|---|---|--------|--------|--------|--------|
| 予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース) | 予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額 (b-a) (d) 繰越額 A. 計 (b+d) | 25,000 | 25,000 | 23,910 | 23,910 | 23,910 |
| | | 25,000 | 25,000 | 23,910 | 23,910 | 23,910 |
| | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | | | | | |
| | | 25,000 | 25,000 | 23,910 | 23,910 | 23,910 |
| | B. 執行済額 うち交付金充当額 | 24421 | 24865 | 23592 | 23,909 | 17,584 |
| | | 19537 | 19892 | 18873 | 19,127 | 14,066 |
| | 次年度繰越額 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | 執行率(%) (B/A) | 97.7% | 99.5% | 98.7% | 100.0% | 73.5% |
| | 予算の状況の説明 | 当初、対象数は25クラブを想定していたが、実績としては学校との調整が整った19クラブでの実施となった。不用額については、実施クラブ数の減によるものである。 | | | | |

| 活動目標(指標) | 達成状況 | 達成状況 | | | |
|----------|--|----------|----------|----------|----------|
| | | R3年度 | R4年度 | R5年度 | R6年度 |
| 外部指導員の配置 | 目標 | (27名) | (28名) | (28名) | (30名) |
| | 実績 | 26名 | 28名 | 28名 | 23名 |
| | 目標 | () | () | () | () |
| | 実績 | | | | |
| 達成状況説明 | あげな中学校5部活、伊波中学校5部活、具志川中学校1部活、高江洲中学校3部活、彩橋中学校部1活、石川中学校3部活、与勝第二中学校1部活の7校19部活に指導員の配置を行い実施した。目標値未達成の理由として、新規クラブ設定の遅延や調整等に時間を要し、新規クラブへの指導者派遣が3クラブに留まったことがあげられる。 | | | | |

| 成果目標(指標) | 基準値(年度) | R4年度 | R5年度 | R6年度 | 目標値(年度) |
|---------------------|---------|--------------------|----------|----------|---------|
| | | 生徒等へのアンケート(生徒の満足度) | () | (80%) | (80%) |
| | 実績 | | 84% | 94% | 95% |
| | 目標 | () | (80%) | (92%) | (80%) |
| 指導者へのアンケート(指導者の満足度) | 実績 | | 79% | 98% | 100% |
| | 目標 | () | () | () | (60%) |
| 部活動加入率 60% | 実績 | | | | 43% |

進捗状況説明
 ・生徒等・指導者へのアンケートでは目標値を上回る評価を得た。事業の効果が確認されたものと考えられる。
 ・運動機会や生徒のニーズの多様化が進み、必ずしも学校運動部活動のみがスポーツに親しむ場ではなくなっている現状がある。本事業では年度途中で指導が具体化するので、運動部活動に加入を促進するまでには至らなかったと考察する。

| 推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化) | | 改善余地の検証(効率の更なる向上の視点) |
|-------------------------|---|--|
| 取組の検証 | <ul style="list-style-type: none"> ・目標未達: 当初目標の25クラブに対し、実績は19クラブ(うち1クラブは地域連携型モデル)に留まった。 ・新規クラブ設定の遅延: 調整等に時間を要し、新規設定が3クラブに留まった。関係機関との連携強化や調整プロセスの効率化が求められる。 ・活動の一時中断: 年度切り替え時の活動中断に対する意見が多く、指導者の継続的な配置と活動の継続性確保が課題となっている。学校側や生徒・保護者の安心感を醸成するためにも、切れ目のない体制づくりが重要である。 | <p>継続実施における課題への対応: 年度切り替え時の活動中断という課題に対し、切れ目のない指導者の配置と活動の継続性を求める声が大きく、効率的な解決策としては、例えば、「指導者のローテーションシステムや複数指導者による連携体制の導入」「活動休止期間における代替プログラムの検討」など、具体的な検討状況や進捗を示すことで、課題解決に向けた効率的な動きを期待したい。</p> |
| | <p>外部環境の変化:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域移行への関心の高まりと具体的な疑問: 学校側から地域移行の具体的な計画や、指導者・資金・施設の確保・管理に関する質問が多く寄せられている。これは地域移行への意識の高まりを示す一方で、具体的な施策に対する不安や疑問が存在することを示唆している。 | |

今後の取り組み方針

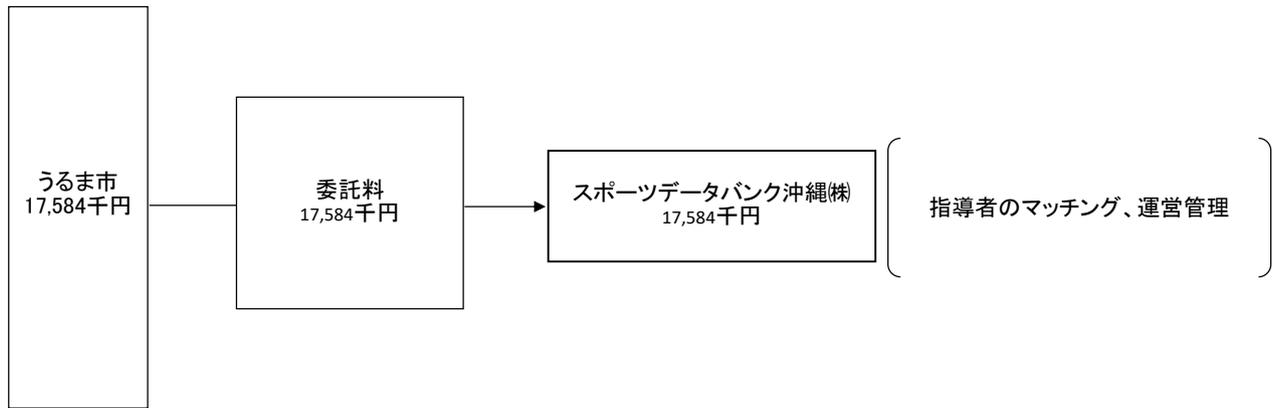
・調整については、顧問教員と指導者とで計画づくりを行っているが、体育施設の割り振りなどが月の下旬に決まることが多く、かつ大会や行事などにより事前の決定が困難な状況が発生しているため、学校施設活用の調整方法も含めた検討を行う。

・指標としている「部活動加入率及び在籍生徒数」については、既存の部活動に対して新規部員数を増やすのではなく、指導者がいないために実施ができない種目を含めたニーズの調査を行うとともに、ゆるく運動・スポーツを行える環境づくりも一部検討していくことで、市内生徒のスポーツ離れをなくしていくことやひいては部活動の加入率向上を目指す。

・アンケートの実施方法や実施時期を検討のうえ、事業の評価及び取り組みのあり方の検証を適切に実施する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

| 総事業費 | 交付対象事業費 | 交付金 | | 交付対象外経費 |
|--------|---------|--------|--------|---------|
| | | 充当額 | 市町村負担金 | |
| 17,584 | 17,584 | 14,066 | 3,518 | |



| 資金の用途の点検・費目 | 評価 | 点検項目 | 評価に関する説明 |
|-------------|----|--------------------------------|--|
| | ○ | 支出先の選定方法は妥当か。 | <p>○委託業者は、これまでのモデル事業や調査事業の実績を踏まえ、学校との関係性や継続性を勘案して選定しており、妥当である。</p> <p>○実施数は25部活を想定していたが、学校との調整が整った19部活での実施となったため不用率26%となった。</p> <p>○費目・用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。</p> |
| | △ | 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。 | |
| | - | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | |
| | ○ | 費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | |

| | |
|------|------|
| 市町村名 | うるま市 |
|------|------|

令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

| | | | | |
|----------|-------------|--------------|----------------------|--------------------|
| 事業番号・事業名 | 6-① | 教育ICT支援員派遣事業 | 新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 | 第4章-5-(2)-ア |
| 担当部課名 | 学校教育部 学校教育課 | 事業実施(予定)年度 | 令和3年度～令和8年度 | 沖縄振興基本方針該当箇所 |
| | | | | 確かな学力を身につける学校教育の充実 |
| | | | | Ⅲ-3-(1) |

事業内容
ICT機器を効果的に活用し、児童生徒の学習意欲の向上や情報活用能力の育成環境を整えるため、ICT支援員を各学校に派遣し、授業等でのICT機器の活用支援を行う。

効果発現年度
 当年度 後年度(年度)

実施方法
 直接実施 委託 補助 負担 その他()

| 予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース) | 予算の状況 | R3年度 | R4年度 | R5年度 | R6年度 |
|--|------------------------|-----------|---------|--------|--------|
| | | (a) 当初予算額 | 19,844 | | 19,844 |
| (b) 予算現額 | | 19,844 | | 19,844 | 19,844 |
| (c) 増減額(b-a) | | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (d) 繰越額 | | | | | |
| A. 計(b+d) | | 19,844 | 0 | 19,844 | 19,844 |
| B. 執行済額 | | 19,844 | | 19,844 | 19,844 |
| うち交付金充当額 | | 15,875 | | 15,875 | 15,875 |
| 次年度繰越額 | | | | | |
| 執行率(%) (B/A) | | 100.0% | #DIV/0! | 100.0% | 100.0% |
| 予算の状況の説明 | 当初の計画どおり事業を執行することができた。 | | | | |

| 活動目標(指標)及び達成状況 | 活動目標(指標) | 達成状況 | | | |
|----------------|---|------------|------------------------|------------|------------|
| | | R3年度 | R4年度 | R5年度 | R6年度 |
| ICT支援員の配置 | 目標 | (3人・26校) | () | (4人・26校) | (4人・26校) |
| | 実績 | 3人・26校 | | 4人・26校 | 4人・26校 |
| 学校支援回数 | 目標 | (570日) | () | (624日) | (624日) |
| | 実績 | 449日 | | 693日 | 691日 |
| 達成状況説明 | ICT支援員4名の巡回訪問支援により、26校のサポートを実施した。 また、学校支援日数として、1学校あたり年間平均26.5日×26校=693日の巡回支援を実施した。 | | | | |

| 成果目標(指標)及び進捗状況 | 成果目標(指標) | 基準値(R3年度) | R4年度 | R5年度 | R6年度 | 目標値(R6年度) |
|----------------|--|------------------------|---|------------------------|------------------------|------------------------|
| | | | ICT機器を活用した学習活動により、学習意欲が向上したと思うか(※児童生徒アンケート調査) | 目標 | (80%) | () |
| | 実績 | | | 92% | 88% | |
| 【参考指標】 | 目標 | () | () | () | () | () |
| | 実績 | | | | | |
| 進捗状況説明 | 目標値80%に対して、実績値が88%であり、目標達成となった。 関連質問①(教員)として、「ICT機器を活用し、児童生徒の学習意欲を高める授業づくりができていると思うか」という質問に対し、「思う」「どちらかと言えば思う」と答えた割合は、合計80%となっており、教員の授業等におけるICT活用に対して積極的に取組む姿勢が伺える。 関連質問②(児童生徒)として、「パソコンを使った授業は、自分の考えを広げたり深めたりすることに役立っていると思うか」という質問に対し、「思う」「どちらかと言えば思う」と答えた割合は、合計で94%となっており、端末を活用した学習活動は肯定的に捉えられている。 | | | | | |

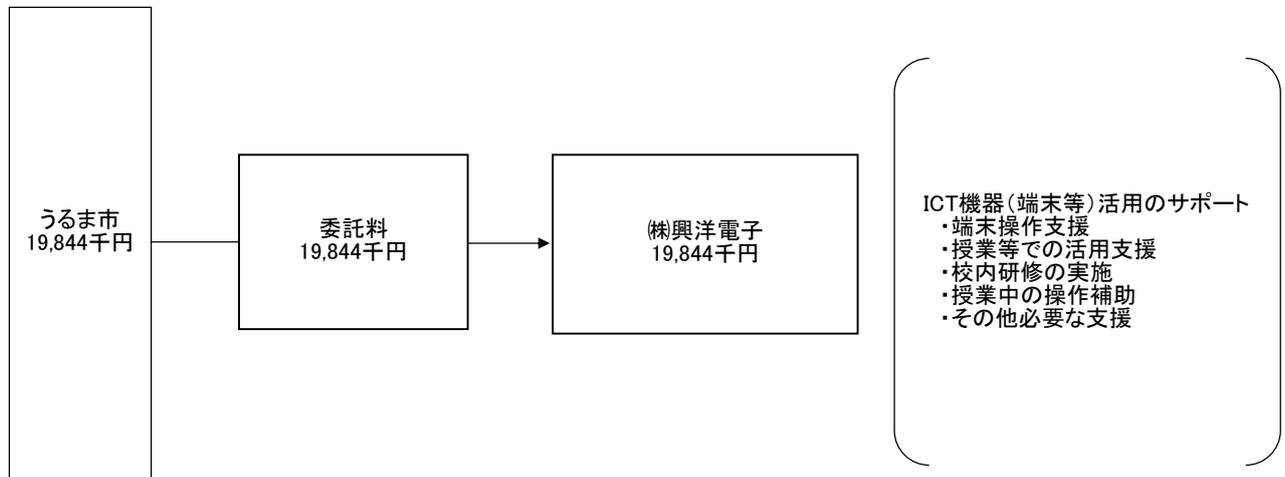
| | 推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化) | 改善余地の検証(効率の更なる向上の視点) |
|-------|--|--|
| 取組の検証 | (ICT機器を活用した学習活動による児童生徒の学習意欲向上) ・授業改善のため、教員が授業等においてICT機器の積極的な活用を図っていることが、目標達成の要因になっていると考えている。 | (ICT機器を活用した学習活動による児童生徒の学習意欲向上) ・引き続き、各教科等における端末活用を推進し、実践を重ねることで、より効果的・発展的な活用に繋げる。 |
| | (教員のICT活用) ・ICT機器を単に使うことを目的とする初歩的な活用から学びを深める手段として活用する場面が多く見られるようになった。 ・一方で、ICT活用が苦手な教員が一定数おり、端末の利用頻度が低調な学級や効果的な活用に至っていない学級がある。 | (教員のICT活用) ・1人1台端末活用の好事例等について、市内小中学校の教員が情報を共有できる「Googleサイト」で構築し運用しているが、事例等の投稿数を増やすなど、内容の更なる充実を図る。 ・ICT活用が苦手な教員に対し、学校と連携して積極的なアプローチを行う。 |

今後の取り組み方針

・端末活用の好事例を共有する「Googleサイト」の更なる充実を図る。
 ・夏休み期間における全体向け研修について、参加しやすい時間帯やニーズを調査し、短時間でも充実した研修会を企画し、実施する。
 ・学校と連携し、ICT活用が苦手な教員へのアプローチを積極的に行い、段階的活用など、きめ細かな支援を展開し、端末活用の学校間差や学級間差の解消に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

| 総事業費 | 交付対象事業費 | 交付金充当額 | | 交付対象外経費 |
|--------|---------|--------|-------|---------|
| | | 市町村負担金 | | |
| 19,844 | 19,844 | 15,875 | 3,969 | 0 |



| 資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価 | 評価 | 点 検 項 目 | 評価に関する説明 |
|---------------------------------------|----|--------------------------------|---|
| | ○ | 支出先の選定方法は妥当か。 | ○委託事業者は、これまでの取組みの継続性及び今後の事業展開を勘案のうえ選定しており、妥当であると考えられる。 ○予算規模については執行率等から判断し、適正であったと考える。 ○費目・用途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時等において支出等に関する書類により確認したところ適正であった。 |
| | ○ | 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。 | |
| | — | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | |
| | ○ | 費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | |

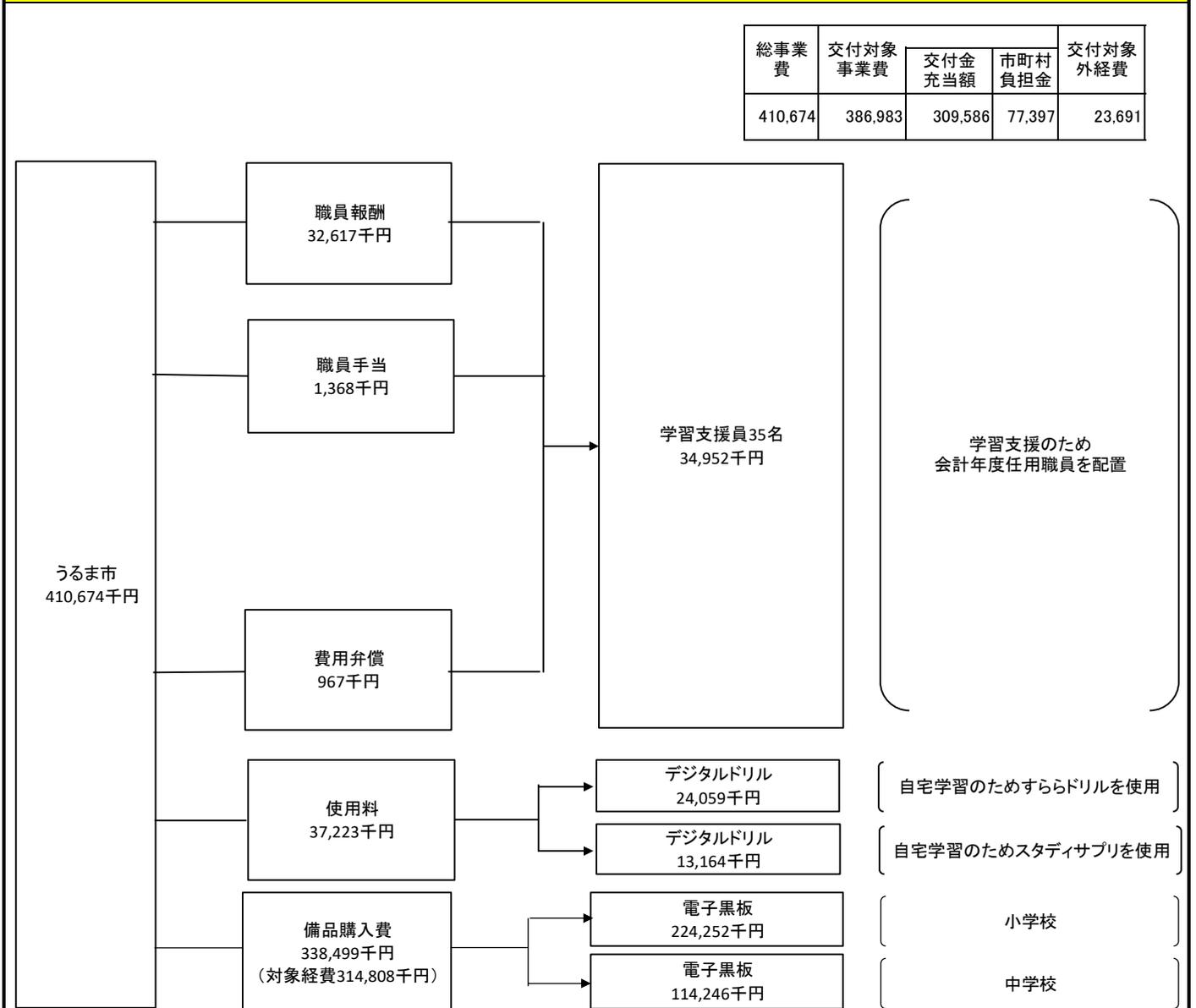
| 市町村名 | | うるま市 | | | | | |
|--|---|---|-------------------|--------------------------|------------------------------|----------------------------|----------|
| 令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】 | | | | | | | |
| 事業番号・事業名 | 6-② | 学力向上対策推進事業 | | 新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 | 第4章-5-(2)-(ア) | | |
| 担当部課名 | 学校教育部 学校教育課 | 事業実施(予定)年度 | 平成24年度～ 令和13年度 | 沖縄振興基本方針 該当箇所 | 確かな学力を身に付ける学校教育の充実 | | |
| 事業内容 | 学力に不安のある児童生徒に対し、学力に応じた個々の学習指導を行うことで、全体の学力の向上を図る。 | | | | | | |
| 効果発現年度 | <input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度) | | | | | | |
| 実施方法 | <input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他() | | | | | | |
| 予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース) | | R2年度 | R3年度 | R4年度 | R5年度 | R6年度 | |
| | 予算の状況 | (a) 当初予算額 | 12,759 | 12,185 | 46,646 | 72,071 | 443,899 |
| | | (b) 予算現額 | 12,603 | 12,185 | 46,646 | 72,071 | 413,372 |
| | | (c) 増減額(b-a) | ▲156 | 0 | 0 | 0 | ▲30,527 |
| | | (d) 繰越額 | | | | | |
| | | A. 計(b+d) | 12,603 | 12,185 | 46,646 | 72,071 | 413,372 |
| | B. 執行済額 | | 11,870 | 10,802 | 44,135 | 70,926 | 410,673 |
| | うち交付金充当額 | | 11,496 | 8,641 | 35,308 | 56,740 | 310,025 |
| | 次年度繰越額 | | | | | | |
| | 執行率(%) (B/A) | | 94.2% | 88.6% | 94.6% | 98.4% | 99.3% |
| 予算の状況の説明 | | 事業当初の予定通りおおむね執行することができたが、学習支援員については年度当初から目標どおりの人員が確保できなかった。 | | | | | |
| 活動目標(指標)及び達成状況 | 活動目標(指標) | | 達成状況 | | | | |
| | | | R3年度 | R4年度 | R5年度 | R6年度 | |
| | 学習支援員配置人数 | 目標 | (27) | (27) | (28) | (36) | |
| | | 実績 | 13 | 26 | 32 | 35 | |
| | デジタル教材の活用 | 目標 | () | () | (2件) | (2件) | |
| 実績 | | | | 2件 | 2件 | | |
| 達成状況説明 | <ul style="list-style-type: none"> 学習支援員配置については、各学校から提出された学習支援活動計画書に基づき、学力向上支援員を配置し、学力に応じた個々の学習指導を行い、学習意欲の向上と基礎的・基本的な学力定着に向けた支援を行った。 ICTを活用した個に応じた学習の展開として、デジタル教材と電子黒板を導入し、学びの定着に向けた環境づくりを行った。 年度当初より学習支援員が確保できず、人員の配置について目標を達成できなかった。 | | | | | | |
| 成果目標(指標)及び進捗状況 | 成果目標(指標) | | 基準値(年度) | R4年度 | R5年度 | R6年度 | 目標値(年度) |
| | 学習意欲の向上 (全国学力・学習状況児童生徒質問調査より) ・「算数/数学の勉強は好きですか」 ・「授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間になっていましたか」 | 目標 | () | () | (全国水準) | (全国水準) | () |
| | | 実績 | | | 小 -3.7 中-3.9 小 +0.8 中-1.8 | 小-3.7 中-3.9 小+2.3 中+1.1 | |
| | 自学自習力の育成 (全国学力・学習状況児童生徒質問調査の全国平均との差) ・「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」 「家で自分で計画を立てて勉強していますか」 | 目標 | () | () | (全国水準) | (全国水準) | () |
| | | 実績 | | | 小-4.3 中-0.7 小+3.6 中-3.0 | 小+1.7 中-3.2 小+2.3 中+1.1 | |
| | 学びの定着(全国学力・学習状況調査の平均正答率の全国との差:算数・数学) | 目標 | () | () | (全国水準) | (全国水準) | () |
| 実績 | | | | 小学校 -7.5 中学校 -14 | 小学校 -10.4 中学校 -15.5 | | |
| 進捗状況説明 | <ul style="list-style-type: none"> 全国学力・学習状況調査の質問調査より、学習意欲に関する項目について経年変化をみても上昇傾向にあり、全国平均を超える項目もあり、全体的に意欲向上が見られている。中でも、自学自習力の育成に関する項目については、小中ともに全国平均を超え、自学学習に意識して取り組んでいる児童生徒の割合が増加している。 学びの定着に向けては、小学校では、ほぼ水準を推移していたが、今年度は小中ともに差が広がっている。正答率30%未満の児童生徒の割合は、昨年度より5%程度改善している。 | | | | | | |

| 取組の検証 | 推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化) | 改善余地の検証(効率の更なる向上の視点) |
|-------|---|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍が明け、通常の教育活動が戻りつつあるが、学びの未定着からくる困り感や家庭での学習環境の影響により学力格差が生じており、学びの定着が図れていない児童生徒が一定数おり、増加傾向にある。 ・低学年からの基礎・基本の学習内容の積み重ねが不十分な状況も見られるが、学校においては、個別指導や補習等による対応の時間の確保が難しくなっている。 ・授業における授業支援だけでなく、個の学習状況に応じた学習支援や、長期休業中や、すき間時間を使った補習、さらに、電子黒板やデジタル教材を活用した個の学習状況に応じた学びの定着を図っていく必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習支援員の配置については、児童生徒の個に応じた学習状況や多様な困り感に対し、よりきめ細やかな支援を行い、授業支援だけでなく個別支援や補習指導を充実させる必要がある。学びの定着を図るためにも、学校規模や学習状況の実態に応じた支援員の配置を図る。 ・個に応じた効率的な個別最適な学習や個別支援を実施するために、端末の活用とともに、電子黒板やデジタル教材を活用した授業改善の推進や家庭学習の充実や自学自習の促進を図る。 |

今後の取り組み方針

- ・学習支援については、より充実したきめ細やかな支援を行うため、勤務時間等や勤務体制等を工夫し、学校の実情に応じて個別支援の時間の確保を行う。
- ・デジタル教材の活用については、個の学習状況や困り感に応じた学びの定着を図るためにも、各学校がデジタル教材活用計画を作成し、成果指標を踏まえた活用場を設定する等、日常的な活用場面と学習機会の創出を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



| 資金の 用途の 流れ 点検 評価 費目 | 評価 | 点検項目 | 評価に関する説明 |
|------------------------------------|----|--------------------------------|---|
| | ○ | 支出先の選定方法は妥当か。 | <ul style="list-style-type: none"> ・支出先の選定については、適正に選定している。 ・予算規模及び費目、用途については、適正に執行している。 |
| | ○ | 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。 | |
| | - | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | |
| | ○ | 費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | |

| | |
|------|------|
| 市町村名 | うるま市 |
|------|------|

令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

| | | | | |
|----------|-------------|---------------------|----------------------|----------------------|
| 事業番号・事業名 | 6-③ | ICTを活用した特色ある学校づくり事業 | 新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 | 第4章-5-(3)-(イ) |
| 担当部課名 | 学校教育部 学校教育課 | 事業実施(予定)年度 | 令和2年度～令和13年度 | Society5.0に対応する教育の推進 |
| | | | 沖縄振興基本方針該当箇所 | Ⅲ-3-(1) |

事業内容
 生徒数が減少傾向にある彩橋小中学校、津堅小中学校、与勝第二中学校等において、特色ある学校づくりを図るため、N高等学校と連携し、オンライン上での課外活動やオフラインでの探求型学習などを通じ、地域内外と協働し課題解決や価値創造に取り組める人材育成を学校の特色とすることで、生徒数の増加及びライフスキルの向上を図る。

効果発現年度
 当年度 後年度(年度)

実施方法
 直接実施 委託 補助 負担 その他()

| | | R2年度 | R3年度 | R4年度 | R5年度 | R6年度 |
|---|---------------------------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース) | 予算の状況 | | | | | |
| | (a) 当初予算額 | 30,000 | 24,000 | 24,854 | 24,854 | 36,698 |
| | (b) 予算現額 | 30,000 | 24,000 | 24,854 | 24,854 | 32,253 |
| | (c) 増減額(b-a) | 0 | 0 | 0 | 0 | ▲ 4,445 |
| | (d) 繰越額 | | | | | |
| | A. 計(b+d) | 30,000 | 24,000 | 24,854 | 24,854 | 32,253 |
| | B. 執行済額 | 27,886 | 19,927 | 24,854 | 24,816 | 31,403 |
| | うち交付金充当額 | 22,308 | 15,942 | 19,882 | 19,853 | 25,122 |
| 次年度繰越額 | | | | | | |
| 執行率(%) (B/A) | | 93.0% | 83.0% | 100.0% | 99.8% | 97.4% |
| 予算の状況の説明 | 委託契約後の不用額については、2月補正で減額した。 | | | | | |

| 活動目標(指標)及び達成状況 | 活動目標(指標) | 達成状況 | | | |
|----------------|--|-----------|---------|---------|---------|
| | | R3年度 | R4年度 | R5年度 | R6年度 |
| 参加児童生徒数 | 目標 | () | (40名) | (50名) | (50名) |
| | 実績 | | 70名 | 90名 | 92名 |
| 学習プログラムの開発 | 目標 | (開発の実施) | (2件) | (2件) | (2件) |
| | 実績 | | 開発完了 | 4件 | 5件 |
| 達成状況説明 | ネット部活に登録した児童・生徒数が92名で、主となる「ネット部活」の参加実績としてメインプログラム(月曜)には延べ505名、サブプログラム(水曜、金曜でWEBのみ)には延べ317名の参加があった。 学習プログラムについては、模擬授業(5回実施)、ネット部活、社会接続(依頼事業者のためにポスター、音楽、スタンブラリーなどを作成)、沖縄高専参観ツアー、成果発表会(3回)を開発、実施した。 | | | | |

| 成果目標(指標)及び進捗状況 | 成果目標(指標) | 基準値(年度) | R4年度 | R5年度 | R6年度 | 目標値(年度) | |
|----------------|---|-------------------------|----------|------------|------------|------------|----------|
| | | 参加した児童生徒のライフスキル自己評価10項目 | () | (平均10%増) | (平均10%増) | (平均10%増) | () |
| | | 実績 | | 5% | 0.4% | 8.8% | |
| | 本事業に参加した児童生徒数R6年度中の増加数 | 目標 | () | () | () | (3名) | () |
| | 実績 | | | | 0名 | | |
| 進捗状況説明 | 授業前後のアンケート比較によるライフスキルの増加項目は増加率の高い順に批判的思考、自己認識、効果的コミュニケーション、創造的思考、問題解決、対人関係があげられる。これらの能力の向上は、多角的な視点から物事を捉え、客観的に自己を理解できるようになり、円滑な意思決定を通じて他者と強調し、斬新な発想で課題を乗り越え、良好な人間関係を築くことができるようになってきていると考えられる。 特色ある学校づくりに取り組むことで学校の魅力が増し、児童生徒のライフスキル(生きる力)の向上に寄与していると考えられるが、児童生徒数の増加にはつながらなかった。 | | | | | | |

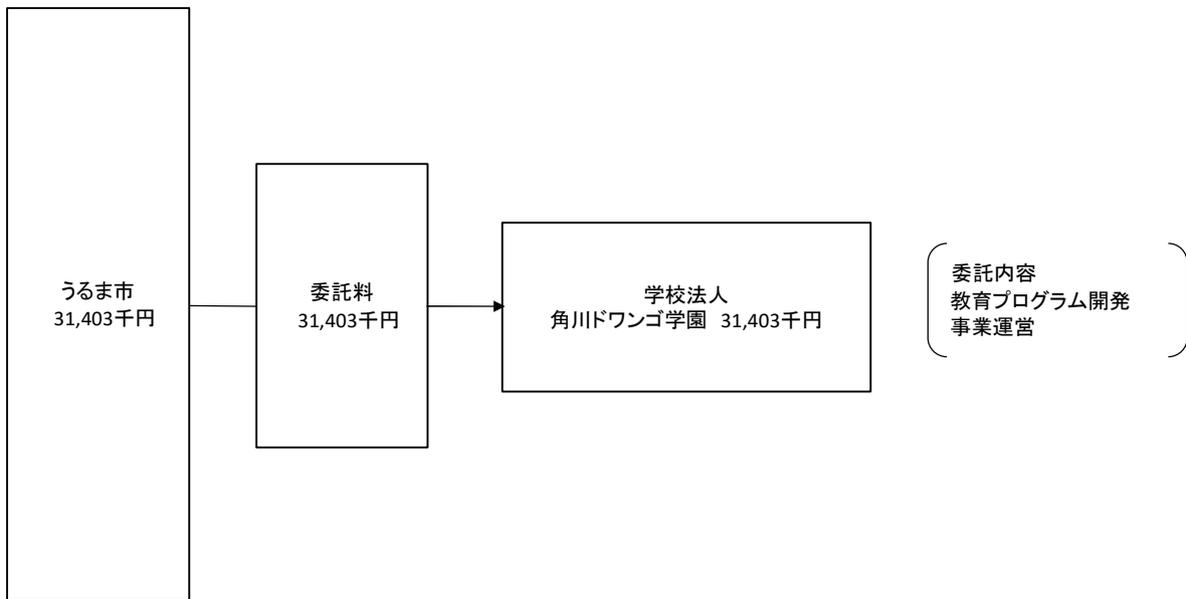
| | 推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化) | 改善余地の検証(効率の更なる向上の視点) |
|-------|--|--|
| 取組の検証 | <p>・前年度までの、学校を会場とした取組を学校外の拠点に児童生徒を集めた実施に変えたため、参加者および保護者には移動・送迎の心理的、時間的、空間的な負担が生じている。それが主な原因で、参加者数(1219人)は目標値(2000人)に達しなかったと考える。</p> <p>・児童生徒の第三の居場所としての「ネット部活」が子供の特異な才能を伸ばす場なのか、スキルや意欲を問わずに参加できる場なのか不明瞭な状態となり、新規参加者増加を困難にさせた要因となった可能性がある。</p> <p>・社会接続プログラムは、児童生徒の作品・成果物を世の中に送り出すことができ、参加者の達成感、自己効力感の醸成につながっていると考える。</p> | <p>・活動拠点を学校を中心とする方向で再構成する。</p> <p>・活動プログラムを対象児童生徒を想定した形でカテゴリライズし、できる限り、複数用意する。</p> <p>・社会接続プログラムの充実を図る。</p> <p>・市民に広く、成果物の発表の場を設定する。</p> |

今後の取り組み方針

課題解決、社会接続プログラムの充実を図り、生徒が新たな価値の創造の実践的な活動につなげていく。その中で、協働して課題に取り組むスキルや経験をえて、良好な人間関係をつくり、将来必要とされるコミュニケーション力および表現力の向上を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

| 総事業費 | 交付対象事業費 | 交付金充当額 | | 交付対象外経費 |
|--------|---------|--------|--------|---------|
| | | 交付金 | 市町村負担金 | |
| 31,403 | 31,403 | 25,122 | 6,281 | |



| 資金の用途の流れ、費目・評価 | 評価 | 点検項目 | 評価に関する説明 |
|----------------|--------------------------------|-----------------------------|---|
| | ○ | 支出先の選定方法は妥当か。 | ○支出先の選定については、市内に本校を置きICT教育に精通した学校との連携として選定しているため妥当であると思料する。 ○予算規模及び費目、用途については、適正に執行している。 ○費目、用途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し、適切であると思料する。 |
| | ○ | 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。 | |
| | — | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | |
| ○ | 費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | | |

市町村名 うるま市

令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

Table with 4 columns: 事業番号・事業名 (7-①, 伝統文化・民俗芸能伝承活動事業), 担当部課名 (社会教育部 文化財課), 事業実施(予定)年度 (令和5年度～令和9年度), 新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 (第4章-1-(4)-(ア), 沖縄文化の継承・発展・普及, III-3-(3))

事業内容: 伝統行事や民俗芸能を継承する担い手の高齢化や、自治体の加入者不足により、用具の購入や修繕、祭り等の表現する機会の出演関係費等の予算確保が困難となっている現状であり、各団体の活動が低迷している。大きな要因である予算不足を緩和するため用具の購入や修繕、発表をする際の経費を補助することで、民俗芸能の継承や復活の契機を促す。

効果発現年度: 当年度 (), 後年度(令和 年度) ()

実施方法: 直接実施 (), 委託 (), 補助 (), 負担 (), その他 ()

Table with 7 columns: 予算額・執行額 (単位:千円), R5年度, R6年度, R7年度, R8年度, R9年度. Rows include: (a)当初予算額, (b)予算現額, (c)増減額(b-a), (d)繰越額, A.計(b+d), B.執行済額, うち交付金充当額, 次年度繰越額, 執行率(%)(B/A), 予算の状況の説明

Table with 5 columns: 活動目標(指標), 達成状況 (R5年度, R6年度, R7年度, R8年度). Rows include: 伝統芸能・民俗芸能団体へ補助すること (目標: 5団体, 実績: 7団体), 目標 (), 実績 ()

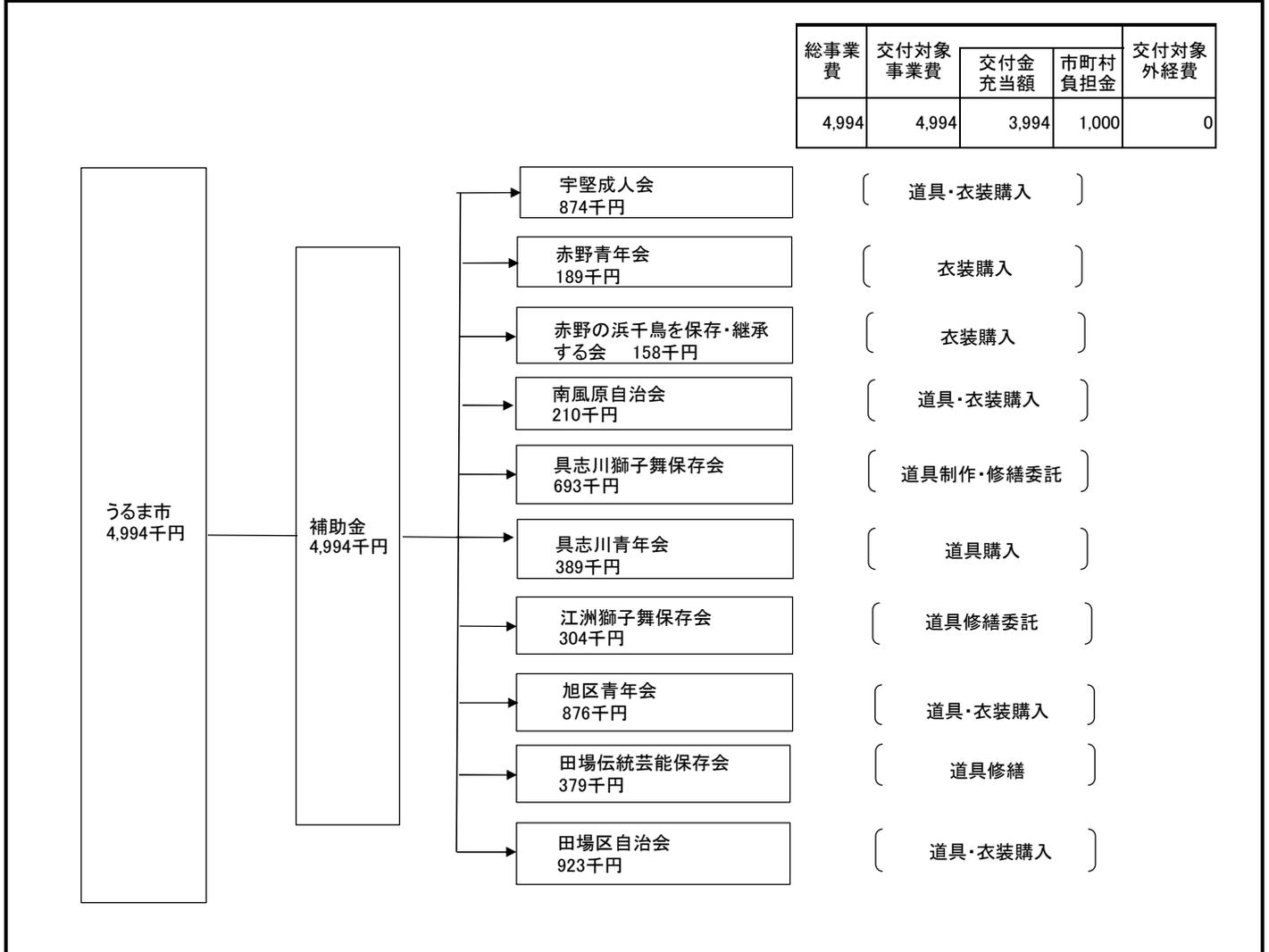
達成状況説明: ・当初、5団体を目標としたが、演舞に使用する道具の破損や使用できなかった団体が多く、併せて昨年度実施した影響から多くの申し込みがあった。申請内容を精査し、予算の範囲内において10団体を決定した。

Table with 7 columns: 成果目標(指標), 基準値(5年度), R5年度, R6年度, R7年度, 目標値(年度). Rows include: 伝統芸能やイベントへの出演回数 (目標: 5回, 実績: 7回), 目標 (), 実績 ()

進捗状況説明: ・年1回ほどの祭りやイベントの出演回数を想定していたが、道具を新調したことにより演者の士気があがり、各団体とも出演回数が増加した。併せて、団体への新規加入者も若干みられた。

| 推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化) | | 改善余地の検証(効率の更なる向上の視点) |
|---|--|--|
| 取組の検証 | (申請団体の増加及び申請内容の精査) ・事業内容の周知、実施状況を含め、申請団体の数は増加したが、申請の内容が多岐にわたったことから、その精査に時間を要した。 | (補助内容の周知) ・令和5年度の各団体の実績内容の周知や、各文化的イベントなどでの周知を図ることにより、低迷していた団体の復活、活動の活性化の契機となった。 |
| | 今後の取り組み方針 | |
| (多種伝統・民俗芸能への補助) 市内には多種の伝統・民俗芸能があるが、多くが低迷している状況であるため、本事業が復活の契機となるよう、周知を図っていく。 | | |

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



| 資金の 使途の 流れ 点検 評価 費目 | 評価 | 点検項目 | 評価に関する説明 |
|------------------------------------|----|--------------------------------|---|
| | ○ | 支出先の選定方法は妥当か。 | ○選定方法は、交付申請書を受け付け、事業内容を精査し、決定しているため妥当と考える。 |
| | ○ | 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。 | ○予算規模は、妥当であったと考える |
| | ○ | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | ○受益者は、受益後、祭り、イベント等で活動し、市文化財の保存継承を担ったため妥当であった。 |
| | ○ | 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | ○費用・使途については、演舞のための道具のみに限定されているため、妥当である。 |

| | | | | | | | |
|--|---|--|--------------------------|------------------|--------------------------|--------------|--------------|
| 市町村名 | うるま市 | | | | | | |
| 令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】 | | | | | | | |
| 事業番号・事業名 | 7-② | 文化財環境整備事業（嘉手苅観音堂整備事業） | 新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 | 第4章-1-(4)-(ア) | | | |
| 担当部署名 | 社会教育部 文化財課 | 事業実施 (予定)年度 | 令和6年度 | 沖縄振興基本方針 該当箇所 | 沖繩文化の継承・発展・普及 Ⅲ-3-(3) | | |
| 事業内容 | 市内文化財の環境を整備し、価値を保全することで、安全な文化財への来訪を可能にし、価値の周知と地域資源としての活用を図り、活用し続けられる文化財としていく。 | | | | | | |
| 効果発現年度 | ■当年度 ■後年度(令和7年度) | | | | | | |
| 実施方法 | <input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 () | | | | | | |
| 予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース) | | R6年度 | R7年度 | R8年度 | R9年度 | R10年度 | |
| | 予算 の 状 況 | (a)当初予算額 | 6,490 | | | | |
| | | (b)予算現額 | 8,491 | | | | |
| | | (c)増減額(b-a) | 2,001 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | (d)繰越額 | 0 | | | | |
| | | A. 計(b+d) | 8,491 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | B. 執行済額 | | 8,191 | | | | |
| | うち交付金充当額 | | 6,552 | | | | |
| | 次年度繰越額 | | 0 | | | | |
| | 執行率(%) (B/A) | | 96.5% | #DIV/0! | #DIV/0! | #DIV/0! | #DIV/0! |
| 予算の状況の説明 | | 当初、既設瓦で葺き替えを行う工程だったが再利用できない使用不可瓦があり、不足分の追加の瓦購入が必要になり、工事請負費2,001千円を増額した。 不用額については、請負額の減によるものである。 | | | | | |
| 活動目標 (指標) 及び達成状況 | 活動目標(指標) | | 達成状況 | | | | |
| | | | R6年度 | R7年度 | R8年度 | R9年度 | |
| | 市指定文化財「嘉手苅観音堂」の整備工事の実施 | 目標 | (工事の完了) | () | () | () | |
| | | 実績 | 工事の完了 | | | | |
| | | 目標 | () | () | () | () | |
| 実績 | | | | | | | |
| 達成状況説明 | 嘉手苅観音堂整備事業を実施するため、地方自治法施行令第167条の2第1項第8号に基づき随意契約により整備工事を行った。 | | | | | | |
| 成果目標 (指標) 及び進捗状況 | 成果目標(指標) | | 基準値 (年度) | R6年度 | R7年度 | R8年度 | 目標値 (5年度) |
| | ①嘉手苅観音堂を中心とした文化講座の参加者 | 目標 | () | (20人以上) | (30人以上) | (60人以上) | () |
| | | 実績 | | 0 | | | |
| | ②嘉手苅観音堂への来訪者数 | 目標 | () | (720名以上) | (1,500名以上) | (2,000名以上) | () |
| | | 実績 | | 1,391名 | | | |
| 進捗状況説明 | 令和6年度(～3月)は整備工事を行っていたため、文化講座の実績は無し。来訪者数は、1,391名となっている。 | | | | | | |

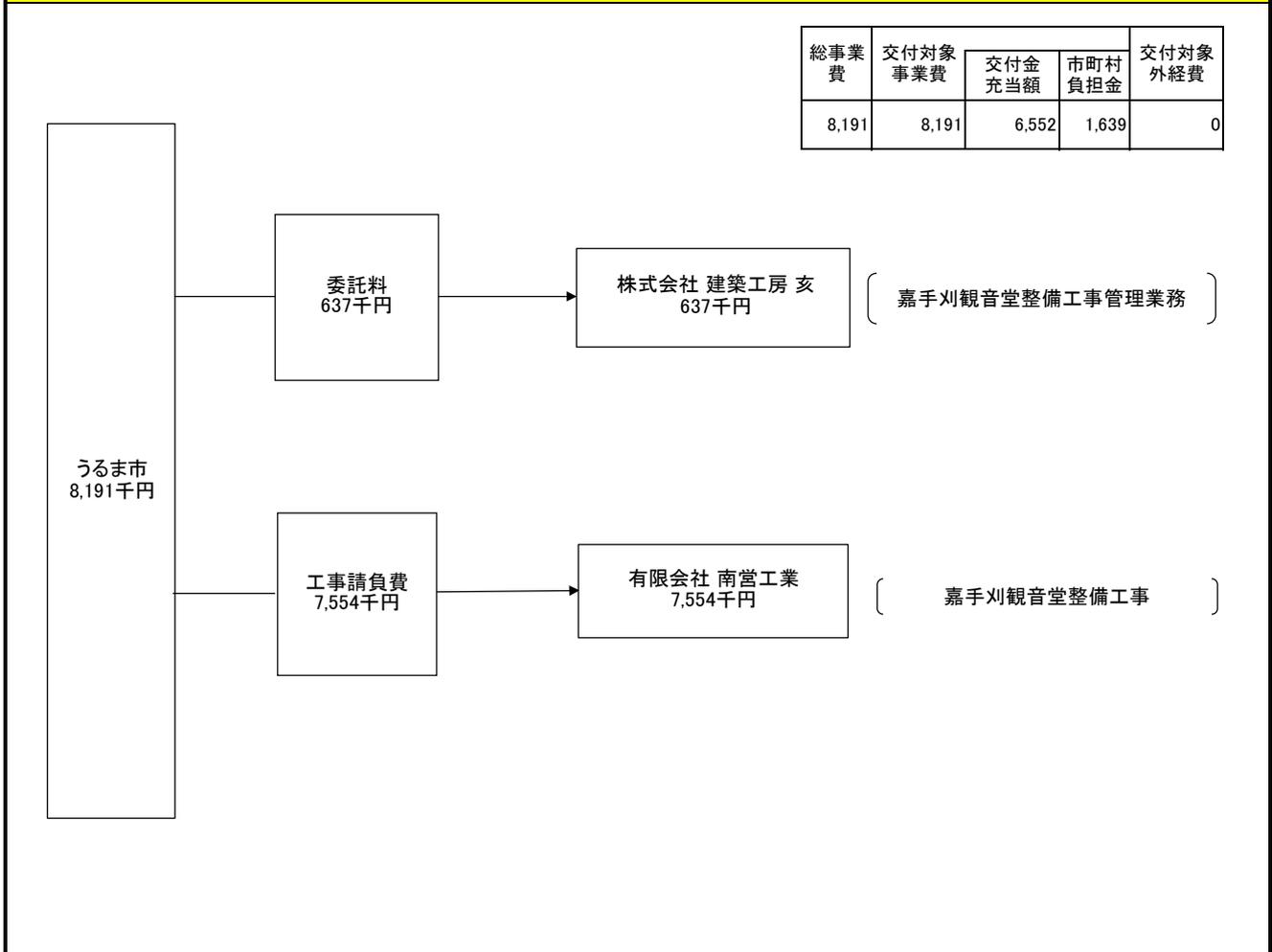
| | 推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化) | 改善余地の検証(効率の更なる向上の視点) |
|-------|---|---|
| 取組の検証 | (文化講座の参加者) ・整備工事によって安全性が確保されたため、地域資源として教育分野に限らない生涯学習や観光分野等での積極的な活用を推進する。 | (文化講座の参加者) ・これまでは外部から講座開催等の依頼を受けた際に対応してきたが、文化財課主催(地域主催含む)による文化講座等を積極的に開催することで、地域資源としての十分な活用と文化財保全の意識醸成を図る。 |
| | (来訪者数) ・信仰の対象として多くの来訪者が訪れる場所ではあるものの、来訪者数の定量的な把握ができていなかったため、整備工事を契機に所在する自治会(嘉手苅区)に日常管理などを主体的に関わってもらうことで、来訪者数の定量的把握に務める。 | (来訪者数) ・子宝祈願の参拝場所とされている特性を活かし、子宝をテーマにした市内周遊の拠点として位置付けるとともに、広報活動を精力的に行うことで認知度向上と誘客強化、文化財としての価値保全に繋げる。 |

今後の取り組み方針

(文化講座の参加者)
・学校や自治会等の地域活動の中で訪問機会が増えるよう周知・案内活動を行うとともに、文化講座等の積極的な開催、ガイド等の人材育成を行う。

(来訪者数)
・子宝祈願をテーマにした文化財パンフレット等を作成するとともに、市及び観光物産協会HPでの情報発信を強化する。また、周辺に所在する文化財と連動した別テーマの周遊メニューを整理・実用化する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



| 資金の流 れ、 費 目 | 評価 | 点 検 項 目 | 評価に関する説明 |
|----------------------|----|--------------------------------|---|
| | ○ | 支出先の選定方法は妥当か。 | ○工事業者は入札により選定しており妥当と考える。 ○複数業者の参考見積書により予算規模が設定されており、適正な規模と考える。 ○費目、用途については目的に即し、必要なものであったと判断した。 |
| | ○ | 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。 | |
| | ○ | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | |
| | ○ | 費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | |

| 市町村名 | | うるま市 | | | | |
|--|--|---|-----------------------|------------------|---------------------------|-------------|
| 令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】 | | | | | | |
| 事業番号・事業名 | 8-① | ひとり親家庭生活支援事業 | | | 新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 | 第4章-2-(1)-ウ |
| 担当部署名 | こども未来部 こども家庭課 | 事業実施 (予定)年度 | 平成25年度 ～ 令和13年度 | 沖繩振興基本方針 該当箇所 | ひとり親家庭等の困難を抱える 保護者への支援 | |
| 事業内容 | ひとり親家庭の中でも自立する意欲のある家庭に対し、住宅支援、家計簿管理支援、債務整理、就労に役立つ資格取得支援、児童の学習支援など、ひとり親家庭を総合的に支援し、事業後の自立へ向けた支援を行う。 | | | | | |
| 効果発現年度 | <input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度) | | | | | |
| 実施方法 | <input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他() | | | | | |
| 予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース) | | R2年度 | R3年度 | R4年度 | R5年度 | R6年度 |
| | 予算の状況 | | | | | |
| | (a) 当初予算額 | 30,511 | 30,536 | 40,776 | 41,647 | 41,842 |
| | (b) 予算現額 | 31,356 | 30,536 | 40,776 | 41,647 | 41,842 |
| | (c) 増減額(b-a) | 845 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | (d) 繰越額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | A. 計(b+d) | 31,356 | 30,536 | 40,776 | 41,647 | 41,842 |
| | B. 執行済額 | 28,625 | 26,439 | 34,105 | 35,832 | 37,744 |
| | うち交付金充当額 | 22,500 | 21,151 | 27,284 | 28,666 | 30,194 |
| | 次年度繰越額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 執行率(%) (B/A) | 91.3% | 86.6% | 83.6% | 86.0% | 90.2% | |
| 予算の状況の説明 | 予算現額と執行済額の差は確定残によるものである。 | | | | | |
| 活動目標 (指標) 及び達成状況 | 活動目標(指標) | | 達成状況 | | | |
| | | | R3年度 | R4年度 | R5年度 | R6年度 |
| | 1 | 居室借上数 (10部屋) | 目標 (10) | 実績 (10) | 目標 (10) | 実績 (10) |
| | 2 | 技術力向上支援 (12回) | 目標 (12) | 実績 (14) | 目標 (12) | 実績 (12) |
| | 3 | 家計簿管理支援 (120回) | 目標 (100) | 実績 (59) | 目標 (120) | 実績 (33) |
| | 4 | 支援世帯に合った個別支援 (50回) | 目標 (50) | 実績 (161) | 目標 (50) | 実績 (99) |
| | 5 | 児童生徒の学習支援 (144回) | 目標 (144) | 実績 (145) | 目標 (144) | 実績 (588) |
| | 6 | 高等学校卒業程度認定試験受験者支援 (5名) | 目標 () | 実績 () | 目標 (5) | 実績 (2) |
| | 達成状況説明 | <p>1 入居世帯の年齢層、世帯構成に合った広さ(受験生の子がいる場合は落ち着いて学習ができる部屋を確保するなど)生活に合わせた家賃、転校を要しない場所、情緒の安定など安心できる住環境の確保を考慮し選定した。</p> <p>2 パソコン(Excel2・3級)講座全8回、金銭講座全2回、キャリアカウンセリング講座全2回 合計12回開催しスキルアップによる就職、日常生活の喫緊な課題についての学びあいで生活の向上を図った。</p> <p>3 支援員による家計簿管理支援を行うことで、支援終了後の貯蓄に向けて積極的に取り組むことが出来ている。ここ数年目標を達成出来ておらず、目標と実情が合致していないため見直しが必要だと考えられる。</p> <p>4 支援世帯にあった個別相談を行うことで、支援世帯の日々の困り感を把握し、適切な支援へ繋げている。また、今年度は他機関への案内が41件(内訳:保護課、こども家庭課、弁護士、母子会など)であった。その他、労働環境が整っている職場への異動や転職の調整などの就労支援も行っており、安定した就労や賃金の向上に繋がるよう支援している。</p> <p>5 対象 : 小学生 詳細 : 日々の学習支援、自然体験、調理実習など 場所 : うるはし学習支援室及び保育サポートルーム 担当 : 生活支援・学習支援コーディネーター1名、大学生11名 登録 : 登録者数は12名であったが、その内2名は県外へ転出のため最終的には10名であった。 支援 : 平日199日、その他92日 計291日、延べ1,439時間実施。</p> <p>6 対象 : 小学生 詳細 : 日々の学習支援、自然体験、調理実習など 場所 : うるはし学習支援室 担当 : 生活支援・学習支援コーディネーター1名、大学生11名 登録 : 定員10名の2クラスで20名の登録があった。(中学1・2年生:火、木、土 中学3年生:月、水、金 時間は18時～21時) 支援 : 152日、延べ456時間実施。</p> <p>6 対象 : ひとり親もしくはひとり親家庭の子 場所 : うるはし学習支援室及び保育サポートルーム 担当 : 高卒認定講座担当2名 支援 : 登録者数は2名であった。平日2回(水・金)、土曜1回 計105時間実施。 未達理由 : ここ数年目標を達成出来ておらず、目標と実情が合致していないため見直しが必要だと考えられる。</p> | | | | |

| 成果目標(指標) | | 基準値 (年度) | R4年度 | R5年度 | R6年度 | 目標値 (年度) | |
|--|--------|----------------------------|--|----------|----------|-------------|--|
| | | () | () | () | () | () | |
| 1 居室借上、転職・債務整理等により生活改善した世帯の割合 (100%) | 目標 | () | (95%) | (100%) | (100%) | () | |
| | 実績 | | 100% | 87.5% | 79.17% | | |
| 2 パソコン講座資格取得者 (15名) | 目標 | () | () | (20名) | (15名) | () | |
| | 実績 | | | 7名 | 5名 | | |
| 3 保護者へのアンケートで、学習習慣の定着が図れたかを含め、当該支援のあり方について検証 (90%以上) | 目標 | () | (80%) | (90%) | (90%) | () | |
| | 実績 | | 87% | 90.1% | 83.05% | | |
| 4 高等学校卒業程度認定試験合格 (2名) | 目標 | () | (1名) | (2名) | (2名) | () | |
| | 実績 | | 1名 | 2名 | 0名 | | |
| 成果目標(指標)及び進捗状況 | 進捗状況説明 | 支援総件数 : 10 世帯 35 名 | 【支援終了6世帯】 今年度支援終了世帯で、自立3世帯、やや自立1世帯、要支援2世帯であった。要支援2世帯について、親が精神的に課題があり、保護に繋がるケースや身内から度重なる借金など、結果として自立には繋がらなかった。今後は、支援決定委員会で自立の意志やその能力が伴っているのかなど、しっかり確認した上で支援決定を検討する必要がある。 | | | | |
| | | 新規世帯 : 4 世帯 10 名 | 【自立世帯】 心身ともに健康で安定した生活を送ることができた。また、支援終了時には自らアパートを契約するなどの改善が見られ、支援は終了後のフォローアップも検討。 | | | | |
| | | 継続世帯 (前年度から継続) : 6 世帯 25 名 | 【総括】 住宅の確保のみならず、養育・就労・子の学習支援など、総合的に支援が出来ている。一部課題を残した方もいるが、継続支援を検討。 | | | | |
| | | 支援終了世帯 : 6 世帯 25 名 | | | | | |
| | | 継続世帯 (次年度) : 4 世帯 10 名 | | | | | |
| | | 2 | パソコン講座(Excel)参加者8名(受講中の子供預かり(保育サポーター事業)を実施延べ31名) Excel検定3級、受験者4名、合格者4名 Excel検定2級、受験者2名、合格者1名 今後はExcelのみならず、別の検定等も視野に継続。 | | | | |
| | | 3 | 支援児童・生徒ともに年々利用希望者が増えている状況。目標達成に至っていないものの、ある程度の学習習慣の定着が図られている。次年度以降も継続した支援を検討。 | | | | |
| | | 4 | 今年度は前年度からの継続1名に新規1名の計2名の登録があったが、第1回目の高卒認定試験を目前に辞退の申出があり、7月で支援終了。 もう1名についても第2回目の高卒認定試験合格を目指し取り組んでいたが、アルバイトを優先し講座の欠席が多くなり結果不合格であった。また試験後に講座受講を辞める旨申出があり11月で支援終了となった。 | | | | |

| 取組の検証 | 推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化) | 改善余地の検証(効率の更なる向上の視点) |
|-------|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> 物価高騰に伴い、アパートの家賃等も高額になっている 就労に結び付く支援についてExcel検定以外の支援ができていない。 | <ul style="list-style-type: none"> 支援基準で定められている範囲でアパートを探すことが難しくなっている。基準の上限額の変更については、支援終了後も同じ場所に住み続けることができるか慎重な判断を要するため、次年度以降も検討が必要。 就労に必要なスキル等を調査し、Excel検定以外の支援策についても検討 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 学習の定着度について、中学生は目標値に近い数値であったが、小学生は予測より低い数値となった。現状のアンケートでは、回答率を高めるため内容を簡素化しており、目標値に届かない児童がどの分野で困り感を感じているか吸い上げられていないという課題がある。 | <ul style="list-style-type: none"> アンケートに具体的な内容を追加するとともに、記入者及び事業実施者の負担を軽減するためアンケートの電子化を図る。また困り感を聞き取る項目等も設置し、情報収集を行う。 |

今後の取り組み方針

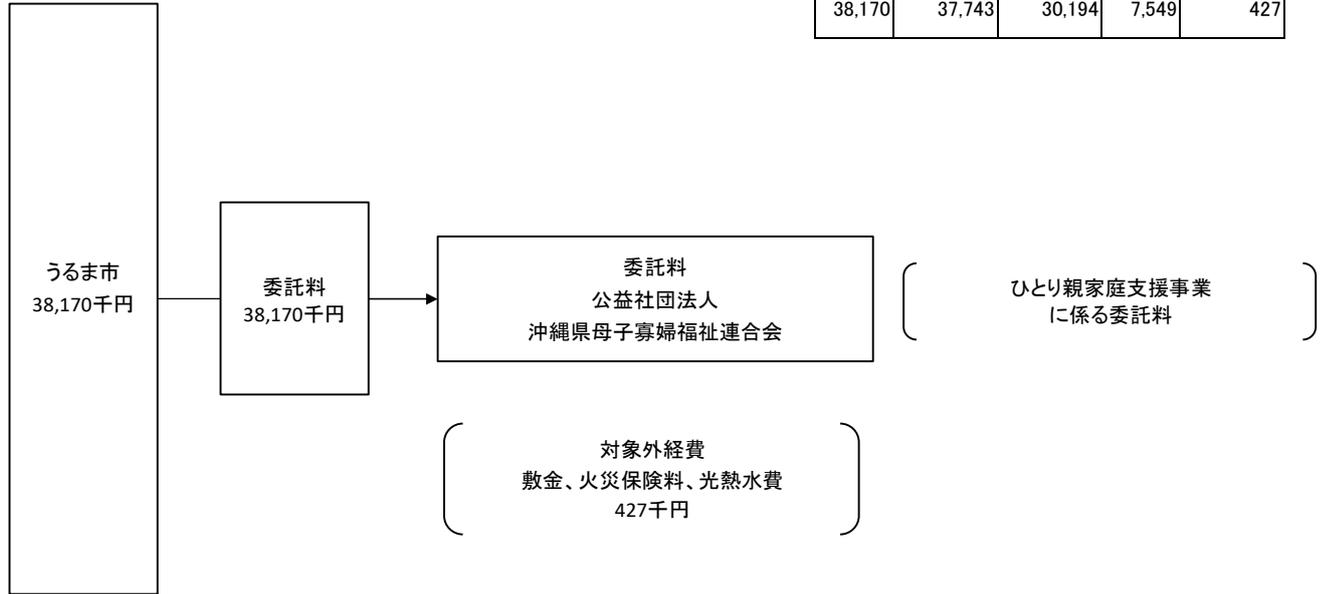
物価高騰に伴い、アパートの家賃も高額となっている。その結果、当初設定した家賃上限額では収まらないケースも増えてきている。家賃上限額を上げたとしても、支援終了後、そのアパートに住み続ける場合もあり、高く設定してしまった家賃が今後の自立の妨げになる可能性もある。以上のことを踏まえ、パソコン講座等の資格取得のみならず、副業などの就労支援の部分にも力を入れ、支援開始前よりも収入がアップする取り組みを実践していきたい。

学習の定着度について、アンケートの結果や保護者らとの日常の会話などから保護者が感じている課題や困り感を吸い上げ、それを解決できるよう取り組んでいく。

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

| 総事業費 | 交付対象事業費 | 交付金 | | 交付対象外経費 |
|--------|---------|--------|--------|---------|
| | | 充当額 | 市町村負担金 | |
| 38,170 | 37,743 | 30,194 | 7,549 | 427 |



| 資金の 用途の 流れ、 点検 評価・ 費目 | 評価 | 点 検 項 目 | 評価に関する説明 |
|--------------------------------------|----|--------------------------------|--|
| | ○ | 支出先の選定方法は妥当か。 | ○沖縄県において、母子に対しての多岐にわたる相談、支援実績のある団体に委託案内を実施して応募のあった団体から選出しており、適正であった。 |
| | ○ | 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。 | ○世帯の自立に伴う家賃の不用額などが生じているが、過去の実績などから必要最小限の額を計上しており、予算規模は適正であったと考える。 |
| | - | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | ○費用、使途について、毎月の執行状況で確認しており、適正であった。 |
| | ○ | 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | |

| | | | | | | | | |
|---|---|--|---|--------------|----------------------|-------------|----------|----------|
| 市町村名 | うるま市 | | | | | | | |
| 令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】 | | | | | | | | |
| 事業番号・事業名 | 8-② | 教育相談事業 | | | 新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 | 第4章-2-(2)-イ | | |
| 担当部署名 | 学校教育部 学校生活応援課 | 事業実施(予定)年度 | 平成24年度～令和13年度 | 沖縄振興基本方針該当箇所 | 貧困状態にある子どもへの支援 | | | |
| 事業内容 | 相談所を開設することで相談者(幼児・児童生徒・保護者)が継続して支援を受ける事により、問題行動等の改善や安心して子育てが出来る環境を整え、教師が児童生徒に対し理解を深めていく事に繋げていく。 | | | | | | | |
| 効果発現年度 | <input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度) | | | | | | | |
| 実施方法 | <input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他() | | | | | | | |
| 予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース) | | R2年度 | R3年度 | R4年度 | R5年度 | R6年度 | | |
| | 予算の状況 | (a) 当初予算額 | 26,992 | 28,663 | 33,084 | 29,140 | 36,143 | |
| | | (b) 予算現額 | 24,833 | 27,166 | 26,054 | 29,140 | 25,669 | |
| | | (c) 増減額(b-a) | ▲ 2,159 | ▲ 1,497 | ▲ 7,030 | 0 | ▲ 10,474 | |
| | | (d) 繰越額 | | | | | | |
| | | A. 計(b+d) | 24,833 | 27,166 | 26,054 | 29,140 | 25,669 | |
| | B. 執行済額 | | 23,327 | 25,391 | 25,463 | 26,327 | 22,288 | |
| | うち交付金充当額 | | 18,662 | 20,313 | 20,371 | 21,062 | 17,830 | |
| | 次年度繰越額 | | | | | | | |
| | 執行率(%) (B/A) | | 93.9% | 93.5% | 97.7% | 90.3% | 86.8% | |
| 予算の状況の説明 | | ・教育相談ふたばへの相談へつながった児童生徒、保護者への助言を行い主訴解決にむけ業務を行った。 ・相談員8名を配置する予算計上であったが、臨床心理士資格を有する者の応募が予定数を下回り、当初予算を10,474千円減額した。 | | | | | | |
| 活動目標(指標)及び達成状況 | 活動目標(指標) | | 達成状況 | | | | | |
| | | | R3年度 | R4年度 | R5年度 | R6年度 | | |
| | 教育相談員配置数 | | 目標 (9 人) | (9 人) | (8 人) | (9 人) | | |
| | | 実績 | 9 人 | 9 人 | 8 人 | 6 人 | | |
| 達成状況説明 | | 臨床心理士資格を有する者の応募が予定数を下回り、減額することとなった。 | | | | | | |
| 成果目標(指標)及び進捗状況 | 成果目標(指標) | | 基準値(年度) | R4年度 | R5年度 | R6年度 | 目標値(年度) | |
| | | | 目標 | () | (34%) | (36%) | (35%) | () |
| | 相談件数実績に対するケース終結の割合 | | 実績 | | 38% | 34.3 | 46.7 | |
| | 進捗状況説明 | | 来室相談件数167件に対し、課題解決が78件である。その課題解決割合は46.7%となり、前年度並びに目標値を上回る数値である。 | | | | | |

| | 推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化) | 改善余地の検証(効率の更なる向上の視点) |
|-------|---|---|
| 取組の検証 | <p>各小中学校に自立支援室が設置されたが、運営方法や常駐する人員不足の課題がある。</p> <p>校内復帰を目指すのに、上記課題があるなか臨機応変の対応に基づく支援計画、立案、実施が難しくスムーズな学校復帰が叶わないケースもあった。</p> <p>相談件数167件に対して78件終結し目標に達成している。</p> | <p>今年度は各小中学校に常駐する校内支援員が増え、また同課に保育教諭及び幼稚園教諭の増員があることから繋ぎ支援の連携が図りやすくなる。</p> <p>不登校要因が複雑化する中で、不登校児童生徒への支援も一人一人にあったきめ細かな支援が必要になっており、教育相談員も時代に合った支援の工夫も必要となっている。係を超えて臨床心理士による研修等を行い、教育相談員のスキルアップに繋げる。</p> <p>低学年の登校しぶりについては、母子分離不安なども要因としてあるため、保護者、担任と連携した支援が必要で、今年度同課に配属された保育教諭の助言をいただく。</p> |

今後の取り組み方針

不登校が長期化する中で、学校復帰のための支援だけではなく、児童生徒の将来に向けた社会的自立も踏まえた活動(小集団活動・体験活動)も取り入れながら引き続き支援を行っていく。各地区共同で活動やイベントを実施することで、さらに大きな集団での対人交流の場を提供していく。

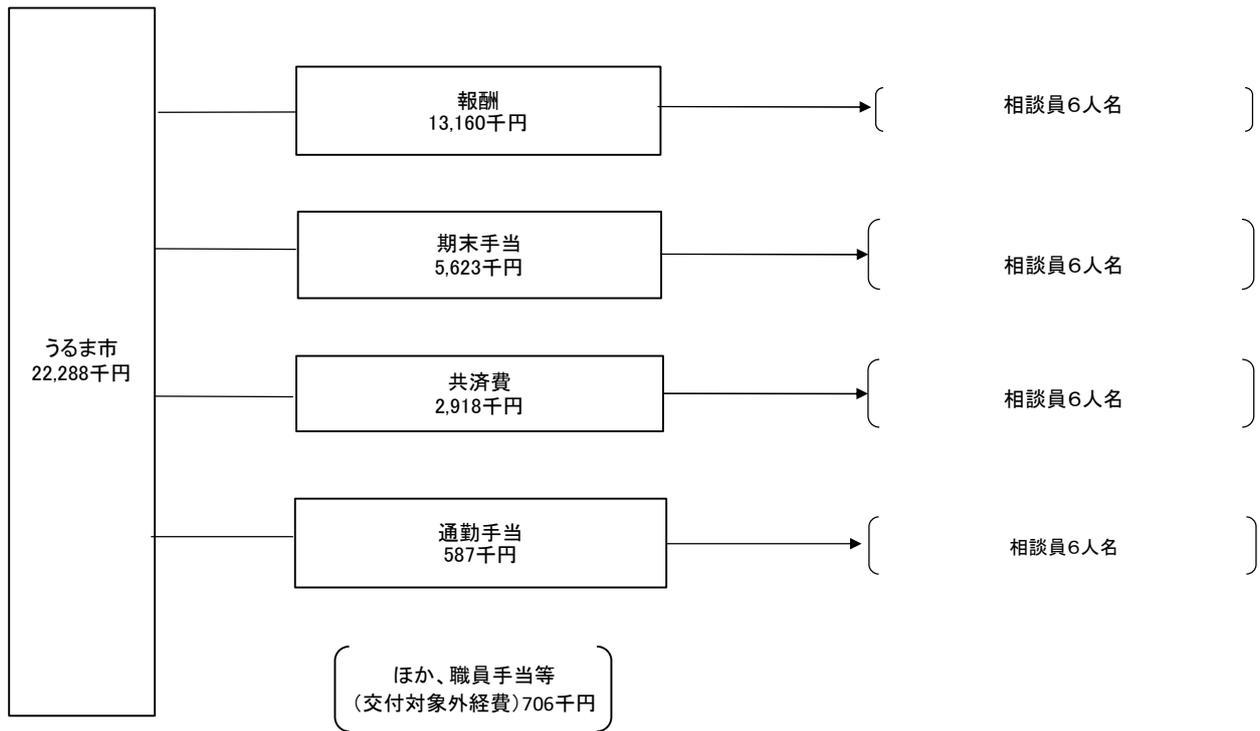
心理検査等も取り入れながら本人の困り感の改善に向け、よい手立てを保護者・学校と共有していけるよう支援していく。

また、必要に応じて、学校から配布されたクロムブックを活用した課題のやりとり等、児童生徒・保護者が学校とつながりを持ち続けることができるような支援にも取り組む。

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

| 総事業費 | 交付対象事業費 | 交付先 | | 交付対象外経費 |
|--------|---------|--------|--------|---------|
| | | 交付金充当額 | 市町村負担金 | |
| 22,994 | 22,288 | 17,830 | 4,458 | 706 |



| 資金の流れ、費目・使途の点検評価 | 評価 | 点検項目 | 評価に関する説明 |
|------------------|----|--------------------------------|--|
| | ○ | 支出先の選定方法は妥当か。 | ○支出先については、うるま市会計年度任用職員の職の設置に関する要綱等に基づき採用しており、妥当なものとする。 |
| | ○ | 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。 | ○予算規模については、設置要綱等に基づき支出を行っており、適正であるとする。 |
| | — | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | ○費目・使途については、事業目的に沿った事業を実施しており適正であったとする。 |
| | ○ | 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | |

| | |
|------|------|
| 市町村名 | うるま市 |
|------|------|

令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

| | | | | |
|----------|---------------|------------|----------------------|----------------|
| 事業番号・事業名 | 8-③ | 適応指導教室事業 | 新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 | 第4章-2-(2)-イ |
| 担当部課名 | 学校教育部 学校生活応援課 | 事業実施(予定)年度 | 平成24年度～令和13年度 | 貧困状態にある子どもへの支援 |
| | | | 沖縄振興基本方針該当箇所 | Ⅲ-3-(1) |

事業内容
 適応指導教室を設置し、個々の状態に応じた指導支援を行うことにより、心理的要因などによる不登校児童生徒に対し、教室での個別・小集団活動を通して、自立心・社会性が生まれ、対人困難の解消に取り組み、社会的自立を目指す。

効果発現年度
 当年度 後年度(年度)

実施方法
 直接実施 委託 補助 負担 その他()

| | | R2年度 | R3年度 | R4年度 | R5年度 | R6年度 | |
|--|--------------|--------------|--|-------|--------|-------|--------|
| 予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース) | 予算の状況 | (a) 当初予算額 | 5,725 | 6,887 | 6,058 | 8,399 | 14,930 |
| | | (b) 予算現額 | 5,661 | 6,887 | 4,725 | 8,399 | 12,838 |
| | | (c) 増減額(b-a) | ▲64 | 0 | ▲1,333 | 0 | ▲2,092 |
| | | (d) 繰越額 | | | | | |
| | | A. 計(b+d) | 5,661 | 6,887 | 4,725 | 8,399 | 12,838 |
| | B. 執行済額 | | 5,528 | 5,688 | 4,670 | 7,034 | 11,728 |
| | うち交付金充当額 | | 4,423 | 4,550 | 3,736 | 5,627 | 9,382 |
| | 次年度繰越額 | | | | | | |
| | 執行率(%) (B/A) | | 97.7% | 82.6% | 98.8% | 83.7% | 91.4% |
| | 予算の状況の説明 | | ・適応指導教室(さわやか学級、いしかわルーム)に指導員を配置し、担任の補助、利用児童生徒の学習や体験活動の指導を行った。 ・4月から配置数の目標3人の採用当初予算を計上する際、資格有・経験年数を考慮して計上したため、差額が生じた。 | | | | |

| 活動目標(指標)及び達成状況 | 活動目標(指標) | 達成状況 | | | |
|----------------|---|------|--------|--------|--------|
| | | R3年度 | R4年度 | R5年度 | R6年度 |
| | 適応指導教室指導員配置数(4人) | 目標 | (3人) | (2人) | (3人) |
| | 実績 | 3人 | 2人 | 3人 | 4人 |
| 達成状況説明 | 適応指導教室(さわやか学級、いしかわルーム)を利用する児童生徒の学習及び体験活動の支援を行うため、担任の補助として指導員を配置した。その指導員を公募する際に、有し資格と経験年数を考慮し、予め報酬の上限額で予算計上したため、実際に採用した報酬額との差額が生じた。また、1名が年度途中で退職したため、その分が減額となった。 | | | | |

| 成果目標(指標)及び進捗状況 | 成果目標(指標) | 基準値(年度) | R4年度 | R5年度 | R6年度 | 目標値(年度) | |
|----------------|--|---------|----------|---------|---------|-----------|----------|
| | 体験活動に参加することができた割合91%以上 | 目標 | () | 87%以上 | 91%以上 | (91%以上) | () |
| | | 実績 | | 100% | 81% | 62% | |
| | 中学3年生の卒業後の進路決定割合82%以上 | 目標 | () | (74%) | (82%) | (82%) | () |
| 実績 | | | 87% | 100% | 92% | | |
| 進捗状況説明 | 体験活動に参加することができた割合は62%である。参加の意思はあったが当日の体調不良での欠席があるほか、オンライン学習支援対象で入級している児童生徒の体験活動へ参加が少ないため目標を達成すること出来なかった。クラスルームでの案内や実施報告するなど工夫していく。 中学3年生の卒業後の進路決定割合は91.7%(12人中11人)となり、目標を達成することができた。進路先については、12人中1人が県立全日制高校、1名が県立通信制高校、9名が私立通信制高校に進学した。1名は若者居場所支援事業でサポートし、次年度の進学を目指す。 | | | | | | |

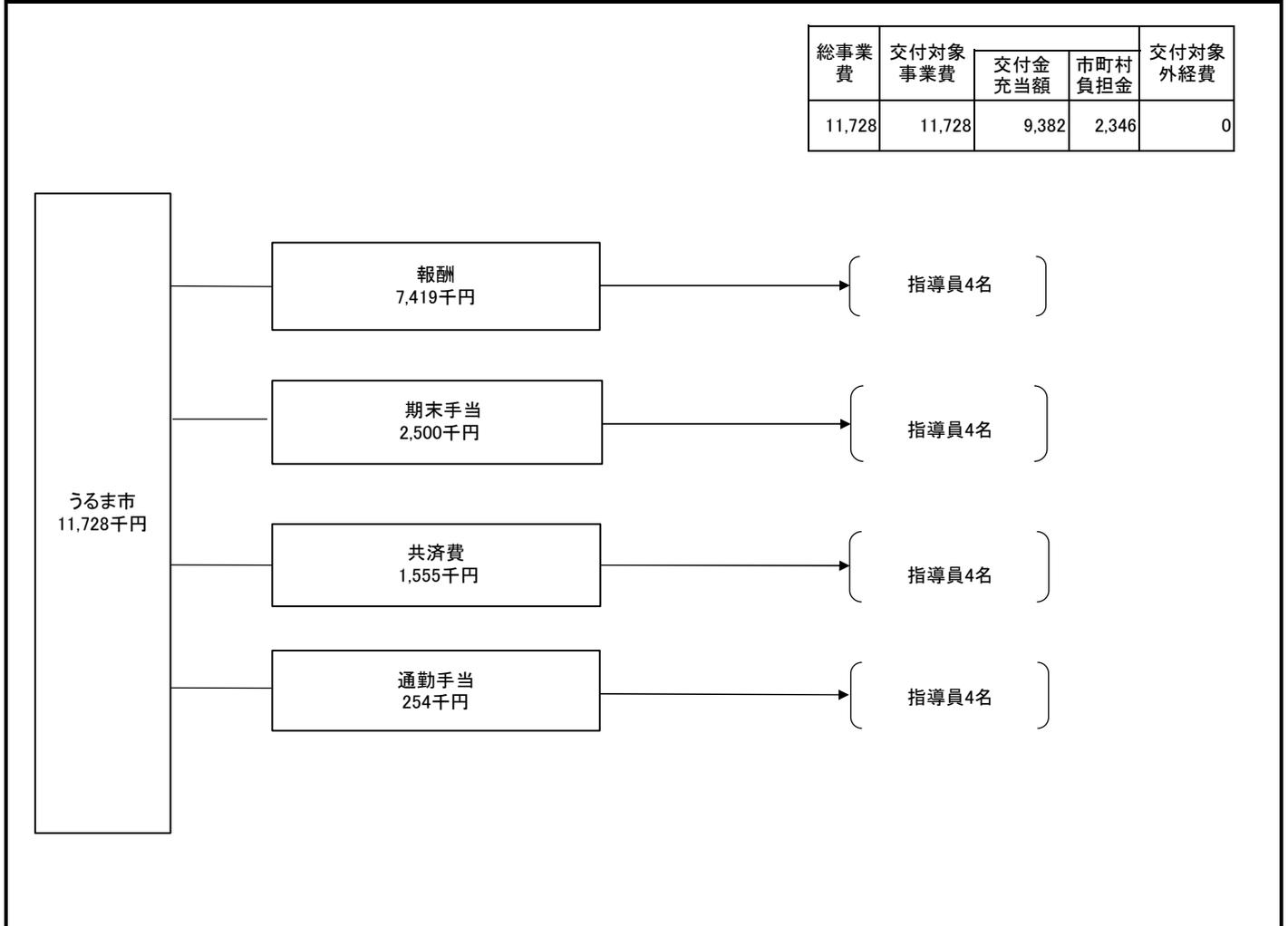
| 取組の検証 | 推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化) | 改善余地の検証(効率の更なる向上の視点) |
|-------|--|---|
| | <p>担任と対象生徒についての柔軟な対応の共有が難しく前半は入級している生徒が少なかった。情報共有を重ね後半は利用者が増え、適切な支援ができた。</p> <p>心理的要因などによる不登校児童生徒に対し、宿泊学習やチャレンジ登校、社会体験活動などを通して対人困難の解消に取組み、徐々に活動へ参加することができ、目標達成に繋がった。</p> | <p>研修係の指導主事と協力して担任となる教諭に対し当事業の趣旨、支援について教示していただくことになった。</p> <p>体験活動への参加については、生徒一人一人の状態が違うため、引き続き参加できそうなプログラムを設定する必要がある。</p> <p>3年生の入級については、進路支援に早めに取り組めるよう調整を行う。2年生についても保護者面談等を通しながら、進路について意識を持たせる必要がある。</p> |

今後の取り組み方針

・体験活動に関しては、自発的に活動できるよう多様なプログラムを設定し、通級生が体験活動に参加できるよう引き続き取り組む。また社会見学や福祉施設の体験に関して、通級生の興味のある職種を聞き出し計画する。体験活動が効果的になるようストレスに負けない心理教育等も取り入れながら取り組んでいく。

・高校進学を希望する通級生については、進学後も継続して通学できるよう、高校見学やカリキュラムの確認など自分に合った進路選択ができるよう丁寧な進路支援を行う。学習の苦手な生徒については、学校から配布されたクロムブックを活用し、学習を進めることができるよう学習支援を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



| 資金の 使途の 流れ、 費目・ 評価 | 評価 | 点検項目 | 評価に関する説明 |
|--------------------------------|----|--------------------------------|--|
| | ○ | 支出先の選定方法は妥当か。 | ○支出先については、うるま市会計年度任用職員の職の設置に関する要綱等に基づき採用しており、妥当なものとする。 |
| | ○ | 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。 | ○予算規模については、設置要綱等に基づき支出を行っており、適正であるとする。 |
| | — | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | ○費目・使途については、事業目的に沿った事業を実施しており適正であったとする。 |
| | ○ | 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | |

| | | | | | | | |
|---|---|---|--------------|--------------|----------------------|-------------|----------|
| 市町村名 | うるま市 | | | | | | |
| 令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】 | | | | | | | |
| 事業番号・事業名 | 8-④ | 作業療法士巡回相談事業 | | | 新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 | 第4章-2-(2)-イ | |
| 担当部課名 | 学校教育部 学校生活応援課 | 事業実施(予定)年度 | 令和4年度～令和13年度 | 沖縄振興基本方針該当箇所 | 子ども・若者の育成支援 | | |
| 事業内容 | 発達障がい等により、学校生活にうまく適応できず困り感のある児童生徒の行動と心を理解し、支援方法や指導方法、環境調整等を工夫改善し課題解決への対応を図る。 | | | | | | |
| 効果発現年度 | <input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度) | | | | | | |
| 実施方法 | <input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他() | | | | | | |
| 予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース) | | R4年度 | R5年度 | R6年度 | | | |
| | 予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額 (b-a) (d) 繰越額 A. 計 (b+d) B. 執行済額 うち交付金充当額 次年度繰越額 執行率(%) (B/A) | | 2,500 | 2,500 | 2,650 | | |
| | | | 2,500 | 2,500 | 2,650 | | |
| | | | 0 | 93 | 0 | | |
| | | | | | 0 | | |
| | | | 2,500 | 2,500 | 2,500 | | |
| | | 2500 | 2,593 | 2,650 | | | |
| | | 2000 | 2,000 | 2,120 | | | |
| | | | | 0 | | | |
| | | 100.0% | 103.7% | 100.0% | | | |
| 予算の状況の説明 | 事業当初の予定通り執行することができた | | | | | | |
| 活動目標(指標)及び達成状況 | 活動目標(指標) | | 達成状況 | | | | |
| | | | R4年度 | R5年度 | R6年度 | | |
| | 教職員支援件数 | 目標 | (50件) | (50件) | (60件) | () | |
| | | 実績 | 170件 | 147件 | 125件 | | |
| | 保護者等面談件数 | 目標 | (50件) | (50件) | (60件) | () | |
| | | 実績 | 36件 | 52件 | 42件 | | |
| | 学校巡回相談 | 目標 | (56回) | (55回) | (28回) | () | |
| | | 実績 | 49回 | 57回 | 33回 | | |
| | 講演会 | 目標 | (2回) | (2回) | (2回) | () | |
| | | 実績 | 2回 | 3回 | 4回 | | |
| 達成状況説明 | <ul style="list-style-type: none"> ・教職員支援は目標達成できた ・保護者等面談については日程や滞在時間の都合上目標には届かなかった | | | | | | |
| 成果目標(指標)及び進捗状況 | 成果目標(指標) | | 基準値(年度) | R4年度 | R5年度 | R6年度 | 目標値(年度) |
| | 問題改善率 | 目標 | () | (50%以上) | (80%以上) | (60%以上) | () |
| | | 実績 | | 75% | 66% | 73% | |
| | 相談・支援件数60件 | 目標 | () | (60件) | (60件) | (60件) | () |
| | | 実績 | | 157件 | 170件 | 172件 | |
| | 進捗状況説明 | <ul style="list-style-type: none"> ・作業療法士からのアドバイスを実行し、「改善しつつある(60%)」または「改善した(13%)」割合が73%となり、目標は達成した ・一方で「実行していない(9%)」学校もあることから、巡回相談後のフォローアップが必要 | | | | | |

| | 推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化) | 改善余地の検証(効率の更なる向上の視点) |
|-------|---|--|
| 取組の検証 | <ul style="list-style-type: none"> 作業療法士の巡回日程の調整や滞在時間等、学校の希望とマッチングすることが難しい 巡回相談後のフィードバックやフォローアップが十分ではない | <ul style="list-style-type: none"> 臨床心理士の活用 |

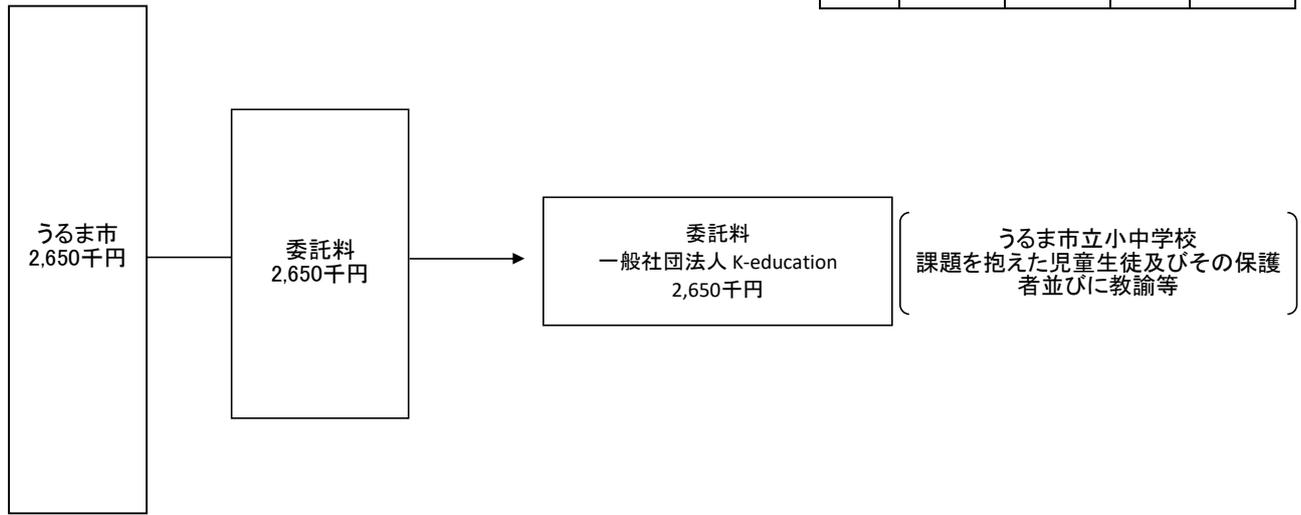
今後の取り組み方針

・作業療法士による巡回相談は令和6年度で終了となるが、これまでの成果を活かし、児童生徒の視点に立った支援方法を考え、実践していく

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

| 総事業費 | 交付対象事業費 | 交付金 | | 交付対象外経費 |
|-------|---------|-------|--------|---------|
| | | 充当額 | 市町村負担金 | |
| 2,650 | 2,650 | 2,120 | 530 | |



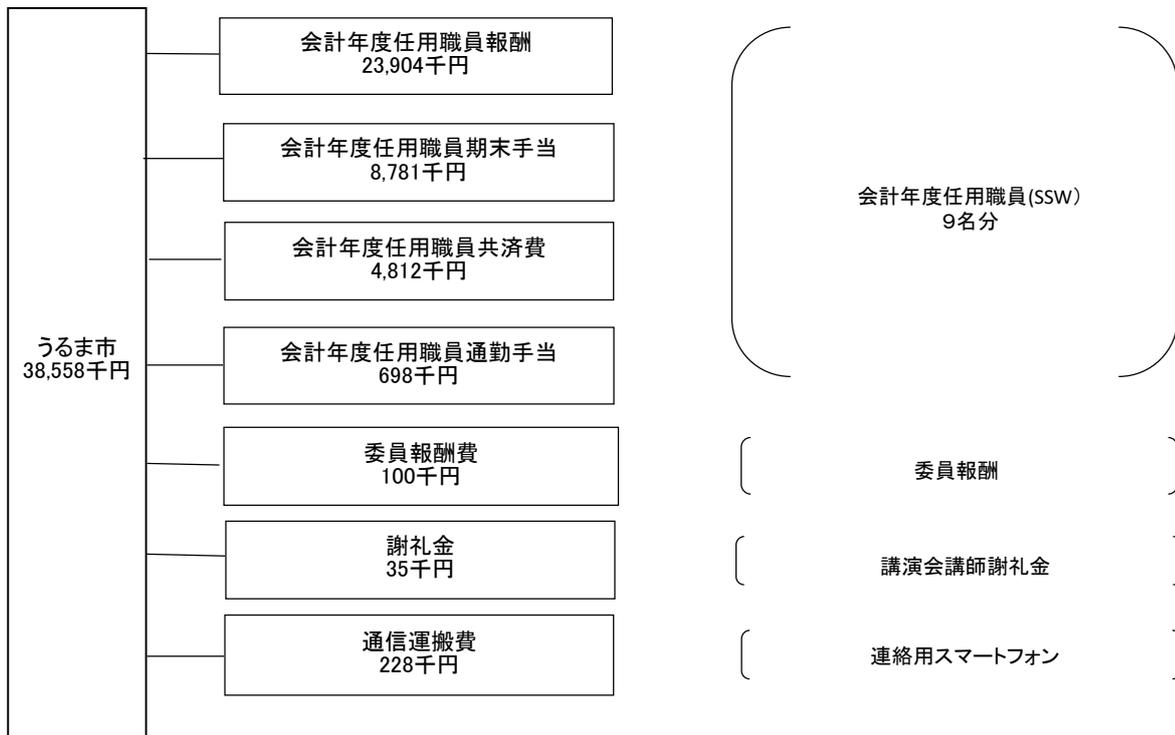
| 資金の流 れ、費目 ・ 点検 評価 | 評価 | 点検項目 | 評価に関する説明 |
|-------------------------------|----|--------------------------------|---|
| | ○ | 支出先の選定方法は妥当か。 | ○委託事業者は、これまでの取組みの継続性及び今後の事業展開を勘案のうえ選定しており、妥当であると考え ○予算規模については執行率等から判断し、適正であったと考える。 ○費目・用途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時等において支出等に関する書類により確認したところ適正であった。 |
| | ○ | 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。 | |
| | — | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | |
| | ○ | 費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | |

| | | | | | | | | |
|---|---|--|---|----------------------|---------------|-------------|-------------|----------|
| 市町村名 | うるま市 | | | | | | | |
| 令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】 | | | | | | | | |
| 事業番号・事業名 | 8-⑤ | 中学校教育指導推進事業 | | 新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 | 第4章-2-(2)-(イ) | | | |
| 担当部課名 | 学校教育部 学校生活応援課 | 事業実施(予定)年度 | 平成24年度～令和13年度 | 沖縄振興基本方針該当箇所 | 子ども・若者の育成支援 | | | |
| 事業内容 | 特別な支援を要する不登校の児童生徒等に対応した支援を行うことで、不登校の改善を図る。また、児童生徒及び家族が抱える様々な問題に対して、多様な支援方法を用い課題解決を図る | | | | | | | |
| 効果発現年度 | <input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度) | | | | | | | |
| 実施方法 | <input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他() | | | | | | | |
| 予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース) | | R2年度 | R3年度 | R4年度 | R5年度 | R6年度 | | |
| | 予算の状況 | (a) 当初予算額 | 13,306 | 14,229 | 16,009 | 34,348 | 36,086 | |
| | | (b) 予算現額 | 11,727 | 14,229 | 16,009 | 34,443 | 38,558 | |
| | | (c) 増減額(b-a) | ▲1,579 | 0 | 0 | 95 | 2,472 | |
| | | (d) 繰越額 | | 0 | 0 | 0 | | |
| | | A. 計(b+d) | 11,727 | 14,229 | 16,009 | 34,443 | 38,558 | |
| | B. 執行済額 | | 10932 | 13287 | 14916 | 34,443 | 38,558 | |
| | うち交付金充当額 | | 8745 | 10629 | 11932 | 27,554 | 30,846 | |
| | 次年度繰越額 | | 0 | 0 | 0 | 0 | | |
| | 執行率(%) (B/A) | | 93.2% | 93.4% | 93.2% | 100.0% | 100.0% | |
| 予算の状況の説明 | | 事業当初の予定通り執行することができた。給与改定に伴う差額支給のため、2,472千円増額し執行した。 | | | | | | |
| 活動目標(指標)及び達成状況 | 活動目標(指標) | | 達成状況 | | | | | |
| | | | R3年度 | R4年度 | R5年度 | R6年度 | | |
| | スクールソーシャルワーカー配置人数 | | 目標 (4 名) | (4 名) | (9 名) | (9 名) | | |
| | | | 実績 | 4 名 | 4 名 | 9 名 | | |
| | | | 目標 () | () | () | () | | |
| | | 実績 | | | | | | |
| 達成状況説明 | | ・スクールソーシャルワーカー(9名)を中学校区ごとに配置し、小学校16校、中学校9校、彩橋小中学校、津堅小中学校を巡回し支援を行った | | | | | | |
| 成果目標(指標)及び進捗状況 | 成果目標(指標) | | 基準値(年度) | R4年度 | R5年度 | R6年度 | 目標値(年度) | |
| | 相談及び支援(延べ件数) | | 目標 | () | (1,000 件) | (1,000 件) | (1,000 件) | () |
| | | | 実績 | | 1,100件 | 4,933件 | 5,579件 | |
| | 問題等を解決した件数 | | 目標 | () | (40 件) | (40 件) | (40 件) | () |
| | | | 実績 | | 88件 | 323件 | 283件 | |
| | 進捗状況説明 | | ・相談及び支援の延べ件数は目標値を上回った(約5.5倍) ・問題等を解決した件数は283件あり、目標値を上回った ・問題等を解決した件数については、年度途中で2名の退職があり、約2か月学校へ配置できない期間があったこと、また、新人のスクールソーシャルワーカーであったため、児童生徒やその世帯の状況把握に時間がかかり、前年度と比較して件数減となった | | | | | |

| 推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化) | | 改善余地の検証(効率の更なる向上の視点) |
|--|--|--|
| 取組の検証 | <ul style="list-style-type: none"> 様々な事案に的確に対応するためスクールソーシャルワーカーのスキルアップが必要である 担当する学校の児童生徒数に差があるため、スクールソーシャルワーカーの業務平準化を進め、業務負担偏りを是正する必要がある | <ul style="list-style-type: none"> 研修会の回数を増やし、スクールソーシャルワーカーの対応力強化を図る スクールソーシャルワーカーを増員し、担当する児童生徒数を減らすことで、よりきめ細かな支援を行う |
| | 今後の取り組み方針 | |
| <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒一人ひとりが置かれている家庭の環境や状況によって対応方法はそれぞれに異なるため、個々に応じた柔軟な対応を継続していけるよう、今後とも支援体制を整えていく 次年度はスクールソーシャルワーカーを増員し、児童生徒数の多い中学校区担当の負担軽減を図っていく。 | | |

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

| 総事業費 | 交付対象事業費 | 交付金充当額 | | 交付対象外経費 |
|--------|---------|--------|-------|---------|
| | | 市町村負担金 | | |
| 38,558 | 36,086 | 28,868 | 7,218 | |



| 資金の流 点検 評価 | 評価 | 点検項目 | 評価に関する説明 |
|------------------|----|--------------------------------|-----------------------------|
| | ○ | 支出先の選定方法は妥当か。 | ○支出先については適正に選定している |
| | ○ | 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。 | ○予算規模は執行率から判断し適正である |
| | - | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | |
| | ○ | 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | ○費目・使途については事業目的に即し適正に執行している |

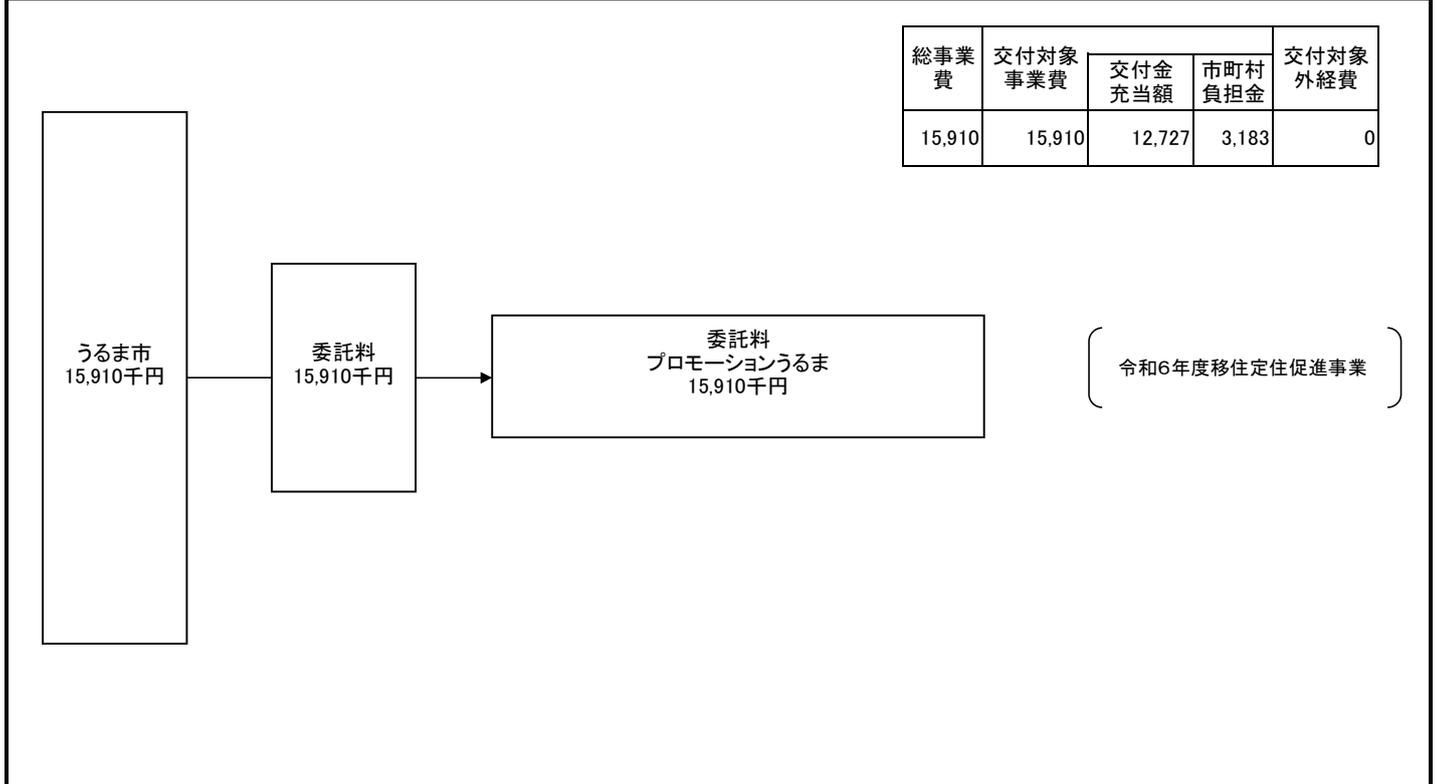
| | | | | | | | |
|---|---|---|-----------------|------------------|--------------------------|-----------|-------------|
| 市町村名 | うるま市 | | | | | | |
| 令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】 | | | | | | | |
| 事業番号・事業名 | 9 | うるま市島しょ地域振興事業 | | | 新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 | 4-4-(4)-イ | |
| 担当部課名 | 企画部企画政策課 | 事業実施 (予定)年度 | 令和4年度～ 令和6年度 | 沖縄振興基本方針 該当箇所 | 離島を核とする関係人口の創出と移住促進 | | |
| 事業内容 | 地域への宿泊を伴う滞在者を市外(県外含む)から募集し、滞在者とのスケジュール調整や地域案内、アンケートの実施、結果のとりまとめ等を実施する。 | | | | | | |
| 効果発現年度 | <input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度) | | | | | | |
| 実施方法 | <input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他() | | | | | | |
| 予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース) | | R4年度 | R5年度 | R6年度 | R7年度 | R8年度 | |
| | 予算の状況 | (a)当初予算額 | 12,220 | 15,851 | 17,390 | | |
| | | (b)予算現額 | 12,220 | 15,851 | 15,934 | | |
| | | (c)増減額(b-a) | 0 | 0 | ▲1,456 | 0 | 0 |
| | | (d)繰越額 | | | | | |
| | | A.計(b+d) | 12,220 | 15,851 | 15,934 | 0 | 0 |
| | B.執行済額 | | 12174 | 14862 | 15910 | | |
| | うち交付金充当額 | | 9739 | 11889 | 12727 | | |
| | 次年度繰越額 | | | | | | |
| | 執行率(%) (B/A) | | 99.6% | 93.8% | 99.8% | #DIV/0! | #DIV/0! |
| 予算の状況の説明 | | 不用額については、委託費の契約残によるものである。 | | | | | |
| 活動目標(指標)及び達成状況 | 活動目標(指標) | | 達成状況 | | | | |
| | | | R4年度 | R5年度 | R6年度 | | |
| | ・問い合わせ件数 | 目標 | (30 件) | (30 件) | (30 件) | () | |
| | | 実績 | 18 件 | 55 件 | 29 件 | | |
| | ・プロジェクト調整の企画 | 目標 | (3 社) | (3 社) | (5 社) | () | |
| | | 実績 | 3 社 | 3 社 | 1 社 | | |
| | ・SNS等によるツアー告知 | 目標 | () | () | (20 回) | () | |
| 実績 | | | | 22 回 | | | |
| 達成状況説明 | ・問い合わせ件数については、Web発信やSNS広告等では29件となっている。今回はWeb発信やSNS広告などWeb上での周知を図り、Web発信では405件、SNS広告では8件発信し、総閲覧数は211,254件であった。 ・プロジェクト連携地元事業者について、創出件数5件に対し、1件は地元事業者1社(食堂)との連携によって実施した。3件は自治会及び小中学校に関係するプロジェクトを実施、また1件は島しょ地域のPR(関係人口創出イベントレポート)を実施した。 ・自治会との会議は、各島しょ地域の自治会に伺い、延べ18回実施した。事業開始前は事業の目的、事業運営中は事業の状況等を説明した。また、ツアーに自治会がかかわる際には、何度も訪問し、ツアー調整を行った。 | | | | | | |
| 成果目標(指標)及び進捗状況 | 成果目標(指標) | | 基準値 (年度) | R4年度 | R5年度 | R6年度 | 目標値 (年度) |
| | 農作業等お仕事体験の参加世帯数 | 目標 | () | (15 世帯) | (15 世帯) | (10 世帯) | () |
| | | 実績 | | 15 世帯 | 12 世帯 | 12 世帯 | |
| | プロジェクト創出型の参加世帯数 | 目標 | () | (5 世帯) | (5 世帯) | (5 世帯) | () |
| | | 実績 | | 5 世帯 | 5 世帯 | 5 世帯 | |
| | 進捗状況説明 | ・短期仕事体験型ツアー(農作業や島でのお仕事を体験)が4回、プロジェクト創出型ツアー(地域の課題を島外の人と共に取り組む)を5回実施し、地域への滞在者世帯数は総計27世帯57名であった。 ・プロジェクト創出件数は各島ごと(浜比嘉島、宮城島、伊計島、津堅島、PR)に5件実施した。 ・移住定住世帯数について、令和6年度は明確な移住希望者はいなかった。しかし、今後も地域のために活動したいという意欲を持つ参加者は11世帯21名と多い。 | | | | | |

| | 推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化) | 改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点) |
|-------|--|---|
| 取組の検証 | <p>【短期仕事体験型ツアー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短期仕事体験型ツアーは2パターン実施。1つ目が主に県外者を対象に3泊4日で島に滞在しながら、島民との交流、集落作業・仕事のお手伝いなどが体験できるプログラムで、ツアー参加者は1世帯3名。参加者は今後も「うるま市島しょ地域との継続的な関係性希望」しており、本ツアーをきっかけに、島しょ地域への関わりに対する行動変容を起こしている。 ・もう1パターンは県内の関係人口候補者に向けて、月1回程度定期的に島で活動する島人をお手伝いする企画「アイランダーズ」を3か月間連続で実施。参加条件を満たしたのは11世帯21名。今後の地域活動等への参画意欲は「ぜひやりたい:100%」と、地域との継続的な関係性を求めている状況を生み出した。 <p>【プロジェクト創出型ツアー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト創出型ツアーにおいて、5つの島それぞれでプロジェクトを実施。島しょ地域の中で奮闘する事業者や地域住民と深く関わってもらうため、プロジェクトを実施する意義や目的、思いに共感してくれる島外からのパートナーを選定し、地域事業者等とつなぎ、ツアー参加となった。プロジェクト終了後もパートナーと地域事業者が連絡を取り合い、自主的にイベントを開催するなど、関係性を継続的に構築しつつある。 | <p>【島しょ地域住民との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度事業では、定期的に島に通えるきっかけがほしいという参加者の声があったことから、今年度は月1回の連続定期企画として実施。その結果、参加者が島に通う理由が明確化し定期的に訪れる流れが生まれた。その中から、参加者と地域の方が関係性を構築し、参加者が自発的に島の事業者のお手伝いを始めるケースも生まれた <p>【ツアー参加について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短期仕事体験型ツアーへのエントリーは4組に対し、参加者が1組であった。これは7月という時期で航空料金が高くなったことが原因でのキャンセルが複数発生した。開催時期は沖縄らしい雰囲気を味わえ、かつ台風が発生が少ない時期だが、この時期の実施に向けてはより早い選考プロセスを設計するなどの工夫が必要である。 <p>【住居と仕事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の参加者は2地域居住的な関わり方のニーズがあった。自身の仕事環境は自分で確かめられる一方、子どもたちの教育環境を確かめるための教育留学や区域外就学制度の活用などへの期待が寄せられた。 |

今後の取り組み方針

・島しょ地域と関わりたい潜在ニーズを持つ関係人口候補者に対し地域の自治会や事業者が連携することで、地域の根源的な課題である活動人口不足の解決にアプローチできる可能性があると推察でき、この取り組みをコミュニティ化することが重要ではあるが、その取り組みを推進するための人材が地域の内部にすることが望ましいが、現状では地域の自治会や事業者が担うことは難しい。そこでその役割を組織的に担える中間支援機能が存在することに意義がある。中間支援機能を持った組織が地域と向き合いながら活動を継続するためには、地域自らがその組織の必要性を認識し、地域でサポートする仕組みの確立と、一方で行政もその中間支援機能を持った組織のサポートを行うことが必要である。今後はそれぞれの役割を認識し、相互に必要な性をたしかめながら地域における活動人口・関係人口の獲得に取り組むこととする。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何をを行っているかについて補足する)(単位:千円)



| 資金の流れの点検・費目・評価 | 評価 | 点検項目 | 評価に関する説明 |
|----------------|----|--------------------------------|--|
| | ○ | 支出先の選定方法は妥当か。 | ○委託事業者は公募型プロポーザルにて選定しており、妥当であった。 |
| | ○ | 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。 | ○不用額は24,755円であり、適正な規模であった。 |
| | ○ | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | ○受益者であるツアー参加者は、航空賃や宿泊費等負担していることから妥当であった。 |
| | ○ | 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | ○費目、使途については、精算段階で検査を実施しており、妥当であった。 |

| | | | | | | | |
|---|---|---|-------------|---------------|----------------------|----------------|----------|
| 市町村名 | うるま市 | | | | | | |
| 令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】 | | | | | | | |
| 事業番号・事業名 | 10 | 地域防災力強化事業 | | | 新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 | 4-2-(4)-ア | |
| 担当部署名 | 企画部 危機管理課 | 事業実施(予定)年度 | 令和4年度～令和9年度 | | 沖縄振興基本方針該当箇所 | 危機管理体制の強化 | |
| 事業内容 | 災害時において、いち早く活動できる自主防災組織(自主防災会)の活動強化のため、災害のしくみや、実践的な知識と技能を学ぶため、防災士の資格取得支援や防災資機材の点検及び整備等の支援を行う。また、令和5年度から自主防災会が実施する防災訓練や防災研修にも活動支援補助を行い、地域の組織力の醸成を目的とする。 | | | | | | |
| 効果発現年度 | <input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度) | | | | | | |
| 実施方法 | <input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他() | | | | | | |
| 予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース) | | R2年度 | R3年度 | R4年度 | R5年度 | R6年度 | |
| | 予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d) | | 8,000 | 10,000 | 7,945 | 12,500 | 24,197 |
| | | | 8,000 | 10,000 | 7,945 | 12,500 | 11,115 |
| | | | 0 | 0 | 0 | 0 | ▲ 13,082 |
| | | | | | 0 | 0 | 0 |
| | | | 8,000 | 10,000 | 7,945 | 12,500 | 11,115 |
| | B. 執行済額 うち交付金充当額 | | 8,000 | 10,000 | 5,334 | 6,420 | 11,001 |
| | | | 6,400 | 8,000 | 4,267 | 5,136 | 8,801 |
| | 次年度繰越額 | | | | 0 | 0 | |
| | 執行率(%) (B/A) | | 100.0% | 100.0% | 67.1% | 51.4% | 99.0% |
| 予算の状況の説明 | 不用額については、委託費の契約残によるものである。 | | | | | | |
| 活動目標(指標)及び達成状況 | 活動目標(指標) | | 達成状況 | | | | |
| | | | R3年度 | R4年度 | R5年度 | R6年度 | |
| | 防災士資格取得講座案内数 | 目標 | () | (61人) | (50人) | (30人) | |
| | | 実績 | | 37人 | 18人 | 7人 | |
| | 防災資機材支援対象団体調整 | 目標 | (5団体) | (10団体) | (10団体) | (17団体) | |
| | | 実績 | 5団体 | 10団体 | 12団体 | 17団体 | |
| | 防災活動支援対象団体調整 | 目標 | () | () | (61団体) | (30団体) | |
| | | 実績 | | | 17団体 | 8団体 | |
| | 防災教育講座開催に向けた委託先との調整 | 目標 | () | () | () | (4回) | |
| | | 実績 | | | | 4回 | |
| 災害被災地視察先調整 | 目標 | () | () | (自主防6人市職2人) | (自主防4人市職4人) | | |
| | 実績 | | | 自主防6人市職2人 | 自主防4人市職4人 | | |
| 市全域防災マップ作成 | 目標 | () | () | | (60,000部) | | |
| | 実績 | | | | 70,000部 | | |
| 達成状況説明 | <ul style="list-style-type: none"> ・防災士資格取得については、希望者(15名程度)が少なく、その上、講座を開催する大庭学園の申し込みが受付からすぐに定数に達し出来なかった状況。 ・活動支援補助事業については、自主防災会(自治会)の年間行事が多く、予定日が確保できない理由が多かった。 | | | | | | |
| 成果目標(指標)及び進捗状況 | R6成果目標(指標) | | 基準値(年度) | R4年度 | R5年度 | R6年度 | 目標値(年度) |
| | 防災士資格取得者数 | 目標 | () | (61人) | (50人) | (30人) | () |
| | | 実績 | | 37人 | 18人 | 7人 | |
| | 防災資機材支援補助 | 目標 | () | (10団体) | (10団体) | (17団体) | () |
| | | 実績 | | 10団体 | 12団体 | 17団体 | |
| | 防災活動支援補助 | 目標 | () | (30団体) | (30団体) | (30団体) | () |
| | | 実績 | | 19団体 | 18団体 | 8団体 | |
| | 防災教育講座開催数 | 目標 | () | () | (2回) | (1回(100人以上)) | () |
| | | 実績 | | | 2回 | 100% | |
| | 進捗状況説明 | <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に補助事業を取り組んだ自主防災会(自治会)は、防災士資格取得者を組織図に加えること、防災資機材を整備することで少しずつ強化に繋がっている。防災講座を受講し災害に備える考えも変化し、自主防災会と近隣との協働体制も構築を検討している。県外の被災地視察では、その被災地区で防災関係者と交流をとることで自主防災会の課題に対して解決に向けて取り組む姿勢がみられる。特に活動支援事業を実施した自主防災会からは、防災意識や防災力が向上するので継続的に実施したい要望がある。次年度には、商業地区の防災力の強化に向けて自主防災会結成の調整を図る。 ・防災士資格取得については、希望者(15名程度)が少なく、その上、講座を開催する大庭学園の申し込みが受付からすぐに定数に達し出来なかった状況。 ・活動支援補助事業については、自主防災会(自治会)の年間行事が多く、予定日が確保できない理由が多かった。 | | | | | |

| 取組の検証 | 推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化) | 改善余地の検証(効率の更なる向上の視点) |
|-------|---|---|
| | <p>(推進上の問題点)</p> <ul style="list-style-type: none"> 補助事業について、防災対策への取り組みが遅い自主防災会(新会長等)があるため、全自主防災会会長(自治会長)が集まる会議へ出向き事業の内容説明を行う。 防災士資格取得の希望者や推薦者を採るのが困難な状況があり、比較的高齢な方の受講者が多かった。また、50人以上の受講者がいなければ開催しない防災士機構の条件もある。防災講座を開催する大庭学園と開催時期等の調整が必要である。 資機材整備事業について、備える資機材等としてトイレの整備が必要である。 市全域防災マップは、次年度に全世帯へ配布。住民がハザードに関する知識が向上する。 防災講座、被災地等の視察について、講師及び視察先を調査し選択する。 活動支援補助事業について、自治会(自主防災会)の年間事業計画に組み込むことが厳しい自主防災会あった。 | <p>(自治会・自主防災会へ)</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災士資格取得者の募集について、大学生や専門学生等への情報提供を検証する。※将来の防災リーダー育成を目的に小中学校(低地帯)と連携した防災訓練を模索する。 <p>(自主防災会へ)</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業の内容を通知し、引き続き事業の対象となる自治会や自主防災組織(自主防災会)へ事業の説明及びアンケート調査を図り、防災力の向上に繋げる。 被災前後に必要な防災資機材情報の提供や区民を子供から高齢者まで多く集め、継続的に訓練や研修を実施し、住民の防災意識の向上が図られる。 |

今後の取り組み方針

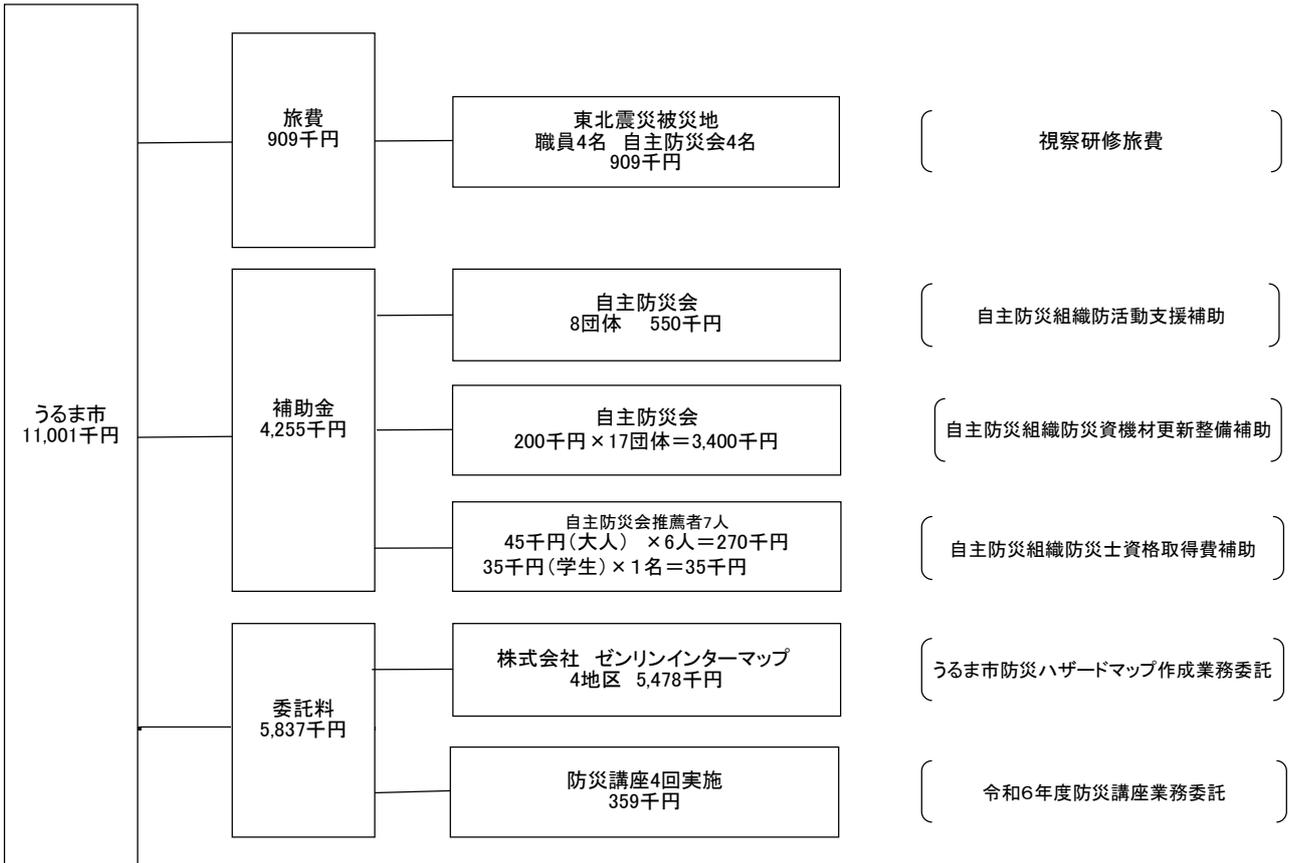
(自治会、自主防災会)

・防災士資格取得については、全自治会に推薦者の選任や推薦希望者の申請を受けることの必要性を説明する。資機材更新整備事業と活動支援事業は、対象の自主防災会へ連絡し、防災力向上に繋がる訓練や研修、資機材を整備することの取り組みを支援する。交付決定を受け次第、事務委託者会議等で事業説明を実施後、対象団体と業務調整を図る。

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

| 総事業費 | 交付対象事業費 | 交付金充当額 | 市町村負担金 | 交付対象外経費 |
|--------|---------|--------|--------|---------|
| 11,001 | 11,001 | 8,801 | 2,200 | 0 |



| 資金の流 れ、費 目・ 評価 | 評価 | 点検項目 | 評価に関する説明 |
|-------------------------|----|--------------------------------|--|
| | ○ | 支出先の選定方法は妥当か。 | ○業者は、基本的には自主防災会で選定しており、妥当である。 |
| | ○ | 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。 | ○受益者である自主防災会は、予算補助額の上限を超えた場合には、負担し事業を完了している。事業内容や他の事業の負担割合から判断しても妥当であった。 |
| | ○ | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | ○費目、使途については交付申請時や実績報告の段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。 |
| | ○ | 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | |

| | | | | | | | |
|--|---|---|--------------|----------------------|---------------|-------------|---------|
| 市町村名 | | うるま市 | | | | | |
| 令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】 | | | | | | | |
| 事業番号・事業名 | 11-① | うるま市公営墓地整備事業 | | 新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 | 第4章-2-(7)-(イ) | | |
| 担当部課名 | 市民生活部 環境政策課 | 事業実施(予定)年度 | 令和6年度～令和12年度 | 沖縄振興基本方針該当箇所 | 快適な生活環境の形成 | | |
| 事業内容 | 公益性、持続性のある公営墓地を整備し、個人墓地の散在化の防止及び公共福祉の増進並びに計画的な都市計画を図る。 | | | | | | |
| 効果発現年度 | ■当年度 ■後年度(令和13年度) | | | | | | |
| 実施方法 | <input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 () | | | | | | |
| 予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース) | | | R6年度 | | | | |
| | 予算の状況 | (a)当初予算額 | 12,727 | | | | |
| | | (b)予算現額 | 12,727 | | | | |
| | | (c)増減額(b-a) | 0 | | | | |
| | | (d)繰越額 | 0 | | | | |
| | | A.計(b+d) | 12,727 | | | | |
| | B.執行済額 | | 9,240 | | | | |
| | うち交付金充当額 | | 7,392 | | | | |
| | 次年度繰越額 | | 0 | | | | |
| | 執行率(%) (B/A) | | 72.6% | #DIV/0! | #DIV/0! | #DIV/0! | #DIV/0! |
| 予算の状況の説明 | | 令和6年度は公営墓地建設候補地選定調査業務を委託料により実施。不用額については、委託の入札残によるものである。 | | | | | |
| 活動目標(指標)及び達成状況 | 活動目標(指標) | | 達成状況 | | | | |
| | | | R6年度 | | | | |
| | うるま市公営墓地建設候補地選定調査業務の業務委託を行う。 | 目標 | (業務委託の実施) | () | () | () | |
| | | 実績 | 業務委託の実施 | | | | |
| | | 目標 | () | () | () | () | |
| 実績 | | | | | | | |
| 達成状況説明 | うるま市公営墓地建設候補地選定調査業務を実施するため、入札により業者選定を行い業務委託を行った。 | | | | | | |
| 成果目標(指標)及び進捗状況 | 成果目標(指標) | | 基準値(年度) | R6年度 | | 目標値(令和13年度) | |
| | 公営墓地建設候補地(複数)の選定を行う。 | 目標 | () | (8地点) | () | () | |
| | | 実績 | | 8地点 | | | |
| | | 目標 | () | () | () | () | |
| | | 実績 | | | | | |
| 進捗状況説明 | うるま市公営墓地建設候補地選定調査業務を実施し、公営墓地建設候補地の選定(8地点)について目標を達成した。 | | | | | | |

| 推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化) | | 改善余地の検証(効率の更なる向上の視点) |
|---|--|-----------------------------------|
| 取組の検証 | 墓地需要の動向及び今後の公営墓地の在り方等を常時情報収集し、事業を進めていくにあたり時代に合った公営墓地となるよう留意する。 | 他自治体及び民間の墓地経営について調査研究を進めていく必要がある。 |
| | 今後の取り組み方針 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・公営墓地整備に向けた委員会を発足させ、今回の調査内容及び課題等を整理し、整備に向けた取り組みの深化を図る。 ・整備基本計画、基本設計等を策定予定。 | | |

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

| 総事業費 | 交付対象事業費 | 交付金 | | 交付対象外経費 |
|-------|---------|-------|--------|---------|
| | | 充当額 | 市町村負担金 | |
| 9,240 | 9,240 | 7,392 | 1,848 | 0 |



| 資金の流 れ、費 目・ 評価 | 評価 | 点 検 項 目 | 評価に関する説明 |
|-------------------------|----|--------------------------------|--|
| | ○ | 支出先の選定方法は妥当か。 | ○委託業者は入札により選定しており妥当と考える。 ○複数業者の参考見積書により予算規模が設定されており、適正な規模と考える。 ○公営墓地建設候補地の選定は事業に不可欠な業務である。 |
| | ○ | 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。 | |
| | - | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | |
| | ○ | 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | |